# 令和2年度 長門市地域福祉計画策定に係る アンケート調査報告書

【集計結果】

令和3年3月

長門市

## 《目次》

第1章	調査方法	1
第2章	調査結果	2
回答者につ	いして	2
地域での生	活について	9
住民活動・	地域福祉活動について	35
災害につい	٦ <del>-</del>	54
福祉サービ	これについて	66
ともに助け	合い、支え合う地域づくりについて	87
新型コロナ	- ウイルス感染症について	116

## 第1章 調查方法

1. 実施概要

〇調査対象者: 令和3年1月1日現在、長門市に住んでいる18歳以上の方

〇対象者数 : 3,000 人

〇調査期間: 令和3年1月21日~令和3年2月5日まで

〇調査方法: 郵送による配布回収

#### 2. 回収結果

配布数	有効回収数	有効回収率		
3,000 件	1, 439 件	48. 0%		

#### 3. 調査集計にあたっての留意事項

〇回答結果は小数点第2桁目を四捨五入しています。この関係で、単回答(複数の選択肢から一つだけを選ぶ形式)の合計値がちょうど「100.0」にならない場合があります。

- ○複数回答(2つ以上の回答を選ぶ形式)における割合についての単位はパーセントとしています。この場合、回答は有効標本数全体に対して各々の割合を示すものであり、各選択肢の回答を合計しても「100.0」とはなりません。
- 〇本報告書における「N」「SA」「MA」「FA」「数量」は、それぞれ

「N」 =サンプル数のこと

「SA」 =単回答のこと(Single Answer の略)

「MA」 =複数回答のこと (Multiple Answer の略)

「FA」 =自由回答のこと (Free Answer の略)

「数量」 =数量回答のこと

を示します。

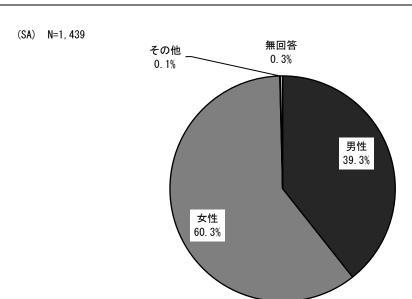
- ○図表中において「無回答」とある項目については、「回答のなかったもの」、もしくは「判別ができなかったもの」を表しています。
- ○本文中の設問の選択肢について、長い文は簡略化している場合があります。
- 〇本報告書において横棒グラフでの表示計は、グラフ表示が煩雑になるため、比率の極めて低い もの(4.0%未満)は数値の表示を省略しております。
- 〇本報告書においてクロス集計は、無回答があるため、合計人数は全体の人数と合致しません。
- ○クロス集計で、母数が少ない項目に関しては、分析文を省略しています。
- ○性別「その他」については、個人の特定につながる恐れがあるため、性別ごとのクロス集計には 含めておりません。

## 第2章 調査結果

## 回答者について

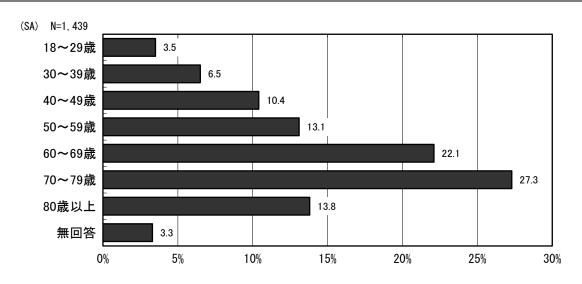
#### 問 1 ① 性別(SA)

「女性」が60.3%、「男性」が39.3%となっています。



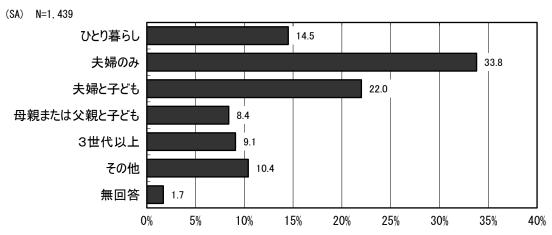
#### 問1② 年齢(数量)

「 $70\sim79$  歳」が 27.3%で最も高くなっています。次いで「 $60\sim69$  歳」が 22.1%、「80 歳以上」が 13.8%で続いています。



## 問 1 ③ 家族構成(SA)

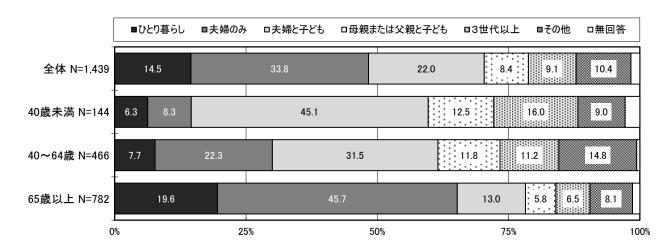
「夫婦のみ」が 33.8%で最も高くなっています。次いで「夫婦と子ども」が 22.0%、「ひとり暮らし」が 14.5%で続いています。



その他回答	類似回答数	その他回答	類似回答数
夫婦とその親	31	孫2人と	1
母親と子ども	12	娘夫婦子ども2人本人1人	1
夫婦と義理の親	10	若夫婦、孫、弟	1
両親と同居	9	義姉と二人暮らし	1
子どもと同居	8	夫婦と施設入所の母	1
2世代	7	夫婦と子どもと母親	1
子ども夫婦と同居	5	夫婦と子どもと孫	1
両親と子ども	4	長男夫婦と孫娘	1
夫婦と親	3	長男夫婦、子ども、祖母	1
父親と子ども	2	姉夫婦と自分	1
姉と母	2	祖父母	1
子ども夫婦	2	祖父母、子ども	1
義母と2人暮らし	2	夫婦、兄妹	1
長男夫婦と同居	2	義弟と子	1
夫婦と施設入所の母	1	兄弟	1
2世帯。子ども1	1	夫婦と叔父	1
甥2人	1	両親、祖母、兄弟	1
母親、妻、本人	1	長男と自分	1
実父は入院中	1		

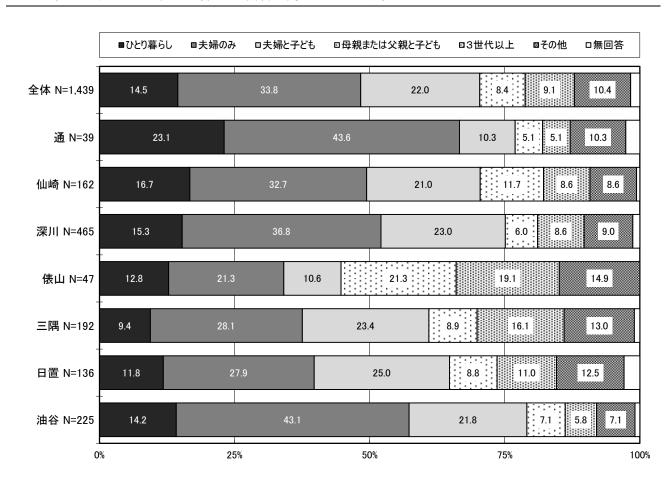
#### 年代×家族構成

65歳以上では、他の年代と比べて「ひとり暮らし」「夫婦のみ」の割合が高くなっています。

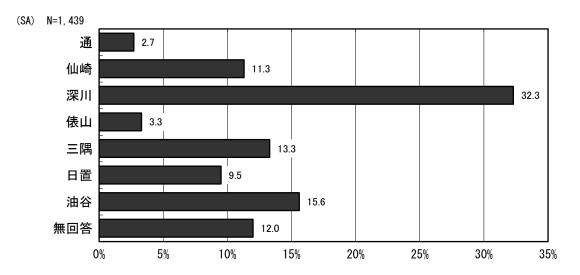


#### 地区別×家族構成

通では他の地域と比べて、ひとり暮らしの割合が高くなっています。

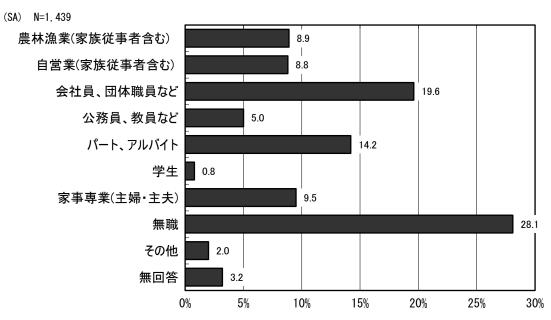


#### 問1④ お住まいの地区(SA)



#### 問15 ご職業(SA)

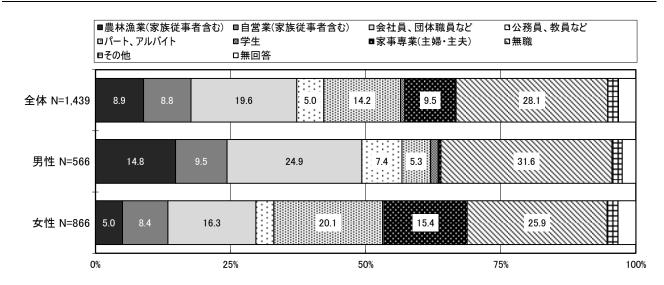
「無職」が 28.1%で最も高くなっています。次いで「会社員、団体職員など」が 19.6%、「パート、アルバイト」が 14.2%で続いています。



その他回答	類似回答数	その他回答	類似回答数
介護職	3	代行運転	1
会社役員	3	サービス業	1
年金生活	2	医療職	1
外国航路船員	1	福祉	1
代行運転	1	フルタイマー	1
住職	1	団体職員	1
看護師	1	派遣	1

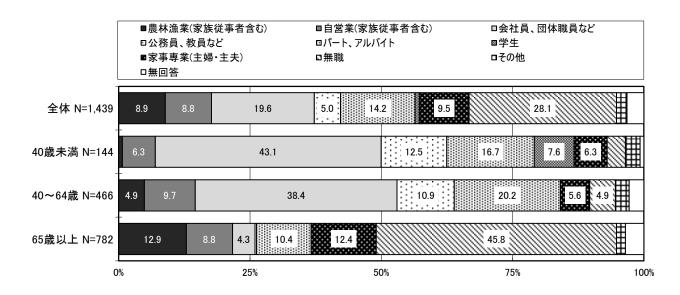
#### 性別×職業

女性は男性と比べて「パート、アルバイト」「家事専業(主婦・主夫)」の割合が高くなっています。



#### 年代×職業

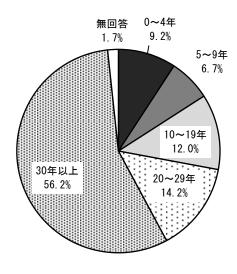
65歳以上では、他の年代と比べて「無職」「農林漁業(家族従事者含む)」の割合が高くなっています。



## 問1⑥ 居住年数(合併前も含む)(SA)

「30年以上」が56.2%で突出しています。「20~29年」が14.2%、「10~19年」が12.0%で続いています。

(SA) N=1, 439



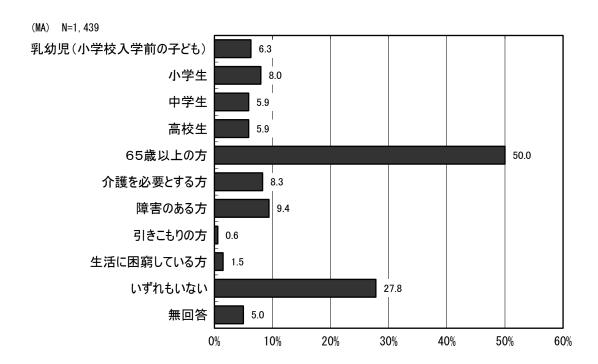
## 地区別×居住年数

俵山では他の地域と比べて「30年以上」の割合が高くなっています。

	全体	通 N=39	仙崎	深川	俵山	三隅	日置	油谷
	N=1,439	世 い-35	N=162	N=465	N=47	N=192	N=136	N=225
0~4年	9.2	5.1	11.1	12.7	6.4	8.9	4.4	3.6
5~9年	6.7	I	8.0	10.1	ı	4.7	4.4	4.4
10~19年	12.0	5.1	11.7	14.4	4.3	12.0	15.4	8.0
20~29年	14.2	17.9	11.7	14.0	8.5	14.6	20.6	14.7
30年以上	56.1	71.8	<b>5</b> 6.8	47.5	80.9	58.9	54.4	66.7
無回答	1.7	-	0.6	1.3	_	1.0	0.7	2.7

# 問2 あなたが現在一緒に住んでいるご家族の中に、あなた自身も含め、次のような方はおられますか。(MA)

- 「65 歳以上の方」が 50.0%で突出しています。「いずれもいない」が 27.8%、「障害のある方」が 9.4%で続いています。



#### 地区別×問2

俵山では他の地区と比べて、「65歳以上の方」「介護を必要とする方」の割合が高くなっています。

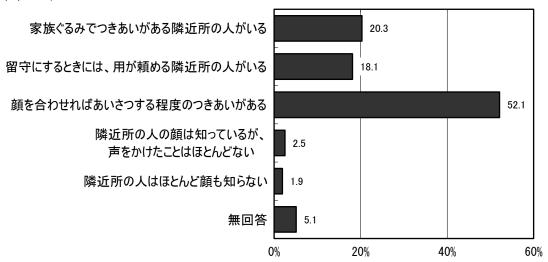
	全体	通 N=39	仙崎	深川	俵山	三隅	日置	油谷
	N=1,439	班 11-29	N=162	N=465	N=47	N=192	N=136	N=225
乳幼児(小学校入学前の子ども)	6.3	2.6	5.6	8.0	_	7.8	7.4	3.1
小学生	8.0	7.7	8.6	11.0	_	9.9	6.6	3.6
中学生	5.9	5.1	5.6	7.1	2.1	7.8	4.4	3.1
高校生	5.9	5.1	4.3	6.5	10.6	6.8	6.6	3.6
65歳以上の方	50.0	43.6	<b>52</b> .5	46.5	68.1	53.6	55.1	52.0
介護を必要とする方	8.3	12.8	9.9	7.1	19.1	8.3	8.8	7.6
障害のある方	9.4	10.3	6.8	8.6	12.8	10.9	14.7	8.0
引きこもりの方	0.6	_	0.6	0.4	_	1.0	_	0.9
生活に困窮している方	1.5	-	1.2	1.5	4.3	0.5	0.7	3.1
いずれもいない	27.8	35.9	27.2	29.7	21.3	25.0	25.0	31.1
無回答	5.0	5.1	4.9	4.3	_	2.1	2.9	6.2

## 地域での生活について

#### 問3 あなたはご近所の方とどの程度のお付き合いをされていますか。(SA)

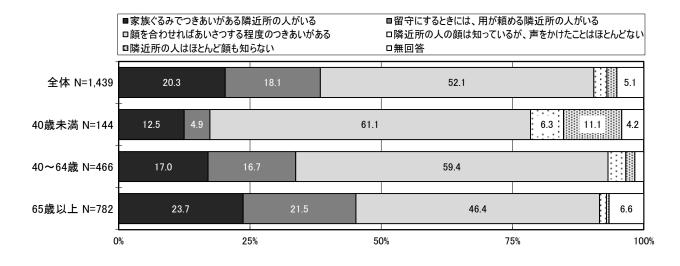
「顔を合わせればあいさつする程度のつきあいがある」が 52.1%で突出しています。「家族ぐるみでつきあいがある 隣近所の人がいる」が 20.3%、「留守にするときには、用が頼める隣近所の人がいる」が 18.1%で続いています。

(SA) N=1, 439



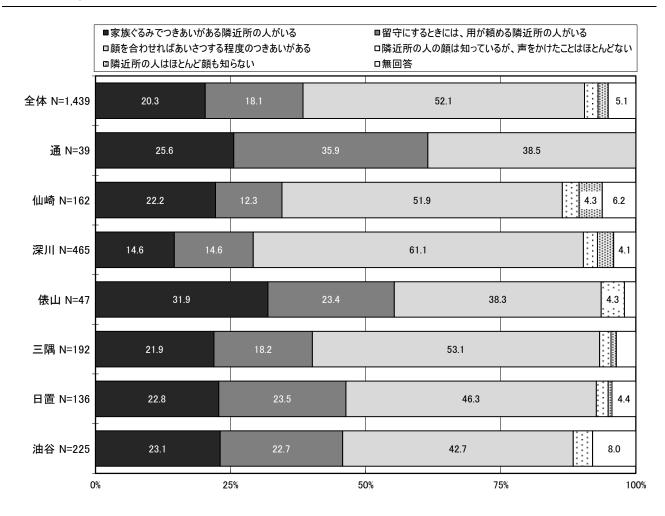
#### 年代別×問3

40歳未満では、他の年代と比べて「隣近所の人はほとんど顔も知らない」の割合が高くなっています。



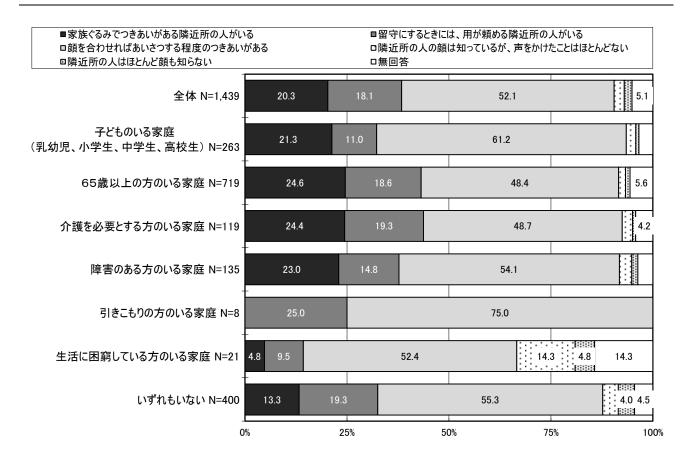
#### 地区別×問3

俵山では「家族ぐるみでつきあいがある隣近所の人がいる」、通では「留守にするときには、用が頼める隣近所の人がいる」、深川では「顔を合わせればあいさつする程度のつきあいがある」の割合がそれぞれ他の地区と比べて高くなっています。



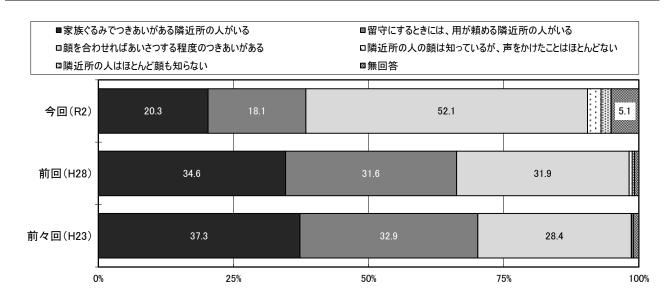
#### 世帯構成×問3

生活に困窮している人のいる家庭では、他の世帯構成と比べて「隣近所の人の顔は知っているが、声をかけたことはほとんどない」の割合が高くなっています。



#### <問3 経年比較>

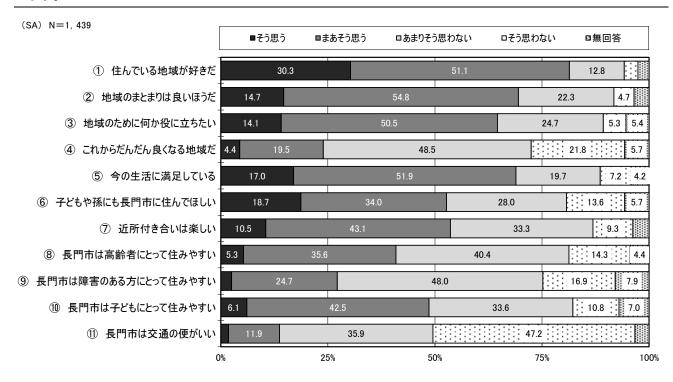
前回、前々回と比較して「顔を合わせればあいさつする程度の付き合いがある」の割合が大幅に高くなり、50%を超えています。



#### 問4 あなたは次のことについて、どのようにお考えですか。

「そう思う」「まあそう思う」をあわせた肯定率は「住んでいる地域が好きだ」が 81.4%と最も高く、次いで「地域のまとまりは良いほうだ」が 69.5%、「今の生活に満足している」が 68.9%で続いています。

「あまりそう思わない」「そう思わない」を合わせた否定率は「長門市は交通の便がいい」が83.1%で最も高く、次いで「これからだんだん良くなる地域だ」が70.3%、「長門市は障害のある方にとって住みやすい」が64.9%で続いています。

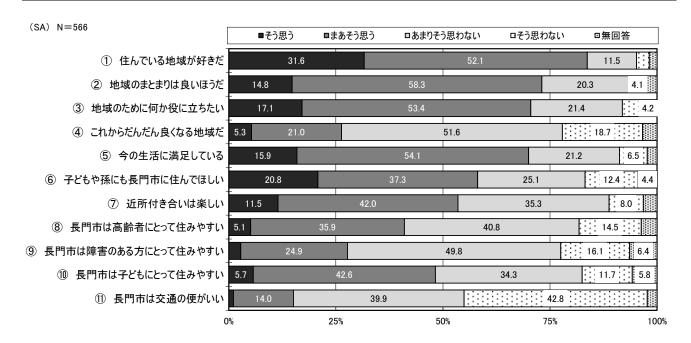


#### 性別×問4

#### 【男性】

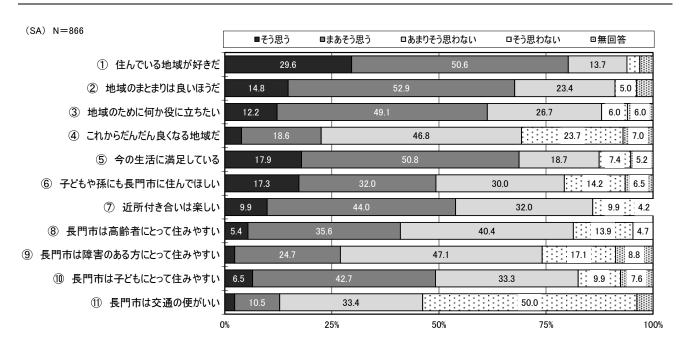
男性では、「そう思う」「まあそう思う」をあわせた肯定率は「住んでいる地域が好きだ」が 83.7%で最も高く、次いで「地域のまとまりは良いほうだ」が 73.1%、「地域のために何か役に立ちたい」が 70.5%で続いています。

「地域のために何か役に立ちたい」「子どもや孫にも長門市に住んでほしい」の割合は、女性と比べて高くなっています。



#### 【女性】

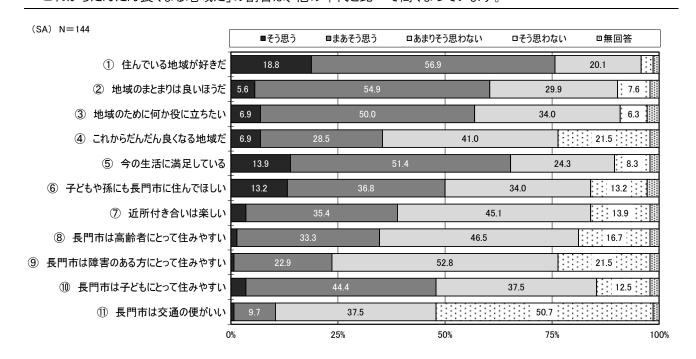
女性では、「そう思う」「まあそう思う」をあわせた肯定率は「住んでいる地域が好きだ」が 80.2%で最も高く、次いで「今の生活に満足している」が 68.7%、「地域のまとまりは良いほうだ」が 67.7%で続いています。



### 年代別×問4

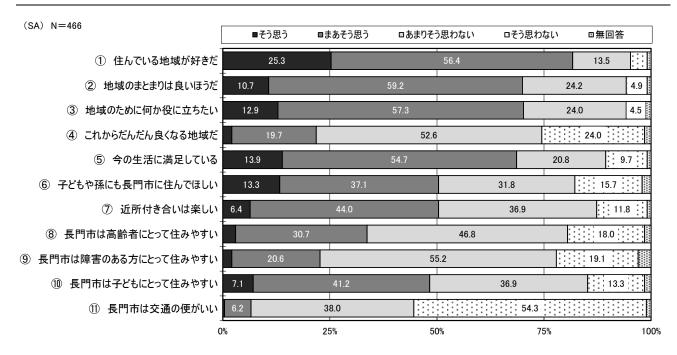
#### 【40 歳未満】

40 歳未満では、「そう思う」「まあそう思う」をあわせた肯定率は「住んでいる地域が好きだ」が 75.7%で最も高く、 次いで「今の生活に満足している」が 65.3%、「地域のまとまりは良いほうだ」が 60.5%で続いています。 「これからだんだん良くなる地域だ」の割合は、他の年代と比べて高くなっています。



#### 【40~64歳】

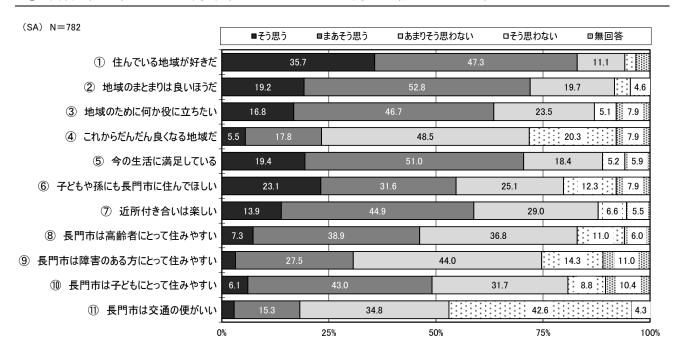
40~64 歳では、「そう思う」「まあそう思う」をあわせた肯定率は「住んでいる地域が好きだ」が 81.7%で最も高く、次いで「地域のために何か役に立ちたい」が 70.2%、「地域のまとまりは良いほうだ」が 69.9%で続いています。 「地域のために何か役に立ちたい」の割合は、他の年代と比べて高くなっています。



#### 【65 歳以上】

65 歳以上では、「そう思う」「まあそう思う」をあわせた肯定率は「住んでいる地域が好きだ」が 83.0%で最も高く、次いで「地域のまとまりは良いほうだ」が 72.0%、「今の生活に満足している」が 70.4%で続いています。

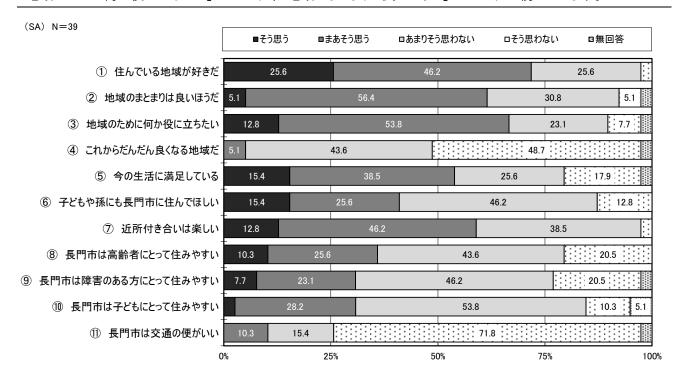
「長門市は高齢者にとって住みやすい」の割合は、他の年代と比べて高くなっています。また「近所付き合いは楽しい」の割合も他の年代と比べて高く、年代が上がるにつれて高くなる傾向にあります。



#### 地区別×問4

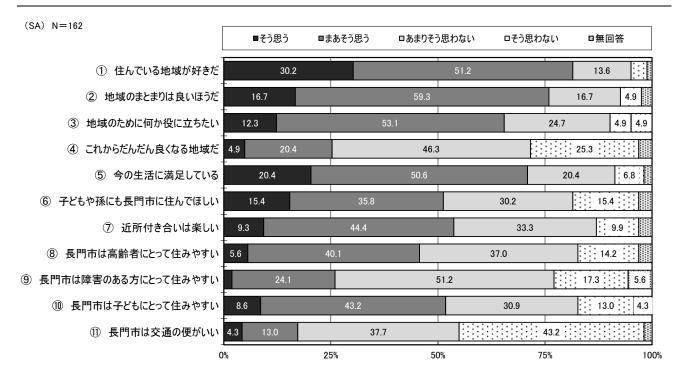
#### 【通】

通では、「そう思う」「まあそう思う」をあわせた肯定率は「住んでいる地域が好きだ」が 71.8%で最も高く、次いで「地域のために何か役に立ちたい」が 66.6%、「地域のまとまりは良いほうだ」が 61.5%で続いています。



#### 【仙崎】

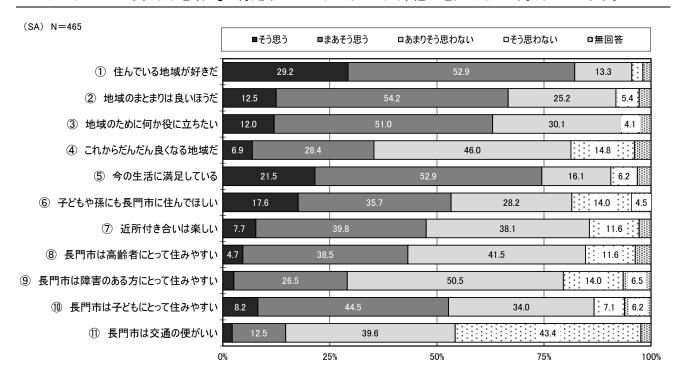
仙崎では、「そう思う」「まあそう思う」をあわせた肯定率は「住んでいる地域が好きだ」が 81.4%で最も高く、次いで 「地域のまとまりは良いほうだ」が 76.0%、「今の生活に満足している」が 71.0%で続いています。



#### 【深川】

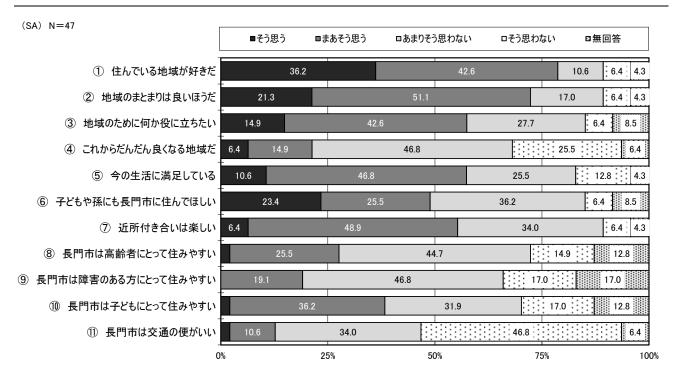
深川では、「そう思う」「まあそう思う」をあわせた肯定率は「住んでいる地域が好きだ」が 82.1%で最も高く、次いで「今の生活に満足している」が 74.4%、「地域のまとまりは良いほうだ」が 66.7%で続いています。

「これからだんだん良くなる地域だ」の肯定率は35.3%となっており、他の地区と比べて高くなっています。



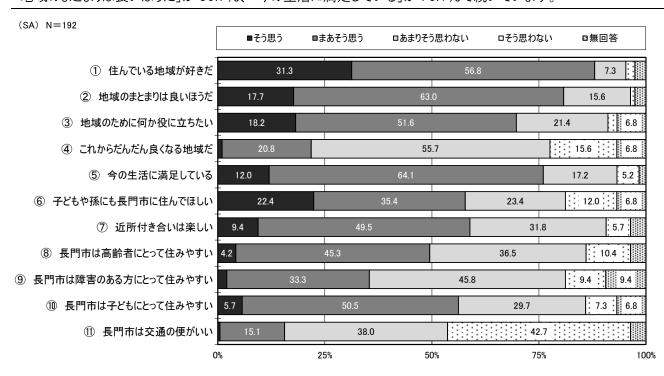
#### 【俵山】

俵山では、「そう思う」「まあそう思う」をあわせた肯定率は「住んでいる地域が好きだ」が 78.8%で最も高く、次いで 「地域のまとまりは良いほうだ」が 72.1%、「地域のために何か役に立ちたい」が 57.4%で続いています。



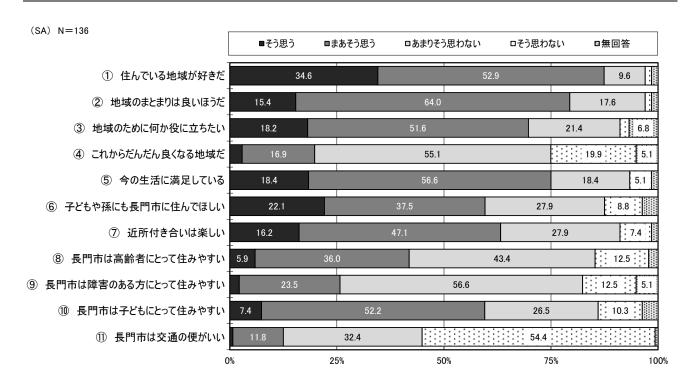
#### 【三隅】

三隅では、「そう思う」「まあそう思う」をあわせた肯定率は「住んでいる地域が好きだ」が 88.1%で最も高く、次いで「地域のまとまりは良いほうだ」が 80.7%、「今の生活に満足している」が 76.1%で続いています。



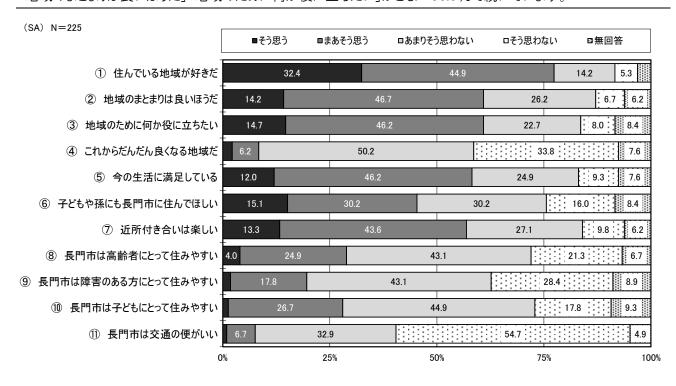
#### 【日置】

日置では、「そう思う」「まあそう思う」をあわせた肯定率は「住んでいる地域が好きだ」が 87.5%で最も高く、次いで「地域のまとまりは良いほうだ」が 79.4%、「今の生活に満足している」が 75.0%で続いています。



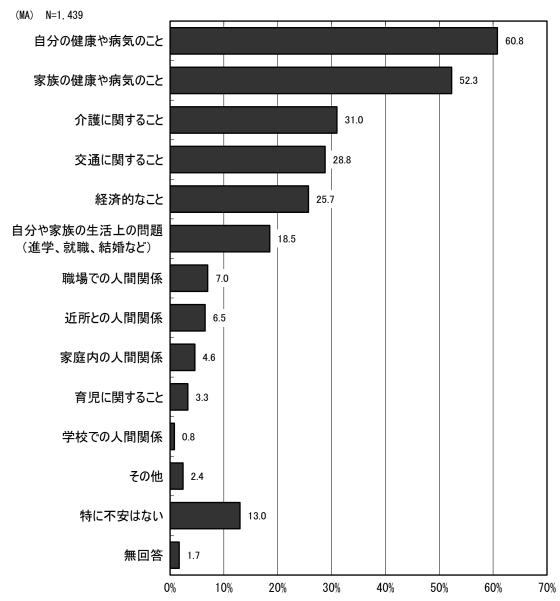
#### 【油谷】

油谷では、「そう思う」「まあそう思う」をあわせた肯定率は「住んでいる地域が好きだ」が 77.3%で最も高く、次いで「地域のまとまりは良いほうだ」「地域のために何か役に立ちたい」がともに 60.9%で続いています。



#### 問5 あなたは、日ごろ、どのようなことについて不安や悩みを感じていますか。(MA)

「自分の健康や病気のこと」が 60.8%で最も高くなっています。次いで「家族の健康や病気のこと」が 52.3%、「介護に関すること」が 31.0%で続いています。



その他回答	類似回答数
将来のこと、老後	4
長門市の将来	2
新型コロナのこと	2
免許返納後の生活	2
病院が少ない	2
山間地河川老朽化	1
セクマイなので住みづらい	1
地域の高齢化	1
山、畑	1
地域医療の衰退	1

その他回答	類似回答数
高齢化(自治会)	1
自分や家族の将来の生活のこと。子どもがいないため、通院や買い物が一人でできるか	1
などの不安がある	I
一人で住んでいるので、先行きが不安。具合が悪くなったらどうしようと思う	1
後継者	1
長門市の人口減少	1
障がいのある方への住み良いアパートなどをもっと増やしてほしい。交通の便を良くして	1
ほしい	1
仕事の内容について	1
交通の便が悪い。バス出発を青海島からあるように	1
地域のこと	1
高齢の弟妹	1
近所の喫煙	1
世界の平和について	1
教育環境に関すること	1
休日の子どもの診療	1

## 年代別×問5

40 歳未満では「育児に関すること」の割合が、40 歳以上では「介護に関すること」の割合が、それぞれ他の年代と比べて高くなっています。

年代が上がるにつれて「自分の健康や病気のこと」「交通に関すること」の割合が高くなり、「自分や家族の生活上の問題(進学、就職、結婚など)」「経済的なこと」の割合が低くなる傾向がみられます。

	全体	40歳未満	40~64歳	65歳以上
	N=1,439	N=144	N=466	N=782
自分の健康や病気のこと	60.8	29.2	52.8	71.2
家族の健康や病気のこと	52.3	40.3	57.9	51.8
自分や家族の生活上の問題(進学、就職、結婚など)	18.5	37.5	29.6	8.6
育児に関すること	3.3	20.1	2.8	0.6
介護に関すること	31.0	10.4	30.7	35.2
家庭内の人間関係	4.6	6.9	6.0	3.5
近所との人間関係	6.5	5.6	4.9	7.5
職場での人間関係	7.0	13.2	13.9	1.8
学校での人間関係	0.8	4.9	0.9	0.1
経済的なこと	25.7	38.9	31.3	20.1
交通に関すること	28.8	11.8	22.7	35.9
その他	2.4	3.5	3.9	1.3
特に不安はない	13.0	15.3	11.2	14.1
無回答	1.7	2.8	0.6	1.5

#### 世帯構成×問5

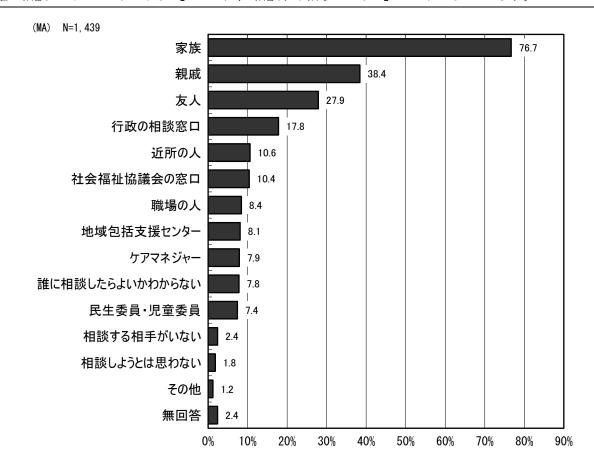
子どものいる家庭では「自分や家族の生活上の問題(生活、就職、結婚など)」「育児に関すること」、介護を必要とする方のいる家庭では「介護に関すること」、生活に困窮している方のいる家庭では「近所との人間関係」「経済的なこと」「交通に関すること」の割合が、それぞれ他の世帯構成と比べて高くなっています。

	全体 N=1,439	児、小学生、	65歳以上の 方のいる家 庭 N=719	介護を必要 とする方の いる家庭 N=119	方のいる家	引きこもりの 方のいる家 庭 N=8	生活に困窮 している方の いる家庭 N=21	いずれもい ない N=400
自分の健康や病気のこと	60.8	40.3	64.4	71.4	69.6	62.5	57.1	62.7
家族の健康や病気のこと	52.3	48.3	61.1	63.0	63.0	75.0	42.9	43.3
自分や家族の生活上の問題 (進学、就職、結婚など)	18.5	40.7	16.8	12.6	20.0	<b>62</b> .5	19.0	13.0
育児に関すること	3.3	14.1	0.8	_	0.7	_	_	1.8
介護に関すること	31.0	19.4	33.8	72.3	35.6	37.5	33.3	30.8
家庭内の人間関係	4.6	8.0	5.0	6.7	9.6	25.0	9.5	2.5
近所との人間関係	6.5	4.2	6.7	8.4	4.4	12.5	28.6	8.0
職場での人間関係	7.0	10.3	5.3	3.4	4.4	37.5	9.5	8.3
学校での人間関係	0.8	4.2	0.6	_	0.7	_	_	0.3
経済的なこと	25.7	33.8	26.1	30.3	30.4	50.0	66.7	24.5
交通に関すること	28.8	20.2	30.9	31.1	31.9	25.0	47.6	30.5
その他	2.4	3.8	2.5	3.4	0.7	-	-	2.0
特に不安はない	13.0	12.5	11.3	5.9	5.2	_	4.8	17.8
無回答	1.7	1.5	0.8	0.8	2.2	_	_	1.5

問6 あなたは、あなた自身や家族などが生活するうえで困ったとき、誰に、あるいはどこに相談しようと思いますか。(MA)

「家族」が 76.7%で突出しています。「親戚」が 38.4%、「友人」が 27.9%で続いています。

「誰に相談したらよいかわからない」が 7.8%、「相談する相手がいない」が 2.4%となっています。



その他回答	
兄弟•姉妹	4
自分の子ども	3
インターネットで調べる	2
セクマイなのでなかなか相談しづらい	2
身近な人	1
現在のところ特に考えたことがない	1
その内容による	1
自治会長	1

## 年代別×問6

年代が上がるにつれて「親戚」「近所の人」「民生委員・児童委員」「社会福祉協議会の相談窓口」「地域包括支援センター」「ケアマネジャー」の割合が高くなり、「友人」「職場の人」の割合が低くなる傾向がみられます。

	全体	40歳未満	40~64歳	65歳以上
	N=1,439	N=144	N=466	N=782
家族	76.7	84.0	82.0	73.1
親戚	38.4	20.1	39.3	41.7
近所の人	10.6	6.9	7.1	13.2
友人	27.9	48.6	37.1	18.9
職場の人	8.4	23.6	16.3	1.3
民生委員•児童委員	7.4	0.7	2.6	11.6
社会福祉協議会の窓口	10.4	2.8	7.7	13.6
行政の相談窓口	17.8	6.9	20.6	18.4
地域包括支援センター	8.1	0.7	5.6	11.3
ケアマネジャー	7.9	0.7	6.7	10.0
誰に相談したらよいかわからない	7.8	4.2	8.2	8.3
相談する相手がいない	2.4	0.7	2.1	2.7
相談しようとは思わない	1.8	3.5	1.5	1.7
その他	1.2	0.7	1.5	1.2
無回答	2.4	1.4	0.6	2.8

## 世帯構成×問6

生活に困窮している方のいる家庭では、他の世帯構成と比べて「誰に相談したらよいかわからない」「相談する相手がいない」の割合が高くなっています。

	全体 N=1,439	児、小学生、	65歳以上の 方のいる家 庭 N=719	とする万の	方のいる家	のいる家 方のいる家		いずれもい ない N=400
家族	76.7	87.8	78.9	73.1	70.4	50.0	47.6	<b>72</b> .8
親戚	38.4	30.8	42.1	42.0	33.3	25.0	42.9	40.0
近所の人	10.6	9.5	11.7	11.8	11.9	12.5	9.5	9.0
友人	27.9	41.8	23.6	16.8	24.4	12.5	4.8	28.2
職場の人	8.4	18.3	6.8	5.9	6.7	12.5	_	7.0
民生委員•児童委員	7.4	1.9	7.8	10.9	10.4	_	_	10.0
社会福祉協議会の窓口	10.4	4.6	11.5	15.1	17.0	12.5	23.8	10.0
行政の相談窓口	17.8	14.4	20.2	20.2	17.0	-	19.0	17.0
地域包括支援センター	8.1	3.4	10.0	16.0	11.1	_	9.5	7.5
ケアマネジャー	7.9	3.8	9.9	41.2	15.6	-	19.0	5.5
誰に相談したらよいかわからない	7.8	7.6	8.2	9.2	10.4	50.0	33.3	7.8
相談する相手がいない	2.4	1.1	2.2	3.4	3.7	12.5	19.0	2.5
相談しようとは思わない	1.8	0.8	1.7	2.5	3.0	-	-	2.5
その他	1.2	1.1	0.7	0.8	0.7	12.5	-	2.0
無回答	2.4	0.8	1.8	1.7	3.0	_	4.8	2.3

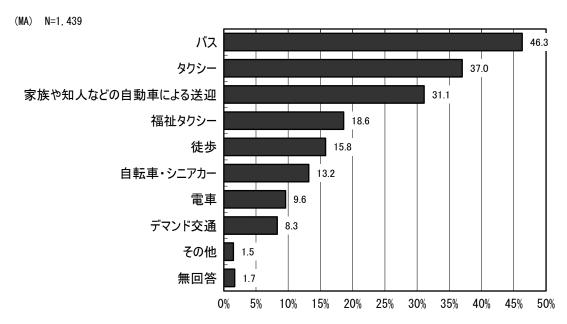
## 問3×問6

「隣近所の人の顔は知っているが、声をかけたことはほとんどない」という人では、その他の人と比べて「誰に相談したらよいかわからない」「相談する相手がいない」「相談しようとは思わない」の割合が高くなっています。

	全体 N=1,439		には、用が頼め る隣近所の人が	顔を合わせれば あいさつする程 度のつきあいが ある N=749	隣近所の人の顔 は知っている が、声をかけた ことはほとんど ない N=36	隣近所の人はほ とんど顔も知ら ない N=28
家族	76.7	83.2	75.1	76.9	69.4	57.1
親戚	38.4	49.0	42.5	34.3	27.8	14.3
近所の人	10.6	18.8	18.4	4.5	_	_
友人	27.9	34.6	28.4	25.8	36.1	21.4
職場の人	8.4	5.8	8.4	9.3	13.9	21.4
民生委員•児童委員	7.4	8.2	11.5	5.9	2.8	_
社会福祉協議会の窓口	10.4	10.3	15.7	9.1	2.8	7.1
行政の相談窓口	17.8	16.8	19.2	18.7	19.4	10.7
地域包括支援センター	8.1	10.6	10.3	7.2	5.6	_
ケアマネジャー	7.9	8.6	11.5	6.8	5.6	_
誰に相談したらよいかわからない	7.8	3.1	4.2	10.9	16.7	7.1
相談する相手がいない	2.4	_	0.8	3.3	13.9	3.6
相談しようとは思わない	1.8	1.0	1.1	1.6	11.1	7.1
その他	1.2	0.7	1.1	1.3	5.6	
無回答	2.4	2.1	0.4	1.3	_	3.6

### 問7 将来あなたが車を運転できなくなった場合(運転免許のない方も含む)、日常生活に 必要な外出時の交通手段はどれを利用したいですか。(MA)

「バス」が 46.3%で最も高くなっています。次いで「タクシー」が 37.0%、「家族や知人などの自動車による送迎」が 31.1%で続いています。



その他回答	類似回答数	その他回答	類似回答数
子どもの運転	3	タクシーに乗りたいがそんな余裕はない	1
他市への引っ越し、移住	2	出ない	1
その時にならないとわからない	2	汽車	1
乗り合いタクシーなどあると良い	2	安く自宅や目的地まで送迎してくれるもの	1
手段が取れない	1	タクシー以外何もない	1

#### 年代別×問7

年代が上がるにつれて「電車」「自転車・シニアカー」「徒歩」の割合が低くなり、「福祉タクシー」の割合が高くなる傾向がみられます。

	A / I		IF _L \		a = 1 = 141   1
	全体		40歳未満	40~64歳	65歳以上
	N=1,439	)	N=144	N=466	N=782
バス	46	6.3	49.3	48.9	44.1
電車	Ç	9.6	24.3	11.6	5.9
家族や知人などの自動車による送迎	31	.1	41.0	27.0	32.1
タクシー	37	'.O	37.5	32.4	39.5
福祉タクシー	18	3.6	8.3	16.3	22.0
デマンド交通	8	3.3	1.4	11.6	7.9
自転車・シニアカー	13	3.2	18.1	15.2	11.3
徒歩	15	5.8	18.1	17.8	14.5
その他	1	.5	_	2.1	1.3
無回答	1	.7	1.4	0.9	1.7

#### 地区別×問7

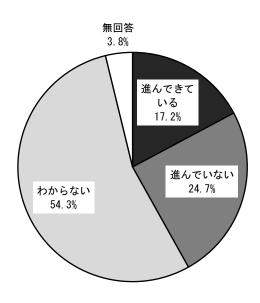
通では「バス」、俵山では「デマンド交通」、深川では「徒歩」の割合が、それぞれ他の地区と比べて高くなっています。

	全体	通 N=39	仙崎	深川	俵山	三隅	日置	油谷
	N=1,439	囲 い-39	N=162	N=465	N=47	N=192	N=136	N=225
バス	46.3	82.1	37.0	42.8	53.2	62.0	48.5	35.6
電車	9.6	-	8.0	7.5	_	6.3	19.9	15.6
家族や知人などの自動車による送迎	31.1	15.4	31.5	25.8	31.9	36.5	33.1	40.0
タクシー	37.0	15.4	48.8	44.3	8.5	34.4	32.4	29.8
福祉タクシー	18.6	30.8	18.5	15.3	23.4	15.6	22.8	21.8
デマンド交通	8.3	20.5	6.8	4.7	27.7	5.2	13.2	9.3
自転車・シニアカー	13.2	5.1	22.8	18.3	8.5	13.5	3.7	6.2
徒歩	15.8	-	17.9	27.3	10.6	6.8	5.1	8.9
その他	1.5	-	0.6	0.9	4.3	1.6	2.2	2.2
無回答	1.7	-	1.2	0.9	2.1	2.1	0.7	2.2

## 問8 障害のある人への理解は進んできていると思われますか。(SA)

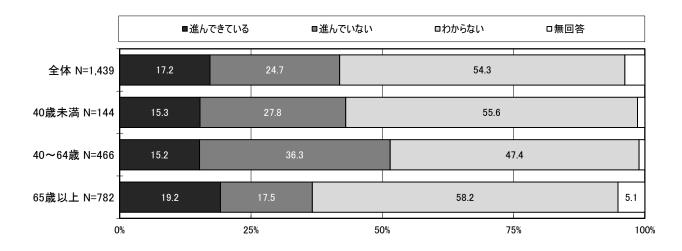
「わからない」が 54.3%を占めています。

(SA) N=1, 439



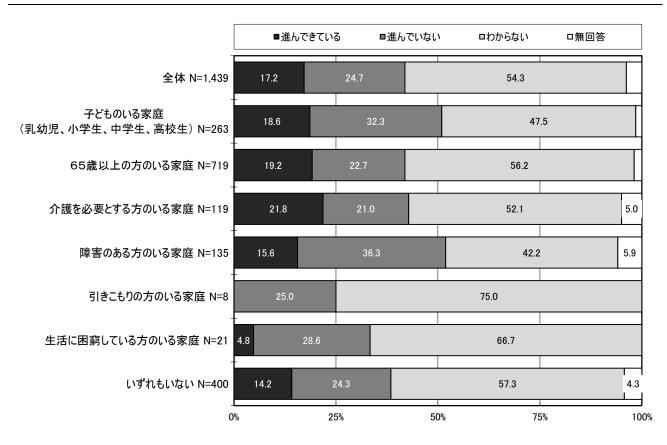
#### 年代別×問8

40~64歳では「進んでいない」の割合が他の年代と比べて高くなっています。



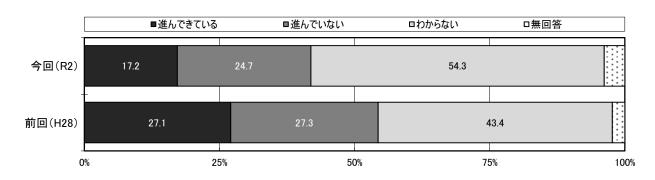
#### 世帯構成×問8

子どものいる家庭と障害のある方のいる家庭では、他の世帯構成と比べて「進んでいない」の割合が高くなっています。



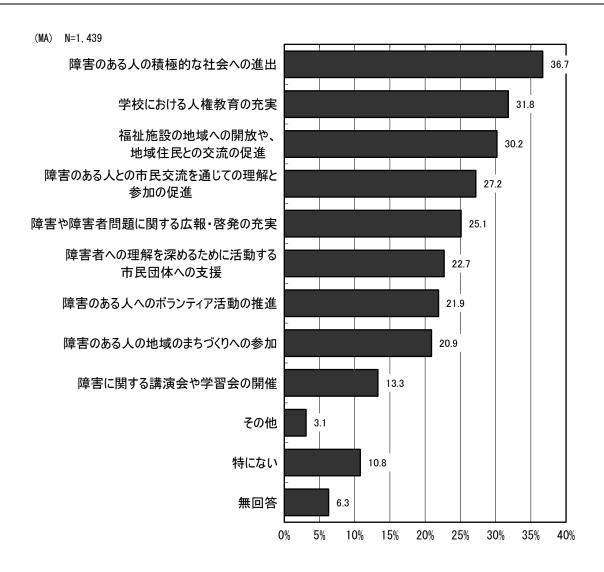
#### <問8 経年比較>

前回と比較すると、「わからない」の割合が高くなっています。



### 問9 障害のある人への理解を深めるために、必要と思われることは何ですか。(MA)

「障害のある人の積極的な社会への進出」が 36.7%で最も高くなっています。次いで「学校における人権教育の充実」が 31.8%、「福祉施設の地域への開放や、地域住民との交流の促進」が 30.2%で続いています。



わからない	
1/0/1/0/V	8
障がいのある人の雇用促進(そのための各事業所への行政からの働きかけや支援)	1
障がいのある人が何かをしないと意味がない	1
セクシャルマイノリティに対しての理解も取り入れてほしい	
孫に自閉症の子あり。もっと明るい未来を、もっと開けた未来を。もっと力を入れていただき	
たい。私も微力ながら参加し応援していきたい	
行政職員の心構え	1
とにかく交流の場を増やす。相互理解を深める。まず関わりを持つこと	1
自分の身で精一杯	1
障がい者に対する接し方、理解、家族の配慮、思いやりの心	
学校の先生の教育をすべきである	1
障がい者の雇用がない(仕事)	1
二人共障がい者なので、いろいろなことに参加したい気持ちは十分あるけれどできない(い	4
らいらする)	1
子どもの頃よりそのような幼友達がいたので、特に気を付けることはなく自然に付き合え	
る。私には必要のない項目である	
障がいのあることを知らなくて不遜な態度になることもある。誰がどのような障がいを持って	
いるのか知ることも必要	
バリアフリーのまちづくり(段差をなくすなど、物理的なこと)	1
障がい者の人の気持ちを重視するべき	1
どの程度の障がいの人かわからないので答えがまとまらない	1
長門市は障がい者に少し甘すぎるように思える。他の県や市は甘くはないのでもう少し調	
べる必要があるのでは。それだけ長門市にはお金があるのだろうか	
宇部市を参考にまずコミュニケーション条例から	1
小中高など、特別支援学級をなくし、健常者と同じクラスで一緒の時間を過ごし互いに学ぶ	1
よくわからないが現状でいいのではないか	1
障がい者の人をもっと理解すること。困っていることなど	
障がい者への積極的な公助から	
公共の支援	1
取り上げているうちは難しいのかも	1
障がいのあるお子さんを育てられている親(父、母)に当たる人にまずどこまで交流したい、	_
参加したいのか聞くことが大事だと思う	1
福祉施設	
障がいのある人が何かをしないと意味がない身近にいないのであまり理解できない	1
障がいを不幸と決めつけ、手助けをしてやっているとの考えを改めること	1
障がい者の給料は安過ぎる	1
乳幼児などの母親学級などで、理解を深める活動をする	

#### 年代別×問9

年代が上がるにつれて「障害者への理解を深めるために活動する市民団体への支援」の割合が高くなる傾向にあり、「障害のある人の積極的な社会への進出」「障害に関する講演会や学習会の開催」「学校における人権教育の充実」の割合が低くなる傾向がみられます。

	全体	40歳未満	40~64歳	65歳以上
	N=1,439	N=144	N=466	N=782
障害のある人の積極的な社会への進出	36.7	44.4	39.7	34.3
障害や障害者問題に関する広報・啓発の充実	25.1	19.4	27.5	24.6
障害に関する講演会や学習会の開催	13.3	16.0	15.9	11.3
福祉施設の地域への開放や、地域住民との交流の促進	30.2	22.9	34.5	29.4
障害者への理解を深めるために活動する市民団体への支援	22.7	17.4	22.7	23.8
学校における人権教育の充実	31.8	43.8	37.8	26.3
障害のある人へのボランティア活動の推進	21.9	21.5	22.3	21.9
障害のある人との市民交流を通じての理解と参加の促進	27.2	33.3	33.5	22.5
障害のある人の地域のまちづくりへの参加	20.9	21.5	24.0	19.3
その他	3.1	3.5	3.6	2.7
特にない	10.8	9.7	6.9	13.2
無回答	6.3	1.4	2.1	8.7

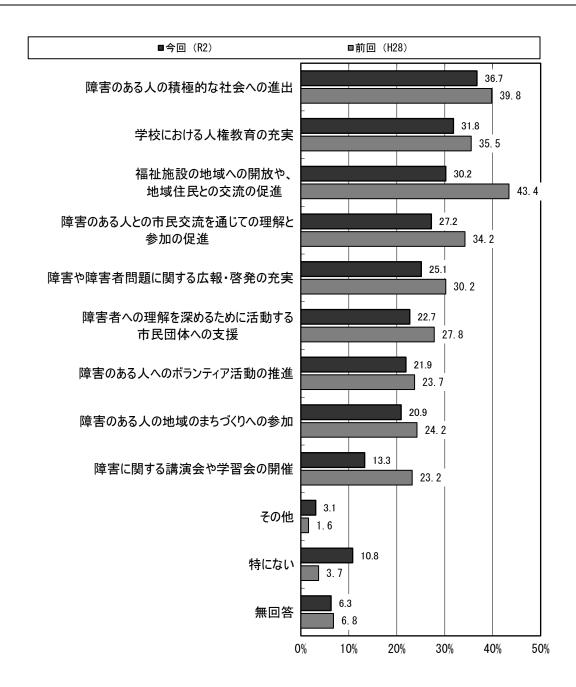
#### 世帯構成×問9

子どものいる家庭では「学校における人権教育の充実」「障害のある人との市民交流を通じての理解と参加の促進」の割合が、生活に困窮している方のいる家庭では「障害のある人へのボランティア活動の推進」の割合がそれぞれ他の世帯構成と比較して高くなっています。

	全体 N=1,439		65歳以上の 方のいる家 庭 N=719	介護を必要 とする方の いる家庭 N=119	方のいる家	引きこもりの 方のいる家 庭 N=8	生活に困窮 している方の いる家庭 N=21	いずれもい ない N=400
障害のある人の積極的な社会への進出	36.7	41.8	36.2	31.9	38.5	25.0	33.3	36.3
障害や障害者問題に関する広報・啓発の充実	25.1	25.1	28.0	26.9	24.4	37.5	14.3	23.0
障害に関する講演会や学習会の開催	13.3	15.2	13.2	16.8	12.6	12.5	19.0	12.3
福祉施設の地域への開放や、地域住民との 交流の促進	30.2	28.9	32.0	27.7	23.7	12.5	23.8	31.0
障害者への理解を深めるために活動する 市民団体への支援	22.7	18.6	24.2	25.2	22.2	12.5	28.6	21.3
学校における人権教育の充実	31.8	41.8	33.2	32.8	25.9	50.0	23.8	26.5
障害のある人へのボランティア活動の推進	21.9	18.6	20.3	27.7	17.0	12.5	33.3	24.8
障害のある人との市民交流を通じての理解と 参加の促進	27.2	33.8	26.6	21.0	20.0	37.5	14.3	25.5
障害のある人の地域のまちづくりへの参加	20.9	20.5	21.7	20.2	19.3	12.5	28.6	19.3
その他	3.1	2.3	2.8	7.6	4.4	ı	9.5	4.0
特にない	10.8	8.4	10.6	11.8	17.8	12.5	38.1	11.5
無回答	6.3	2.3	5.1	5.9	5.2	_	_	7.8

#### <問9 経年比較>

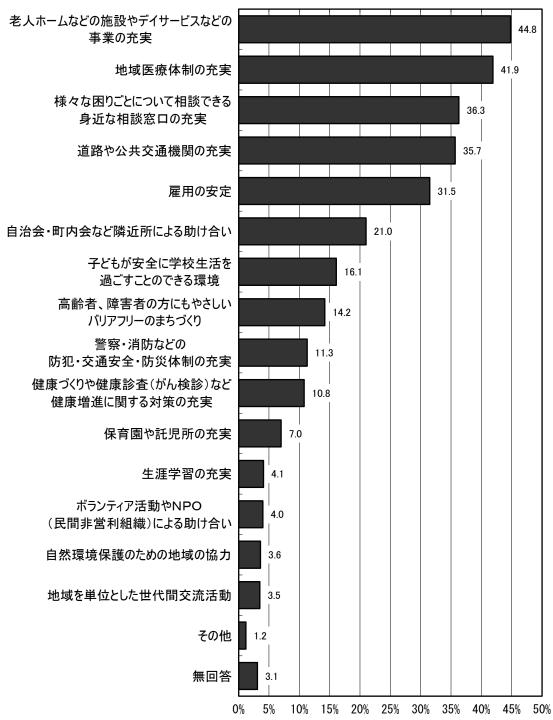
前回と比べて、項目ごとの割合は全体的に低くなっている傾向がみられます。中でも、「福祉施設の地域への開放や、地域住民との交流の促進」「障害に関する講演会や学習会の開催」については差が大きくなっています。



# 問 10 地域のなかで、安心して暮らしていくためには、どのようなことが大切だと思いますか。(MA)

「老人ホームなどの施設やデイサービスなどの事業の充実」が 44.8%で最も高くなっています。次いで「地域医療体制の充実」が 41.9%、「様々な困りごとについて相談できる身近な相談窓口の充実」が 36.3%で続いています。





その他回答	類似回答数
運動会、祭りなど、イベントに出席する人が高齢化している町内が多くなっている	1
高齢化しており若者が少ない	1
病院、医療の充実	1
市立病院を作ってほしい。手術ができる先生がいない。長門病院に補助を出して手術が	1
できる良い先生を雇ってほしい	1
少子高齢化の解消	1
産業の育成による地域の活性化	1
訪問介護の充実。シングル家庭の援助	1
消防隊(消防団)員への依頼リスペクト	1
小学校や幼稚園の多様化(フリースクールなどの促進)、小学校の暮らす人数を減らすな	1
ど(10 人など)	1
救急車が患者を乗せているのに病院へすぐに送ることができないこと。医師法によると患	1
者を拒むことはできないはずである	1
個人の隣近所による助け合い	1
孫が3人いるが、学校や保育園がなくなる通で結婚しろといえない。現在仕事をしている	4
ところで住みつくようすであり、それは反対できそうにもない	I
住民を増やす	1
車がなくても移動ができる町	1
WAVE の場所に何かできないのか	1
プライバシーを侵害しても平気な噂話がなくなること	1

#### 年代別×問10

40~64歳では「地域医療体制の充実」の割合が他の年代と比べて高くなっています。

年代が上がるにつれて「老人ホームなどの施設やデイサービスなどの事業の充実」「様々な困りごとについて相談できる身近な相談窓口の充実」「高齢者、障害者の方にもやさしいバリアフリーのまちづくり」「生涯学習の充実」「自治会・町内会など隣近所による助け合い」の割合が高くなり、「健康づくりや健康診査(がん検診)など健康増進に関する対策の充実」「道路や公共交通機関の充実」「雇用の安定」「子どもが安全に学校生活を過ごすことのできる環境」「保育園や託児所の充実」の割合が低くなる傾向がみられます。

	全体	40歳未満	40~64歳	65歳以上
	N=1,439	N=144	N=466	N=782
老人ホームなどの施設やデイサービスなどの事業の充実	44.8	34.7	40.3	49.2
様々な困りごとについて相談できる身近な相談窓口の充実	36.3	33.3	34.1	37.7
地域医療体制の充実	41.9	37.5	51.3	37.3
健康づくりや健康診査(がん検診)など健康増進に関する 対策の充実	10.8	16.7	10.9	9.7
警察・消防などの防犯・交通安全・防災体制の充実	11.3	12.5	12.7	10.2
道路や公共交通機関の充実	35.7	41.0		
高齢者、障害者の方にもやさしいバリアフリーのまちづくり	14.2	12.5	13.1	15.7
自然環境保護のための地域の協力	3.6	6.9	1.7	4.2
雇用の安定	31.5	49.3	48.7	18.5
子どもが安全に学校生活を過ごすことのできる環境	16.1	40.3	17.6	11.0
保育園や託児所の充実	7.0	28.5	6.0	3.8
地域を単位とした世代間交流活動	3.5	3.5	2.8	4.1
生涯学習の充実	4.1	0.7	2.6	5.2
自治会・町内会など隣近所による助け合い	21.0	6.3	13.5	28.1
ボランティア活動やNPO(民間非営利組織)による助け合い	4.0	2.8	4.1	4.1
その他	1.2	-	1.7	1.2
無回答	3.1	1.4	0.6	4.1

#### 世帯構成×問 10

子どものいる家庭では「雇用の安定」「子どもが安全に学校生活を過ごすことのできる環境」、介護を必要とする方のいる家庭は「老人ホームなどの施設やデイサービスなどの事業の充実」、生活に困窮している方のいる家庭は「様々な困りごとについて相談できる身近な相談窓口の充実」「健康づくりや健康診査(がん検診)など健康増進に関する対策の充実」「道路や公共交通機関の充実」「自治会・町内会など隣近所による助け合い」の割合が、それぞれ他の世帯構成と比べて高くなっています。

	N=1,439	児、小学生、	65歳以上の 方のいる家 庭 N=719	介護を必要 とする方の いる家庭 N=119	障害のある 方のいる家 庭 N=135	引きこもりの 方のいる家 庭 N=8	生活に困窮 している方の いる家庭 N=21	いずれもい ない N=400
老人ホームなどの施設やデイサービスなどの事業 の充実	44.8	35.7	48.7	54.6	44.4	37.5	42.9	42.8
様々な困りごとについて相談できる身近な 相談窓口の充実	36.3	26.6	38.4	38.7	40.0	37.5	57.1	36.8
地域医療体制の充実	41.9	43.7	42.4	43.7	38.5	25.0	33.3	40.0
健康づくりや健康診査(がん検診)など 健康増進に関する対策の充実	10.8	12.5	10.3	6.7	8.1	12.5	19.0	12.3
警察・消防などの防犯・交通安全・防災体制の充実	11.3	12.2	10.3	10.1	8.1	-	4.8	13.8
道路や公共交通機関の充実	35.7	38.0	36.4	37.0	40.0	25.0	57.1	34.0
高齢者、障害者の方にもやさしいバリアフリーの まちづくり	14.2	13.3	14.3	16.0	18.5	12.5	19.0	13.5
自然環境保護のための地域の協力	3.6	2.7	3.2	5.9	1.5	12.5	4.8	4.3
雇用の安定	31.5	47.9	31.0	34.5	29.6	50.0	33.3	28.0
子どもが安全に学校生活を過ごすことのできる環境	16.1	34.2	13.2	10.9	14.1	12.5	4.8	13.5
保育園や託児所の充実	7.0	14.1	5.3	4.2	7.4	-	9.5	6.0
地域を単位とした世代間交流活動	3.5	4.2	3.5	1.7	0.7	-	-	3.3
生涯学習の充実	4.1	3.0	4.9	0.8	3.7	12.5	-	4.8
自治会・町内会など隣近所による助け合い	21.0	12.2	22.9	21.8	13.3	12.5	28.6	23.5
ボランティア活動やNPO(民間非営利組織)による助け合い	4.0	1.9	3.2	3.4	5.2	12.5	23.8	5.5
その他	1.2	0.8	1.3	1.7	0.7	-	-	1.8
無回答	3.1	2.3	2.1	1.7	3.7	_	9.5	3.5

#### 地区別×問10

通では「老人ホームなどの施設やデイサービスなどの事業の充実」「地域医療体制の充実」「道路や公共交通機関の充実」の割合が他の地区と比べて高くなっています。

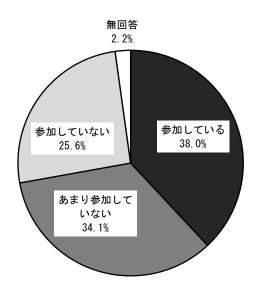
	全体	通 N=39	仙崎	深川	俵山	三隅	日置	油谷
	N=1,439	世 14-35	N=162	N=465	N=47	N=192	N=136	N=225
老人ホームなどの施設やデイサービスなどの事業の充実	44.8	59.0	42.0	45.2	46.8	46.4	45.6	41.8
様々な困りごとについて相談できる身近な相談窓口の充実	36.3	30.8	33.3	40.4	38.3	31.3	44.1	29.8
地域医療体制の充実	41.9	59.0	34.0	42.6	42.6	41.1	40.4	43.6
健康づくりや健康診査(がん検診)など健康増進に関する 対策の充実	10.8	12.8	12.3	11.4	6.4	8.9	11.0	11.6
警察・消防などの防犯・交通安全・防災体制の充実	11.3	12.8	14.8	11.4	10.6	6.8	9.6	12.0
道路や公共交通機関の充実	35.7	48.7	30.9	35.1	31.9	36.5	36.8	41.8
高齢者、障害者の方にもやさしいバリアフリーのまちづくり	14.2	15.4	21.0	16.6	21.3	8.3	11.8	12.0
自然環境保護のための地域の協力	3.6	ı	3.1	2.8	4.3	4.2	2.2	5.3
雇用の安定	31.5	23.1	27.8	34.2	29.8	38.0	33.8	24.9
子どもが安全に学校生活を過ごすことのできる環境	16.1	10.3	19.8	16.6	8.5	20.8	15.4	11.1
保育園や託児所の充実	7.0	2.6	8.0	8.4	8.5	7.8	3.7	5.8
地域を単位とした世代間交流活動	3.5	5.1	6.2	2.6	2.1	1.6	4.4	2.7
生涯学習の充実	4.1	5.1	5.6	4.7	-	4.7	3.7	2.2
自治会・町内会など隣近所による助け合い	21.0	12.8	24.1	18.3	25.5	22.4	23.5	21.8
ボランティア活動やNPO(民間非営利組織)による助け合い	4.0	2.6	4.3	3.9	2.1	4.2	5.1	4.9
その他	1.2	2.6	2.5	0.9	4.3	1.0	-	0.9
無回答	3.1	2.6	1.2	2.4	2.1	3.1	2.2	4.9

# 住民活動・地域福祉活動について

# 問 11 あなたは地域の行事や活動に参加されていますか。(SA)

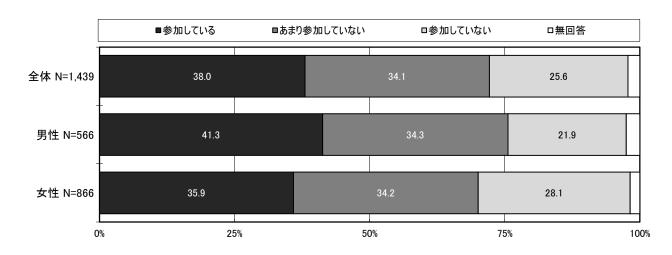
「参加している」が38.0%で最も高く、次いで「あまり参加していない」が34.1%となっています。

(SA) N=1, 439



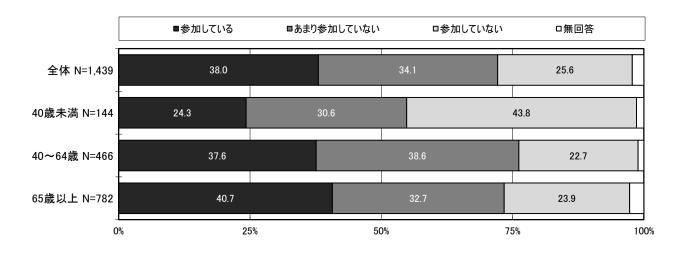
# 性別×問11

女性に比べて男性は「参加している」の割合が高くなっています。



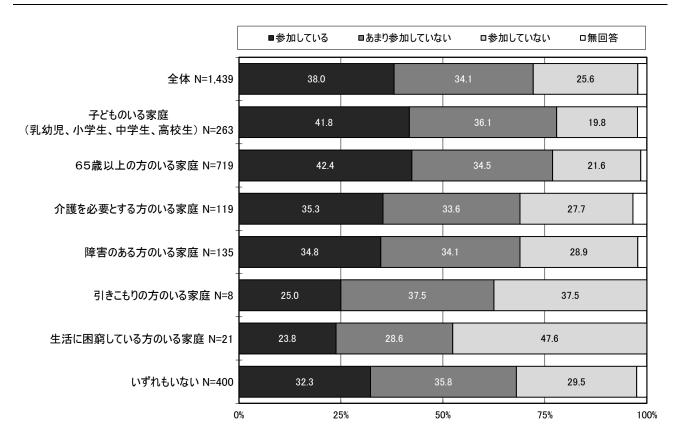
#### 年代別×問11

40 歳未満では、他の年代と比べて「参加していない」の割合が高くなっています。



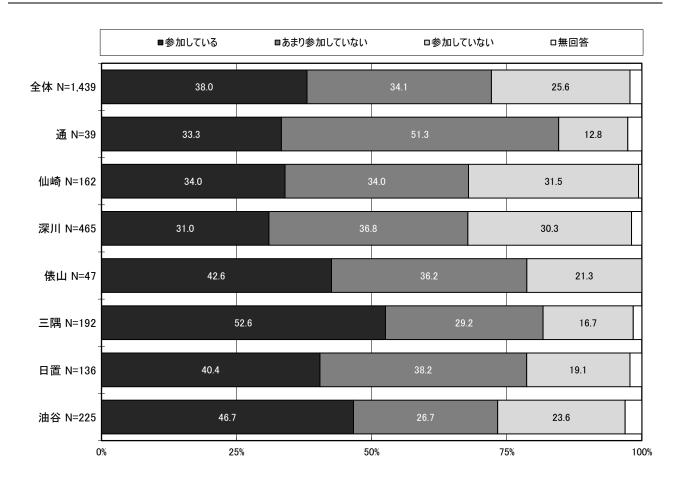
#### 世帯構成×問 11

子どものいる家庭と 65 歳以上のいる家庭では「参加している」の割合が、生活に困窮している方のいる家庭では「参加していない」の割合が、それぞれ他の世帯構成と比べて高くなっています。



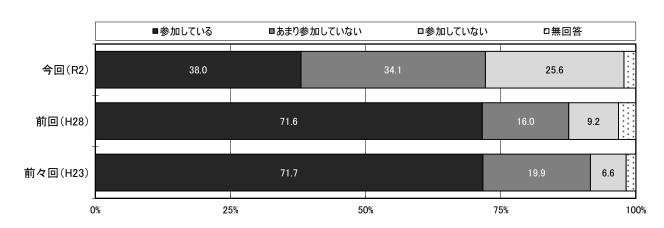
#### 地区別×問11

三隅では 50%以上の人が地域の行事や活動に参加しています。仙崎と深川では、他の地区と比べて地域の行事や活動に参加していない割合が高くなっています。



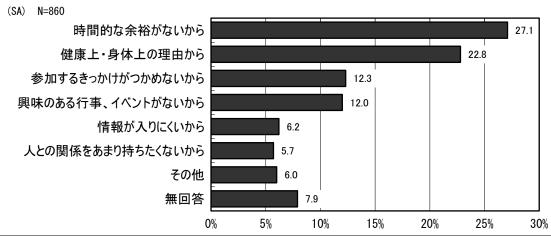
<問 11 経年比較>

前回、前々回と比較して、「あまり参加していない」「参加していない」の割合が高くなっています。



# 問 11 で「あまり参加していない」または「参加していない」と回答した方におうかがいします。 問 11-1 地域の行事や活動に参加されない理由を教えてください。(SA)

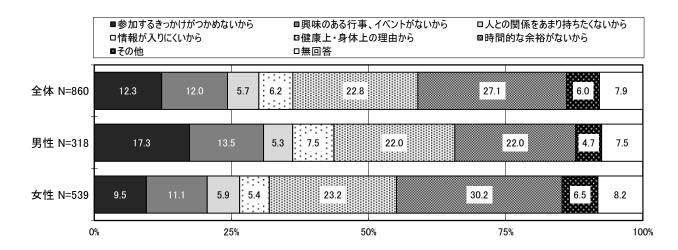
「時間的な余裕がないから」が 27.1%で最も高くなっています。次いで「健康上・身体上の理由から」が 22.8%、「参加するきっかけがつかめないから」が 12.3%で続いています。



その他回答	類似回答数
仕事の都合	6
他の家族が参加しているから	6
高齢のため	5
地域活動参加などの情報がないため	4
行事や活動がない	3
家族の介護のため	2
移住したため	2
駐車場。人の多さ	2
コロナで行事がない	2
年寄り、先住者たちからの古いしきたり、行事の押し付けがきつい。参加しないといじめ	4
られる、仲間はずれにされる	1
セクマイだから	1
年齢的に体が動かない(自分自身、介護が必要)	1
夫の理解が得られない	1
船員のため	1
環境清掃などは参加するが膝が悪いためにてきぱきできない	1
活動していないのに参加できない	1
長門市に来て日が浅い	1
意味のない行事には参加していない	1
進んでいくことはできない	1
参加したいと思わないから	1
忙しいから	1
他の用事があるので	1
近隣トラブルを見ているため	1
妊娠していたため	1
まだ母の世代が参加しているから	1

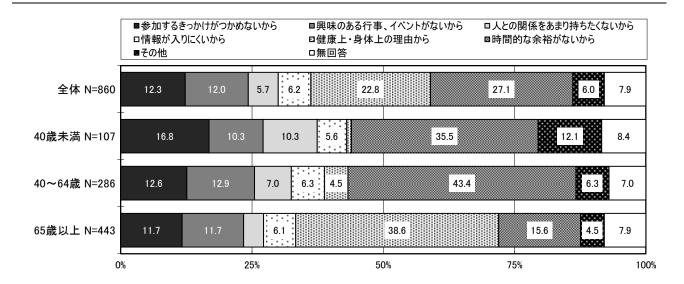
#### 性別×問11-1

男性は女性と比べて「参加するきっかけがつかめないから」の割合が高く、女性は男性と比べて「時間的な余裕がないから」の割合が高くなっています。



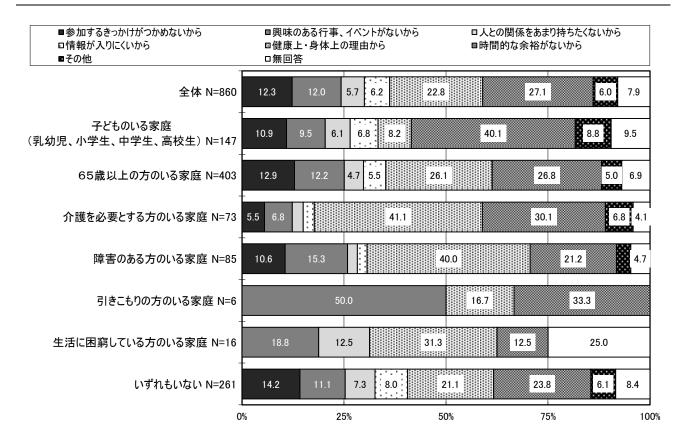
#### 年代別×問 11-1

65歳以上では、他の年代と比べて「健康上・身体上の理由から」の割合が高くなっています。 年代が上がるにつれて「参加するきっかけがつかめないから」「人との関係を持ちたくないから」の割合が低くなる傾向がみられます。



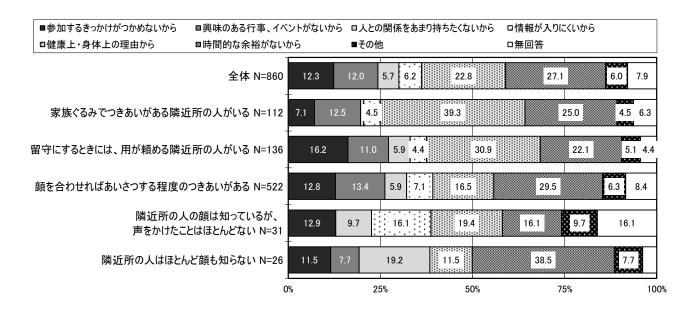
#### 世帯構成×問 11-1

子どものいる家庭では「時間的な余裕がないから」、介護を必要とする方のいる家庭と障害のある方のいる家庭では「健康上・身体上の理由から」の割合が、それぞれ他の世帯構成と比べて高くなっています。



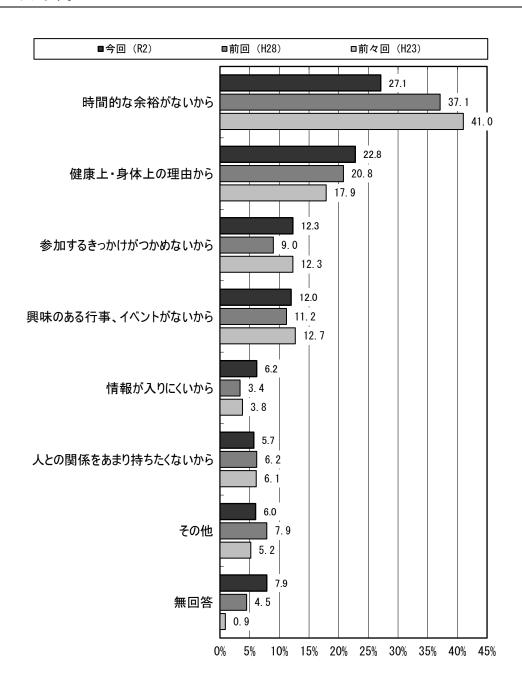
#### 問3×問11-1

「隣近所の人の顔は知っているが、声をかけたことはほとんどない」という人は「情報が入りにくいから」「隣近所の人はほとんど顔も知らない」という人は「人との関係をあまり持ちたくないから」「時間的な余裕がないから」の割合が、その他の人と比べて高くなっています。



# <問 11-1 経年比較>

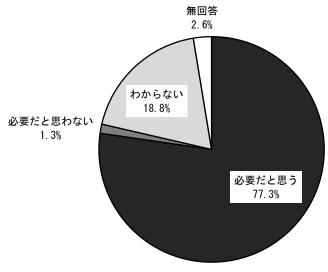
経年の変化をみると、「時間的な余裕がないから」の割合が低くなり、「健康上・身体上の理由から」の割合が高くなる傾向がみられます。



問 12 あなたは、地域で起こる問題について、住民がお互いに協力することが必要だと思いますか。(SA)

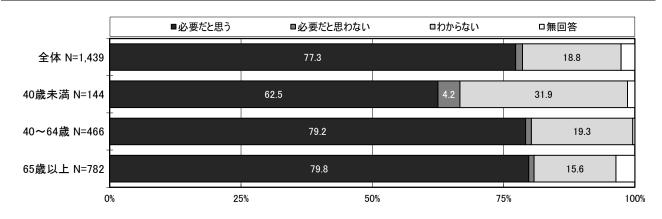
「必要だと思う」が 77.3%を占めています。





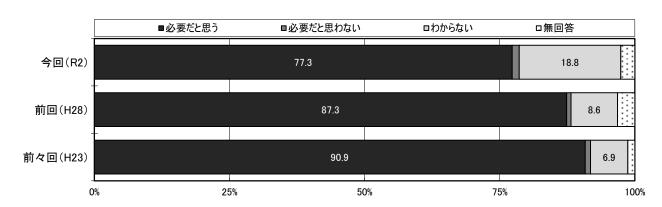
#### 年代別×問12

40 歳未満では、他の年代と比べて「わからない」の割合が高くなっています。



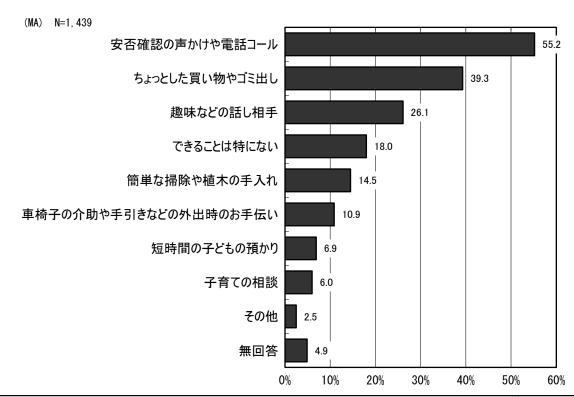
#### <問 12 経年比較>

経年の変化をみると、「必要だと思う」が減少傾向、「わからない」が増加傾向にあります。



# 問 13 地域で障害者や高齢者、子育て世帯など、日常生活で困りごとのある人がいた時、あなたができることは何ですか。(MA)

「安否確認の声かけや電話コール」が 55.2%で最も高くなっています。次いで「ちょっとした買い物やゴミ出し」が 39.3%、「趣味などの話し相手」が 26.1%で続いています。



その他回答	類似回答数
わからない	4
相手やケースによる	4
自身が高齢であるため、したくてもできない	4
障がい者、高齢者世帯なのでできそうにない	3
相手が希望すれば困りごとに応じる	1
責任を押し付ける高齢者が多い。関わらない	1
ちょっとした声かけ	1
生活不安であれば支援機関への連携	1
相談されたら悩みを聞く。話して心が軽くなるという程度	1
困りごとを聞いてあげる	1
お互いが共有すると良い	1
警察や消防に連絡	1
私自身が動けない体	1
橋渡し→役所へ	1
代行。当番制の物など	1
行事などで必要な物の手当	1
現状コロナ禍で難しいと思う	1
健康に自信がないから	1

# 性別×問13

男性は女性に比べて「簡単な掃除や植木の手入れ」の割合が高くなっています。

	全体 男性		女性		
	N=1,439	N=566	N=866		
安否確認の声かけや電話コール	55.2	53.2	56.6		
趣味などの話し相手	26.1	23.7	27.8		
ちょっとした買い物やゴミ出し	39.3	38.2	40.1		
簡単な掃除や植木の手入れ	14.5	21.6	9.9		
車椅子の介助や手引きなどの外出時 のお手伝い	10.9	10.8	11.0		
短時間の子どもの預かり	6.9	5.3	8.0		
子育ての相談	6.0	3.4	7.7		
その他	2.5	2.8	2.2		
できることは特にない	18.0	19.1	17.3		
無回答	4.9	5.1	4.5		

#### 年代×問13

40~64歳では、他の年代と比べて「ちょっとした買い物やゴミ出し」の割合が高くなっています。 年代が上がるにつれて「車椅子の介助や手引きなどの外出時のお手伝い」の割合が低くなる傾向がみられます。

	全体	40歳未満	40~64歳	65歳以上
	N=1,439	N=144	N=466	N=782
安否確認の声かけや電話コール	55.2	40.3	59.7	55.2
趣味などの話し相手	26.1	29.9	25.5	26.0
ちょっとした買い物やゴミ出し	39.3	29.9	44.6	38.6
簡単な掃除や植木の手入れ	14.5	11.1	14.6	15.2
車椅子の介助や手引きなどの外出時	10.9	16.7	14.2	7.9
のお手伝い	10.9	10.7	14.2	7.9
短時間の子どもの預かり	6.9	9.0	9.4	5.2
子育ての相談	6.0	10.4	10.7	2.6
その他	2.5	3.5	2.6	2.2
できることは特にない	18.0	20.1	13.7	20.6
無回答	4.9	2.1	0.9	7.3

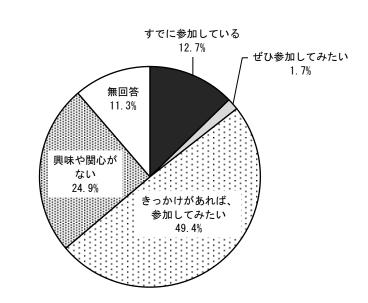
# 世帯構成×問 13

子どものいる世帯では「子育ての相談」、生活に困窮している方のいる家庭では「できることは特にない」の割合が、 それぞれ他の世帯構成と比較して高くなっています。

	至1本 N=1,439	児、小学生、	65歳以上の 方のいる家 庭 N=719	とする方の		うさこもりの 方のいる家 麻 N=8	生活に困窮 している方の いる家庭 N=21	いずれもい ない N=400
安否確認の声かけや電話コール	55.2	49.8	60.2	51.3	56.3	75.0	38.1	52.8
趣味などの話し相手	26.1	20.9	27.3	24.4	21.5	37.5	19.0	29.3
ちょっとした買い物やゴミ出し	39.3	37.3	43.3	34.5	27.4	62.5	42.9	36.5
簡単な掃除や植木の手入れ	14.5	11.4	14.6	13.4	17.8	25.0	14.3	15.8
車椅子の介助や手引きなどの外出時のお手伝い	10.9	13.7	10.3	15.1	14.1	12.5	9.5	9.8
短時間の子どもの預かり	6.9	9.5	6.7	5.0	8.1	_	9.5	6.0
子育ての相談	6.0	15.2	4.3	3.4	5.9	_	-	5.0
その他	2.5	2.7	2.1	5.9	3.0	-	4.8	2.0
できることは特にない	18.0	17.1	16.3	20.2	23.7	-	38.1	20.3
無回答	4.9	3.0	4.2	5.0	3.7	-	-	4.5

# 問 14 あなたは、日ごろボランティア活動に参加しておられますか。(SA)

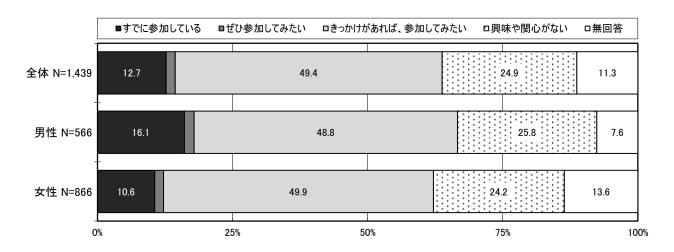
「きっかけがあれば、参加してみたい」が 49.4%で最も高く、次いで「興味や関心がない」が 24.9%、「すでに参加している」が 12.7%で続いています。



#### 性別×問14

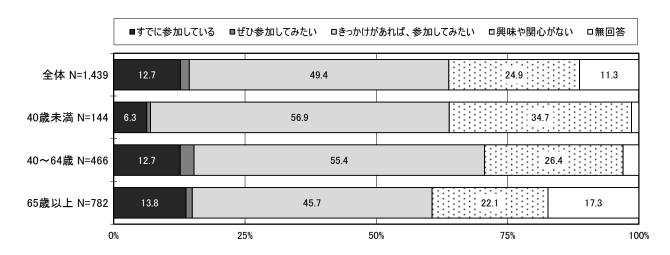
(SA) N=1, 439

男性は女性に比べて「すでに参加している」の割合が高くなっています。



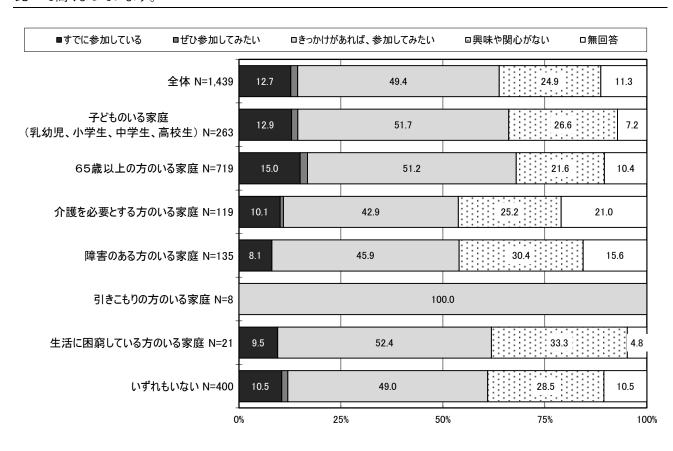
#### 年代別×問14

40 歳未満では、他の年代と比べて「興味や関心がない」の割合が高くなっています。



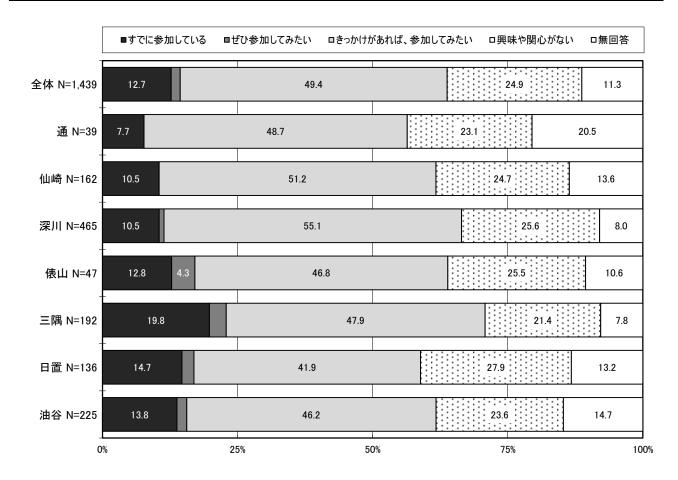
#### 世帯構成×問14

障害のある方のいる家庭と生活に困窮している方のいる家庭では「興味や関心がない」の割合が他の世帯構成と 比べて高くなっています。



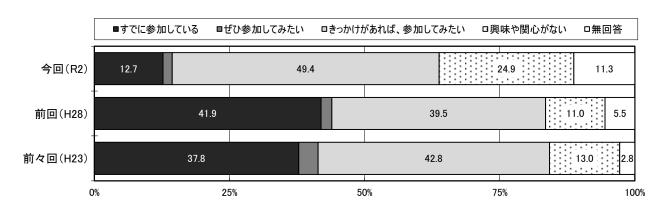
#### 地区別×問14

三隅では他の地区と比べて「すでに参加している」の割合が高くなっています。



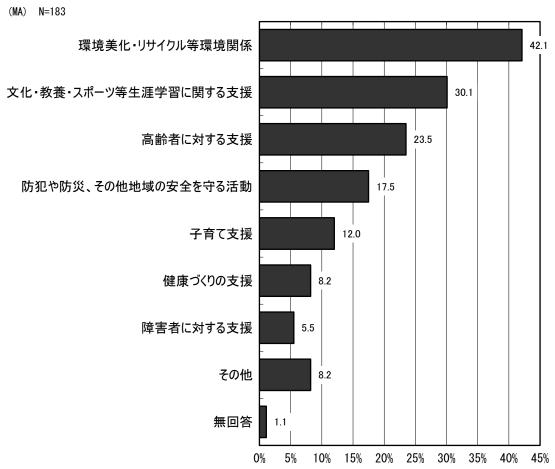
<問 14 経年比較>

前回、前々回と比較して、「きっかけがあれば、参加してみたい」「興味や関心がない」の割合が高くなっています。



# 問 14 で「すでに参加している」と回答した方におうかがいします。 問 14-1 どんな活動に参加していますか。(MA)

「環境美化・リサイクル等環境関係」が 42.1%で最も高くなっています。次いで「文化・教養・スポーツ等生涯学習に関する支援」が 30.1%、「高齢者に対する支援」が 23.5%で続いています。



その他回答	類似回答数
町内の会計。寺の世話人	1
個人でバス停の掃除	1
散歩ついでのゴミ拾い	1
地域NPOへの協力(できる時に)	1
災害ボランティアに参加	1
花壇	1
高齢者施設で清拭布切り	1
サロン会(月1回)	1
災害支援	1
商工会活動で海岸清掃、お祭り参加など	1
保護司活動	1
使用施設などの清掃	1
サロン会活動	1
実家地区の消防団	1
食品ロス、子ども食堂(但し他県)	1

# 性別×問14-1

男性は女性と比べて「環境美化・リサイクル等環境関係」「健康づくりの支援」「防犯や防災、その他地域の安全を守る活動」の割合が高く、女性は男性と比べて「子育て支援」「高齢者に対する支援」「文化・教養・スポーツ等生涯学習に関する支援」の割合が高くなっています。

	全体 N=183	男性 N=91	女性 N=92
子育て支援	12.0	5.5	18.5
高齢者に対する支援	23.5	16.5	30.4
障害者に対する支援	5.5	5.5	5.4
文化・教養・スポーツ等生涯学習に関する支援	30.1	27.5	32.6
環境美化・リサイクル等環境関係	42.1	53.8	30.4
健康づくりの支援	8.2	11.0	5.4
防犯や防災、その他地域の安全を守る活動	17.5	28.6	6.5
その他	8.2	8.8	7.6
無回答	1.1	2.2	_

# 年代別×問 14-1

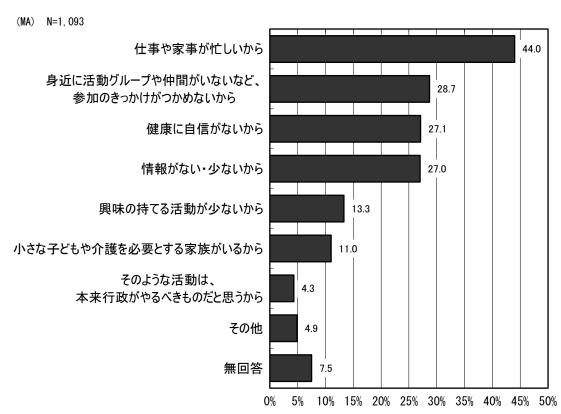
40~64 歳では「防犯や防災、その他地域の安全を守る活動」、65 歳以上では「高齢者に対する支援」の割合が、それぞれ他の年代と比べて高くなっています。

	全体		全体 40歳未満		~64歳	65点	歳以上
	N=1	N=183 N=9		9 N=59		N=108	
子育て支援		12.0	-		16.9		10.2
高齢者に対する支援		23.5	_		11.9		32.4
障害者に対する支援		5.5	11.1		1.7		7.4
文化・教養・スポーツ等生涯学習に関する支援		30.1	44.4		33.9		27.8
環境美化・リサイクル等環境関係		42.1	22.2		42.4		43.5
健康づくりの支援		8.2	-		_		13.0
防犯や防災、その他地域の安全を守る活動		17.5	-		27.1		14.8
その他		8.2	11.1		11.9		4.6
無回答		1.1	11.1		_		0.9

問 14 で「ぜひ参加してみたい」「きっかけがあれば、参加してみたい」「興味や関心がない」と回答 した方におうかがいします。

#### 問 14-2 現在、ボランティア活動をされていない理由は何ですか。(MA)

「仕事や家事が忙しいから」が44.0%で最も高くなっています。次いで「身近に活動グループや仲間がいないなど、参加のきっかけがつかめないから」が28.7%、「健康に自信がないから」が27.1%で続いています。



その他回答	類似回答数
健康と身体上の理由から	14
高齢のため	6
働いていて時間がない	6
身近な人の介護があるから	4
本人が介護をされているため	2
障害があるから	2
長門市に来て日が浅い	2
ボランティアの内容がわからない。長門市のボランティアの内容は何か	2
興味がない	2
以前していたが、時間が取れないことがあり、また拘束時間も長かったからやめてしまった	1
他にやることがある	1
誘われたこともないし、ボランティアをどのような方がしているのかも知らない	1
自分のできる範囲内、無理をしない程度なら良い	1
地域の草刈り、お宮の手伝いなどは行っている	1
直接活動はないが、エコキャップを集めて社協へ持って行ったり、別の団体に学費支援	
の寄付をしている。ボランティアの気持ちがあれば、まずは自分のできることをすれば良	1
いと思っている	

その他回答	類似回答数
知り合いがいない	1
障がい者、高齢者世帯なので人の手を借りたい	1
一人でいる方が楽	1
自分にできる自信がない	1
体力がない	1
ボランティア活動を積極的にされる方は個性的な方が多く、人間関係で苦労するから	1
コロナだから	1
苦手で好きではないから	1
世代間の差を感じることが多い	1
体力に自信がない	1
孫の面倒をみるので	1
以前は洗濯ボランティアに行っていたが、高齢になり足腰が不自由になった	1
時間的な理由	1

# 性別×問14-2

男性は女性に比べて「興味の持てる活動が少ないから」の割合が高く、女性は男性と比べて「小さな子どもや介護を必要とする家族がいるから」「健康に自信がないから」の割合が高くなっています。

	全体	全体男性	
	N=1,093	N=432	N=656
仕事や家事が忙しいから	44.0	41.0	45.9
小さな子どもや介護を必要とする家族がいるから	11.0	7.6	13.0
健康に自信がないから	27.1	23.1	29.9
身近に活動グループや仲間がいないなど、参加	28.7	27.3	29.7
のきっかけがつかめないから			
興味の持てる活動が少ないから	13.3	17.1	10.8
情報がない・少ないから	27.0	27.8	26.5
そのような活動は、本来行政がやるべきものだと思うから	4.3	6.5	2.7
その他	4.9	4.6	5.0
無回答	7.5		

# 年代別×問14-2

40歳未満では「小さな子どもや介護を必要とする家族がいるから」、65歳以上では「健康に自信がないから」の割合が、それぞれ他の年代と比べて高くなっています。

	全体		40歳未満	40~64歳	65歳以上
	N=1	,093	N=133	N=393	N=539
仕事や家事が忙しいから		44.0	65.4	66.2	23.0
小さな子どもや介護を必要とする家族がいるから		11.0	34.6	10.2	5.8
健康に自信がないから		27.1	2.3	14.0	41.9
身近に活動グループや仲間がいないなど、参加 のきっかけがつかめないから		28.7	29.3	28.5	29.3
興味の持てる活動が少ないから		13.3	15.0	13.0	13.2
情報がない・少ないから		27.0	30.1	30.8	24.1
そのような活動は、本来行政がやるべきものだと思うから		4.3	6.0	4.8	3.3
その他		4.9	3.8	4.1	5.9
無回答		7.5	5.3	5.6	9.6

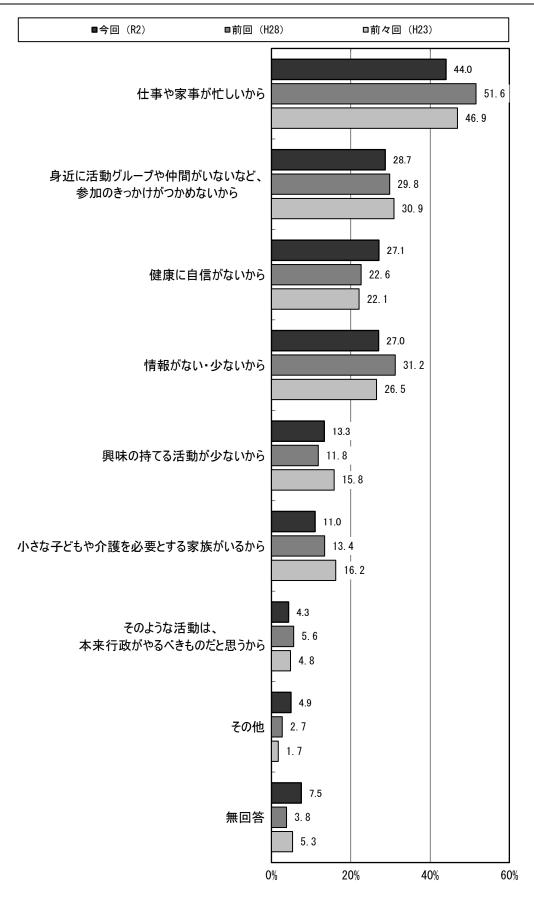
# 世帯構成×問 14-2

子どものいる家庭では「仕事や家事が忙しいから」、障害のある方のいる家庭では「健康に自信がないから」、生活に困窮している方のいる家庭では「興味の持てる活動が少ないから」の割合が、それぞれ他の世帯構成と比べて高くなっています。

	全体 N=1,093	児、小学生、	65歳以上の 方のいる家 庭 N=536	とする万の	方のいる家	うさこもりの 方のいる家 麻 N=8	生活に困窮 している方の いる家庭 N=18	いずれもい ない N=316
仕事や家事が忙しいから	44.0	70.5	41.2	42.7	37.9	62.5	11.1	38.9
小さな子どもや介護を必要とする家族がいるから	11.0	34.3	8.4	30.5	18.4	_	5.6	2.2
健康に自信がないから	27.1	9.5	31.2	28.0	37.9	12.5	27.8	29.7
身近に活動グループや仲間がいないなど、 参加のきっかけがつかめないから	28.7	21.4	30.2	9.8	27.2	12.5	16.7	30.1
興味の持てる活動が少ないから	13.3	11.4	13.4	4.9	19.4	25.0	33.3	12.0
情報がない・少ないから	27.0	27.6	26.7	22.0	20.4	12.5	27.8	26.9
そのような活動は、本来行政がやるべきものだと 思うから	4.3	5.2	2.8	2.4	2.9	_	5.6	6.0
その他	4.9	2.9	4.1	14.6	6.8	-	16.7	5.1
無回答	7.5	3.8	7.8	11.0	4.9	12.5	22.2	8.2

#### <問 14-2 経年比較>

経年の変化をみると、次第に「健康に自信がないから」の割合は高くなり、「小さな子どもや介護を必要とする家族がいるから」の割合は低くなる傾向がみられます。

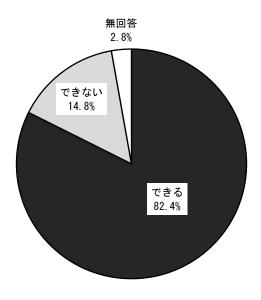


# 災害について

# 問 15 台風や大雨などで避難が必要な場合、一人で避難することができますか。(SA)

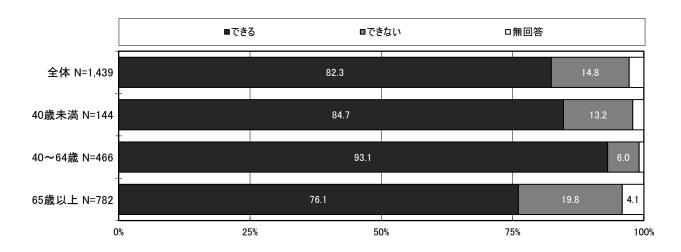
「できる」が82.4%、「できない」が14.8%となっています。

(SA) N=1, 439



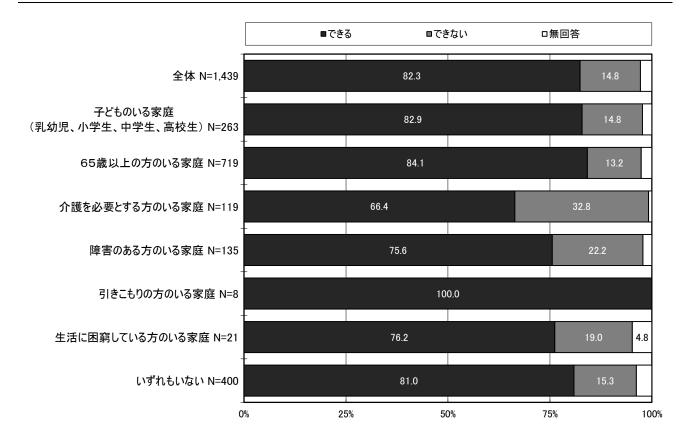
# 年代別×問15

65歳以上では、他の年代と比べて「できない」の割合が高くなっています。



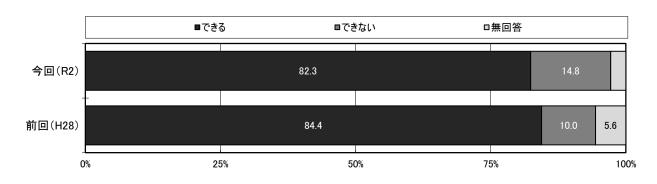
# 世帯構成×問 15

介護を必要とする方のいる家庭では、他の世帯構成と比べて「できない」の割合が高くなっています。



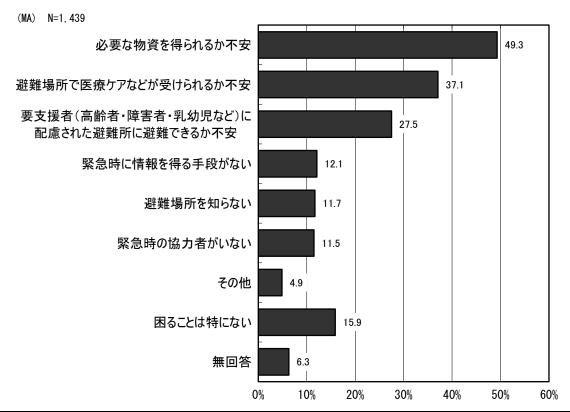
#### <問 15 経年比較>

前回と比較して、「できない」の割合が若干高くなっています。



# 問16 災害時に困ることは何ですか。(MA)

「必要な物資を得られるか不安」が 49.3%で最も高くなっています。次いで「避難場所で医療ケアなどが受けられるか不安」が 37.1%、「要支援者(高齢者・障害者・乳幼児など)に配慮された避難所に避難できるか不安」が 27.5%で続いています。



その他回答	類似回答数
ペットを連れて避難できるか不安	8
避難場所が遠い・ない	8
避難場所自体が安全かどうか不安である	7
避難場所に行くまでの災害・通行止めなどが心配	5
ライフラインの確保	4
避難所のトイレ問題が恐ろしい	2
家族と合流できるか	2
避難場所が車でないと行かれないこと	2
食物アレルギーに対応した物資を得られるか不安	2
災害時、仕事に行かなければならない	1
各家庭に市から連絡用のラジオがあるが、急に大声が出るのにはびっくりし、心臓に良くない	1
自分の気持ちが逃げることを諦めてしまいそう	1
家族と離れたケースの連絡手段。トイレの確保(水が出ないケース)	1
自宅の様子を知る手だて	1
必要な物を持ちだせるか	1
ラジオ体操など町内であると良い	1
両親がいれば問題なし	1
緊急時に情報を得る手段がない	1

その他回答	類似回答数
不自由な生活(布団など)ができるか不安。経験したため	1
前に台風で避難した時は早く来た者が二階に行かされ後から来た人が一階に。体の不自由な人も二階に行かされ椅子に座って一晩中置かれたことに納得がいかなかった	1
足が悪いので不安である	1
避難のタイミング。若いので避難しにくい。恥ずかしい気がする	1
プライバシー、感染予防	1
災害の種類により異なると思うので答えにくい	1
ヒューマンエラー。人災を併発させないこと	1
動物の保護	1
考えていない	1

# 性別×問16

女性は男性と比べて「要支援者(高齢者・障害者・乳幼児など)に配慮された避難所に避難できるか不安」の割合が高くなっています。

	全 N=	体 =1,439	 男性 N=566		性 866
避難場所を知らない		11.7	11.1		12.1
緊急時の協力者がいない		11.5	11.8		11.2
緊急時に情報を得る手段がない		12.1	11.1		12.7
必要な物資を得られるか不安		49.3	49.8		49.0
避難場所で医療ケアなどが受けられるか不安		37.1	37.6		37.0
要支援者(高齢者・障害者・乳幼児など)に配慮された避難所に避難できるか不安		27.5	23.0		30.6
その他		4.9	4.8		4.8
困ることは特にない		15.9	17.7		14.9
無回答		6.3	6.0		6.4

# 年代別×問16

40 歳未満では、他の年代と比べて「避難場所を知らない」「要支援者(高齢者・障害者・乳幼児など)に配慮された避難所に避難できるか不安」の割合が高くなっています。

	全体	40歳未満	40~64歳	65歳以上
	N=1,439	N=144	N=466	N=782
避難場所を知らない	11.7	26.4	9.9	10.4
緊急時の協力者がいない	11.5	9.7	9.4	12.8
緊急時に情報を得る手段がない	12.1	9.7	12.0	13.2
必要な物資を得られるか不安	49.3	63.2	59.2	41.6
避難場所で医療ケアなどが受けられるか不安	37.1	35.4	40.1	35.4
要支援者(高齢者・障害者・乳幼児など)に配慮された避難所に避難できるか不安	27.5	39.6	24.7	26.7
その他	4.9	6.3	7.3	3.3
困ることは特にない	15.9	6.3	12.4	19.8
無回答	6.3	3.5	2.4	9.1

#### 世帯構成×問 16

子どものいる家庭では「必要な物資を得られるか不安」、介護を必要とする方のいる家庭と障害のある方のいる家庭、生活に困窮している方のいる家庭では「要支援者(高齢者・障害者・乳幼児など)に配慮された避難所に避難できるか不安」の割合が、それぞれ他の世帯構成と比べて高くなっています。また、生活に困窮している方のいる家庭では「避難場所を知らない」「緊急時の協力者がいない」の割合も他の世帯構成と比べて高くなっています。

	全体 N=1,439		65歳以上の 方のいる家 庭 N=719	介護を必要 とする方の いる家庭 N=119	障害のある 方のいる家 庭 N=135	flさこもりの 方のいる家 庭 N=8	生活に困窮 している方の いる家庭 N=21	いずれもい ない N=400
避難場所を知らない	11	.7 12.9	8.3	7.6	11.9	-	19.0	15.5
緊急時の協力者がいない	11	.5 6.1	8.6	18.5	13.3	12.5	28.6	15.8
緊急時に情報を得る手段がない	12	.1 11.4	11.1	11.8	7.4	62.5	9.5	14.8
必要な物資を得られるか不安	49	3 62.4	50.9	44.5	46.7	62.5	33.3	46.0
避難場所で医療ケアなどが受けられるか不安	37	1 38.0	39.4	38.7	43.7	50.0	28.6	33.8
要支援者(高齢者・障害者・乳幼児など)に配慮された避難所に避難できるか不安	27	.5 39.9	30.2	58.8	51.9	_	57.1	16.5
その他	4	.9 7.2	5.1	4.2	2.2	12.5	4.8	3.0
困ることは特にない	15	9.5	16.7	8.4	13.3	12.5	19.0	18.3
無回答	6	.3 3.8	5.6	5.0	4.4	_	4.8	6.5

#### 地区別×問16

仙崎・深川では「避難場所を知らない」、通では「避難場所で医療ケアなどが受けられるか不安」「要支援者(高齢者・障害者・乳幼児など)に配慮された避難所に避難できるか不安」の割合が、それぞれ他の地区と比べて高くなっています。

	全体	通 N=39	仙崎	深川	俵山	三隅	日置	油谷
	N=1,439	匝 14-03	N=162	N=465	N=47	N=192	N=136	N=225
避難場所を知らない	11.7	2.6	16.0	14.4	6.4	8.3	7.4	8.0
緊急時の協力者がいない	11.5	17.9	11.1	10.5	12.8	8.3	15.4	10.2
緊急時に情報を得る手段がない	12.1	7.7	12.3	13.1	10.6	10.9	8.1	15.6
必要な物資を得られるか不安	49.3	46.2	46.9	50.8	53.2	53.6	49.3	48.0
避難場所で医療ケアなどが	37.1	59.0	37.7	38.5	25.5	33.3	35.3	37.8
受けられるか不安	37.1	59.0	37.7	36.0	20.0	აა.ა	30.3	37.0
要支援者(高齢者・障害者・乳幼児								
など)に配慮された避難所に避難	27.5	38.5	27.2	28.4	25.5	30.2	27.9	20.4
できるか不安								
その他	4.9	5.1	7.4	3.7	10.6	5.7	4.4	5.8
困ることは特にない	15.9	12.8	16.0	15.3	10.6	17.7	17.6	18.7
無回答	6.3	_	7.4	5.6	6.4	4.7	4.4	6.7

# 問3×問16

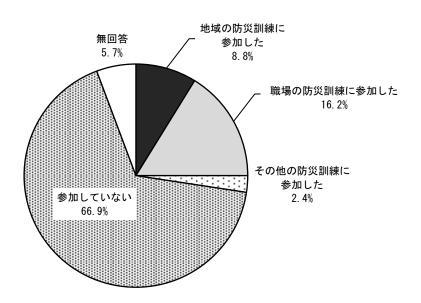
「隣近所の人の顔は知っているが、声をかけたことはほとんどない」「隣近所の人はほとんど顔も知らない」という人は、その他の人と比べて「緊急時の協力者がいない」の割合が高くなっています。

	全体	N=1,439	きあいがある隣 近所の人がいる	には、用が頼める隣近所の人が		顔を合わせれば あいさつする程 度のつきあいが ある N=749		が、声をかけた	隣近所の人はほ とんど顔も知ら ない N=28
避難場所を知らない		11.7	8.2		6.1		12.7	33.3	46.4
緊急時の協力者がいない		11.5	8.2		8.8		12.3	27.8	25.0
緊急時に情報を得る手段がない		12.1	9.9		10.3		13.9	13.9	14.3
必要な物資を得られるか不安		49.3	51.0		46.7		51.5	38.9	46.4
避難場所で医療ケアなどが受けられるか不安		37.1	40.8		36.4		37.1	41.7	17.9
要支援者(高齢者・障害者・乳幼児など)に配慮された避難所に避難できるか不安		27.5	32.2		27.2		27.1	27.8	10.7
その他		4.9	4.5		3.1		6.1	-	7.1
困ることは特にない		15.9	17.1		19.5		14.8	11.1	7.1
無回答		6.3	6.8		7.7		4.5	-	3.6

# 問 17 あなたは過去 1 年間に、地域や職場の防災訓練に参加したことがありますか。(SA)

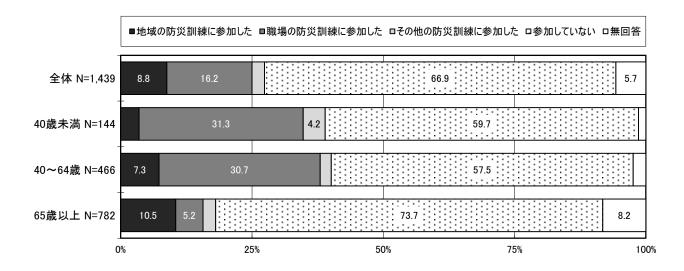
「参加していない」が 66.9%を占めています。





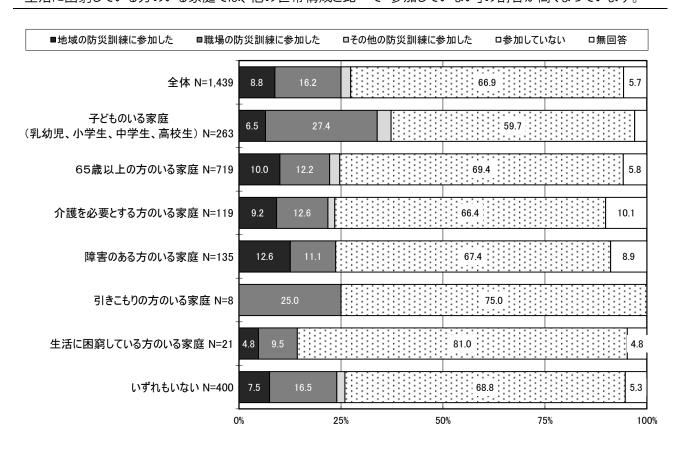
#### 年代別×問17

65歳以上では、他の年代と比べて「参加していない」の割合が高くなっています。



#### 世帯構成×問 17

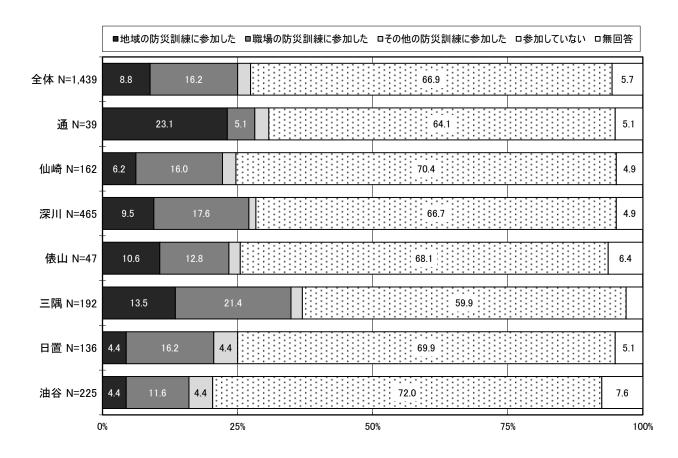
生活に困窮している方のいる家庭では、他の世帯構成と比べて「参加していない」の割合が高くなっています。



# 地区別×問17

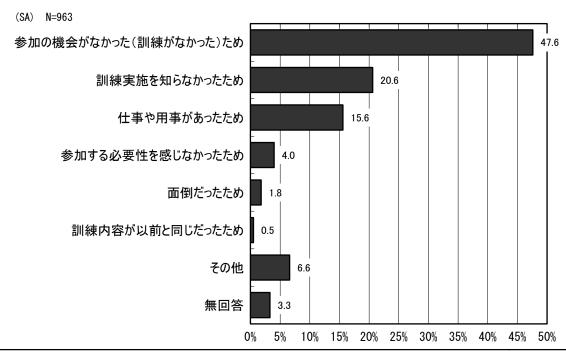
通では他の地区と比べて「地域の防災訓練に参加した」の割合が高くなっています。

「地域の防災訓練に参加した」「職場の防災訓練に参加した」「その他の防災訓練に参加した」を合わせた割合は、三隅が最も高く37.0%となっています。



# 問 17 で「参加していない」と回答した方におうかがいします。 問 17-1 参加しなかった理由は何ですか。(SA)

「参加の機会がなかった(訓練がなかった)ため」が 47.6%で突出しています。「訓練実施を知らなかったため」が 20.6%、「仕事や用事があったため」が 15.6%で続いています。



その他回答	類似回答数
健康上、身体上の理由から	27
高齢のため	10
訓練がない	5
コロナ禍でなかったため	4
障害があるため	2
知らなかった	2
昨年はなかったと思う	1
今居宅介護を受けているから	1
子どものところに行く	1
中止になったため	1
同居している家族が出席	1
膝が痛いため	1
家族の入院	1
1年間に訓練をしているとは思わない	1
長門市に来て日が浅いから	1
介護者がいる	1
以前に見たから	1
入院中のため	1
留守にしていたため不参加	1
近年当地域では訓練実施はない	1

# 世帯構成×問 17-1

生活に困窮している方のいる家庭では、他の世帯構成と比べて「参加の機会がなかった(訓練がなかった)ため」の割合が高くなっています。

	全体 N=963	児、小学生、	65歳以上の 方のいる家 庭 N=499	とする万の	方のいる家	方のいる家 庭 N=6	生活に困窮 している方の いる家庭 N=17	いずれもい ない N=275
仕事や用事があったため	15.6	18.5	14.6	17.7	13.2	_	-	16.0
訓練実施を知らなかったため	20.6	20.4	19.6	12.7	16.5	33.3	11.8	22.5
面倒だったため	1.8	0.6	1.0	2.5	4.4	_	5.9	1.8
参加する必要性を感じなかったため	4.0	5.1	4.4	2.5	4.4	-	5.9	2.9
訓練内容が以前と同じだったため	0.5	1	0.8	1.3	_	_	-	0.4
参加の機会がなかった(訓練がなかった)ため	47.6	49.7	50.9	43.0	45.1	50.0	58.8	44.4
その他	6.6	1.9	5.6	19.0	12.1	_	5.9	8.7
無回答	3.3	3.8	3.0	1.3	4.4	16.7	11.8	3.3

# 地区別×問17-1

通では「仕事や用事があったため」、日置・油谷では「参加の機会がなかった(訓練がなかった)ため」の割合が他の地域と比べて高くなっています。

	全( N=		通 N=25			俵山 N=32	三隅 N=115	日置 N=95	油谷 N=162
	111-	903		N-114			IN-115	N-95	N-10Z
仕事や用事があったため		15.6	40.0	21.1	17.4	15.6	15.7	7.4	14.2
訓練実施を知らなかったため		20.6	16.0	14.0	24.5	12.5	20.9	20.0	14.8
面倒だったため		1.8	4.0	3.5	1.0	3.1	0.9	2.1	1.2
参加する必要性を感じなかったため		4.0	ı	3.5	4.5	9.4	5.2	4.2	1.2
訓練内容が以前と同じだったため		0.5	4.0	ı	0.6	-	0.9	ı	_
参加の機会がなかった(訓練がなかった)ため		47.6	20.0	43.0	43.9	50.0	48.7	55.8	57.4
その他		6.6	12.0	11.4	5.2	9.4	6.1	9.5	4.3
無回答		3.3	4.0	3.5	2.9	ı	1.7	1.1	6.8

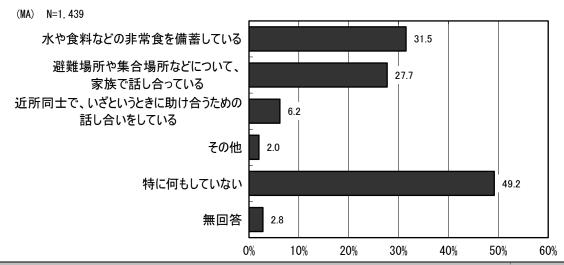
# 年代別×問17-1

年代が上がるにつれて「仕事や用事があったため」の割合が低くなる傾向がみられます。

	全体		40歳:	未満	40~	64歳	65歳	以上
			N=5	76				
仕事や用事があったため		15.6		27.9		22.4		10.4
訓練実施を知らなかったため		20.6		18.6		22.8		20.3
面倒だったため		1.8		3.5		1.1		1.7
参加する必要性を感じなかったため		4.0		3.5		2.6		4.7
訓練内容が以前と同じだったため		0.5		_		0.4		0.7
参加の機会がなかった(訓練がなかった)ため		47.6		44.2		45.1		49.7
その他		6.6		1.2		3.4		8.7
無回答		3.3		1.2		2.2		3.8

# 問 18 災害に対してどのような備えをしていますか。(MA)

「特に何もしていない」が 49.2%で最も高くなっています。次いで「水や食料などの非常食を備蓄している」が 31.5%、「避難場所や集合場所などについて、家族で話し合っている」が 27.7%で続いています。



その他回答	類似回答数
避難時の持ち出しグッズを少し準備している	5
貴重品をまとめてある。身元のわかる物品など	2
太陽光パネルの設置	1
非常食ではなく、普段使う飲料、水、チルドなど日持ちするものを多めに買い、使い回し	1
ている	
近所の高齢者の人数を把握しておく	1
行政区の中で何班の人はどこと予め決めておくと後で来ていない人の安否確認ができ	1
るので決めた方が良い	•
必要書類をまとめてカバンに入れている	1
以前避難場所を見に行ったが、道中を考え自宅が安全と話し合ったことがある	1
これからする	1
土嚢準備	1
地元消防隊を支援して、台風の時に待機、パトロール	1
近づくとしている	1
保険加入	1
携帯、電池、水、菓子を用意している	1
防災アプリ(スマホ)で情報を確かめる	1
移動しない方が安全と思っている	1
避難場所の確認や知人との連絡方法などの確認を事前にしている	1
車での避難場所の確保	1

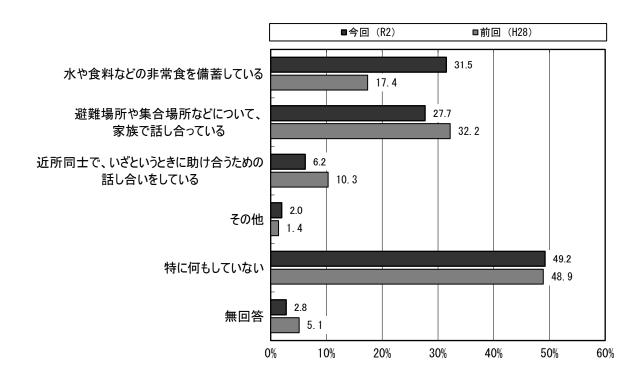
#### 年代別×問18

65歳以上では、他の年代と比べて「近所同士で、いざというときに助け合うための話し合いをしている」の割合が高くなっています。

	全体		40歳未満		40~64歳		65歳以上	
	N=1,439		N=144		N=466		N=782	
水や食料などの非常食を備蓄している	3	31.5		34.0		<b>3</b> 6.7		27.6
避難場所や集合場所などについて、家族で 話し合っている	2	27.7		27.1		30.7		25.7
近所同士で、いざというときに助け合うため の話し合いをしている		6.2		1.4		2.8		8.8
その他		2.0		1.4		1.9		1.9
特に何もしていない	4	19.2		51.4		43.1		53.6
無回答		2.8		1.4		1.7		3.6

# <問 18 経年比較>

前回と比較して、「水や食料などの非常食を常備している」の割合が高くなっており、「避難場所や集合場所などについて家族で話し合っている」「近所同士で、いざというときに助け合うための話し合いをしている」の割合は低くなっています。

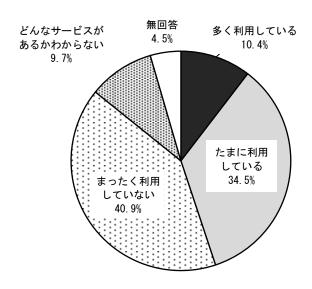


# 福祉サービスについて

# 問 19 あなたは、介護保険、保育園、健康診断など行政や民間団体の行う福祉や保健の各種サービスを現在、利用していますか。(SA)

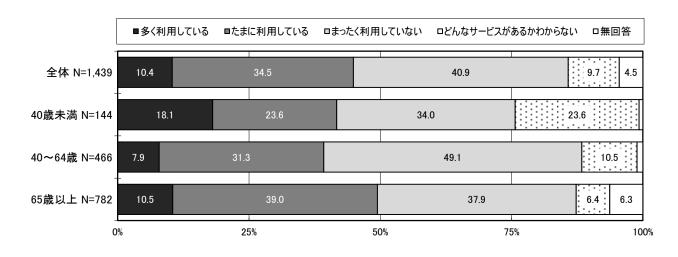
「まったく利用していない」が 40.9%で最も高く、次いで「たまに利用している」が 34.5%、「多く利用している」が 10.4%で続いています。





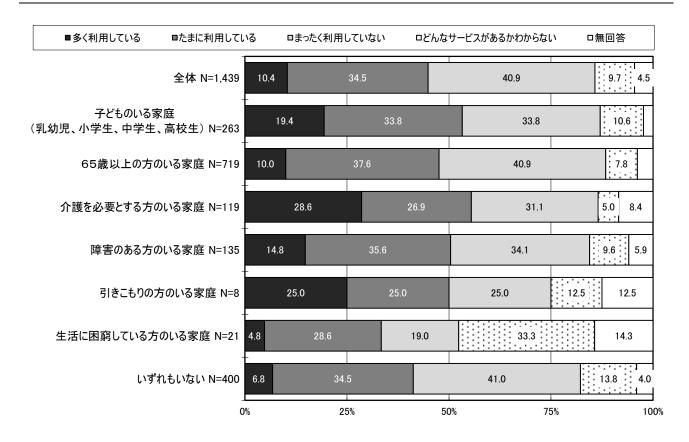
# 年代別×問19

40 歳未満では他の年代と比べて「多く利用している」の割合が高い一方で、「どんなサービスがあるかわからない」の割合も高くなっています。



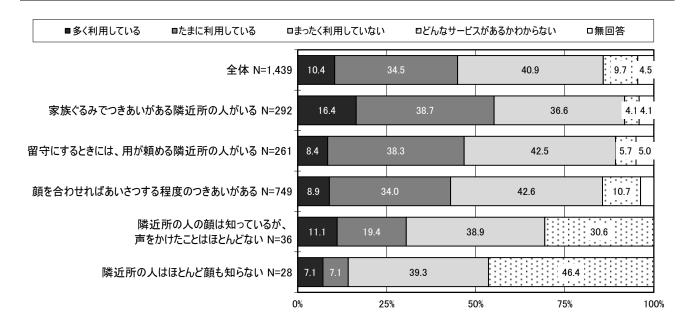
#### 世帯構成×問 19

生活に困窮している方のいる家庭では、他の世帯構成と比べて「どんなサービスがあるかわからない」の割合が高くなっています。



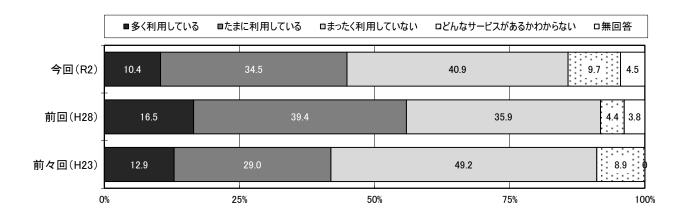
#### 問3×問19

「隣近所の人の顔は知っているが、声をかけたことはほとんどない」「隣近所の人はほとんど顔も知らない」という人は、その他の人と比べて「どんなサービスがあるかわからない」の割合が高くなっています。



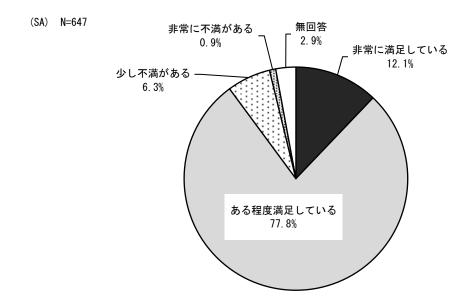
# <問 19 経年比較>

前回と比較すると、「どんなサービスがあるかわからない」の割合が高くなっています。



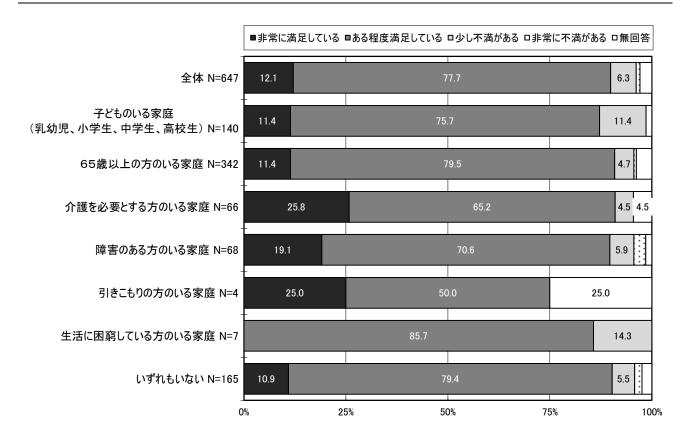
問 19 で「多く利用している」または「たまに利用している」と回答した方におうかがいします。 問 19-1 サービスを利用されたときの満足度は、次のうちどれにあたりますか。(SA)

「ある程度満足している」が77.8%を占めています。



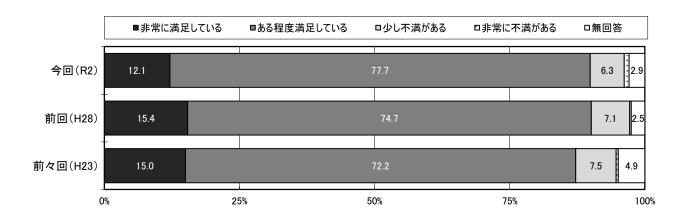
#### 世帯構成×問 19-1

子どものいる家庭では、他の世帯構成と比べて「少し不安がある」の割合が高く、介護を必要とする方のいる家庭では、他の世帯構成と比べて「非常に満足している」の割合が高くなっています。



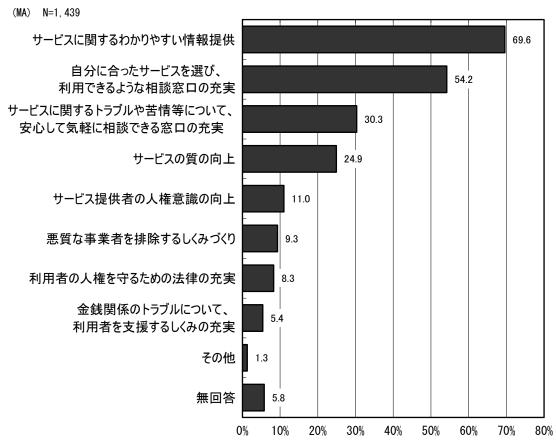
<問 19-1 経年比較>

前回、前々回と比較して、特に目立った変化はみられません。



# 問 20 あなたは、子育てや高齢者・障害者の介護などに関するサービスを安心して利用できるようにするために、どのようなことを充実すべきだと思いますか。(MA)

「サービスに関するわかりやすい情報提供」が 69.6%で最も高くなっています。次いで「自分に合ったサービスを選び、利用できるような相談窓口の充実」が 54.2%、「サービスに関するトラブルや苦情等について、安心して気軽に相談できる窓口の充実」が 30.3%で続いています。



その他回答	類似回答数
わからない	4
各自治会に出向し、説明すると良い	1
土日関係なく行政が開設するよう働くこと	1
どんなサービスがあるか広めておくと困っている人に会った時に勧められる。声かけできる	1
今は自分でできるのであまり考えていない	1
自然保育やフリースクールの促進、教育の多様化	1
もっと税のことや福祉に関することをわかりやすく教えてほしい	1
いろいろな物を取り入れる	1
私自身長門市役所の中の方たちで十分安心している	1
低料金でサービスの利用ができることが必要	1
農道など狭い道の整備	1

40 歳未満では、「サービスの質の向上」の割合が、他の年代と比べて高くなっています。

年代が上がるにつれて、「サービスに関するトラブルや苦情等について、安心して気軽に相談できる窓口の充実」の割合が高くなり、「悪質な事業者を排除するしくみづくり」の割合が低くなる傾向がみられます。

	全体	全体		₹満	40~	·64歳	65歳	以上
	N=1,4	439	N=144		N=466		N=78	32
サービスに関するわかりやすい情報提供		69.6		70.1		75.3		67.1
自分に合ったサービスを選び、利用できるような 相談窓口の充実		54.2	ì	0.0		56.0		54.0
サービスに関するトラブルや苦情等について、 安心して気軽に相談できる窓口の充実		30.3	2	20.8		28.5		33.8
サービス提供者の人権意識の向上		11.0		9.0		11.8		10.7
サービスの質の向上		24.9	4	12.4		26.6		20.8
悪質な事業者を排除するしくみづくり		9.3		8.8		10.5		7.4
金銭関係のトラブルについて、利用者を支援 するしくみの充実		5.4		6.9		6.2		4.9
利用者の人権を守るための法律の充実		8.3		7.6		6.7		9.2
その他		1.3		0.7		1.7		1.0
無回答		5.8		2.8		1.5		8.3

# 性別×問 20

女性は男性と比べて「自分に合ったサービスを選び、利用できるような相談窓口の充実」の割合が高くなっています。

	全体		男性		女性	
	N=1,4	139	N=56	36	N=86	6
サービスに関するわかりやすい情報提供		<b>6</b> 9.6		<b>6</b> 6.8		71.6
自分に合ったサービスを選び、利用できるような		54.2		48.1		58.3
相談窓口の充実						
サービスに関するトラブルや苦情等について、 安心して気軽に相談できる窓口の充実		30.3		30.6		30.3
サービス提供者の人権意識の向上		11.0		11.7		10.7
サービスの質の向上		24.9		26.3		23.8
悪質な事業者を排除するしくみづくり		9.3		13.1		6.9
金銭関係のトラブルについて、利用者を支援するしくみの充実		5.4		7.2		4.3
利用者の人権を守るための法律の充実		8.3		7.6		8.5
その他		1.3		1.6		1.0
無回答		5.8		4.8		6.4

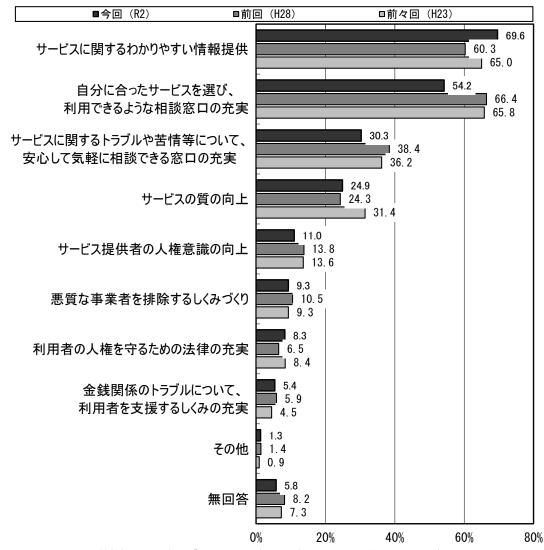
# 世帯構成×問 20

生活に困窮している方のいる家庭では、他の世帯構成と比べて「サービス提供者の人権意識の向上」「サービスの質の向上」の割合が高くなっています。

	全体 N=1,439	児、小学生、	65歳以上の 方のいる家 庭 N=719	とりる力の	方のいる家	1134 NI=8	生活に困窮 している方の いる家庭 N=21	いずれもい ない N=400
サービスに関するわかりやすい情報提供	69.6	73.4	74.8	68.9	66.7	75.0	57.1	66.5
自分に合ったサービスを選び、利用できるような 相談窓口の充実	54.2	47.9	55.4	60.5	53.3	50.0	28.6	57.3
サービスに関するトラブルや苦情等について、安心して気軽に相談できる窓口の充実	30.3	27.4	32.1	28.6	31.9	25.0	33.3	31.3
サービス提供者の人権意識の向上	11.0	12.2	10.4	9.2	11.1	12.5	19.0	11.0
サービスの質の向上	24.9	29.7	23.8	28.6	22.2	25.0	38.1	23.3
悪質な事業者を排除するしくみづくり	9.3	11.0	10.7	9.2	9.6	_	14.3	8.3
金銭関係のトラブルについて、利用者を支援 するしくみの充実	5.4	4.9	5.7	5.0	4.4	12.5	4.8	4.8
利用者の人権を守るための法律の充実	8.3	5.3	7.8	5.9	11.9	12.5	9.5	8.0
その他	1.3	1.5	1.3	4.2	2.2	_	-	1.0
無回答	5.8	3.4	4.3	2.5	7.4	12.5	19.0	5.3

#### <問 20 経年比較>

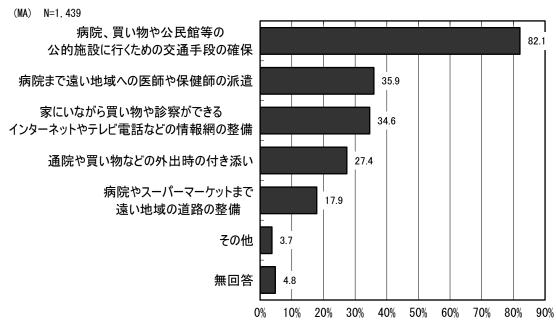
前回と比較して、「サービスに関するわかりやすい情報提供」の割合が高くなっています。



※「サービスに関するわかりやすい情報提供」は、前回は「サービスの内容を利用者にわかりやすく説明する」という表現でお聞きしています。

# 問 21 今後長門市では、人口が減少し、少子高齢化が進行することが予測されています。そのようななかで長門市ではどのような福祉サービスを進めていく必要があると思いますか。(MA)

「病院、買い物や公民館等の公的施設に行くための交通手段の確保」が 82.1%で突出しています。「病院まで遠い地域への医師や保健師の派遣」が 35.9%、「家にいながら買い物や診察ができるインターネットやテレビ電話などの情報網の整備」が 34.6%で続いています。



その他回答	類似回答数
独居老人が安心して住めるような細やかなサービス	1
今の時点では運転するので困ったことはなく、将来のことはわからない	1
困った時の(病気の進行に対して)ケアマネジャーなどに相談ができるシステムがほしい	1
どんなサービスが良いかよくわからない	1
近所でお世話してくれる人やグループ	1
仕事を辞めた人が再就職できる支援の充実	1
1、2、5に関わる人への給料への充実	1
脳、心臓医の確保	1
高齢者に仕事をさせる(山の仕事や草刈りなど。報酬も)	1
公園の整備	1
医療従事者の確保。マンパワーの充実から上記の件を考えられるのではと思う	1
子育てのしやすい環境、サービスの充実	1
大学病院、その他遠方への診療時など、交通費(タクシー)の補助金があると大病の時も安心できると思う。紹介状があった場合など	1
買い物代行サービスが望まれる	1
世代間交流促進の機会を増やす(学校、園などで積極的にイベントを仕掛ける)。買い物代行、高齢者(障がい者)でも簡単に操作できるIT機器の導入。高齢者の運動促進のた	1
めの設備の充実(歩きやすい道路含む)。予算がないのは承知の上である Uber的なサービス(民間)があればよい	1

その他回答	類似回答数
どこかで見たことがあるのだが、お年寄りの家や一人暮らしの家に体調が悪くなった時に	
ボタン一つでどこかにつながるものがある。ネットも大事だが、簡単なものがいい。全て必	1
要だと思う。マンション型の老人ホームの中にいろいろな施設が入っているとなお良い	
地域にある程度の品があるスーパーがあればいい	1
子どもの習いごとなどの移動が親なしでできる仕組みがあれば子どものやりたいことが習	
える。やらせてあげることができる。子どもにも便利な長門市にしてほしい	1
山陽の大きな病院へ行かないといけない時など高齢者の方は大変なので、長門病院な	4
どで急患などや大きい病気も市内でみてもらえるようになったら良いと思う	ı
僻地のバスをもっと思い切って安くして、頻繁に利用できるようにする	1
サービスより若い人に職がない	1
小規模校の登下校の安全を守るサービス(デマンドなど)	1
雨が降ってバス停で待つのに、屋根がないバス停があるので濡れる	1
スーパーなどの移動車の充実をお願いしたい	1
デマンド交通の充実	1
今のところ自分でできるから	1
循環器内科や神経内科の医師定住	1
子育て世代の応援	1
もっと大きい病院がほしい。特に整形外科など多くほしい	1
買い物をする場所自体が少なく思い浮かばない	1
交通手段よりも利用できるものが少な過ぎる	1
ウェアラブル端末を使った遠隔の健康管理	1
一人暮らしの高齢者、障がい者用の住宅を整備、集中させる	1
お弁当。一ヵ月に一回でも安価で。希望者だけ会員制で。食事の支度が面倒になる	1
民生委員の役割が広範囲過ぎるので、もう少し高齢者に特化した役員もあっても良いのでは	1
歳を重ねた者にはインターネットなどの利用はできない	1
バス代が高過ぎる。京都-大阪間の JR の運賃よりも高いのではないか。萩市内で行わ	
れている 100 円バスくらい週2回くらいでも走行させたら車を放棄した人は利用するので	1
はないか。何事も挑戦してみることが大切。福祉係の皆さま、市民のためにどこかで提案	'
してほしい。僻地に住む人を大切にする気がなければ国は豊かにはなれない	
ネットを利用するための知識、利用の仕方を教えてくれる場所	1
高齢化が増えてくると病院通い、買い物が困ってくるので、自治会単位で週1回などと決	
めて行かれる手段を作る。自治会長中心に動けるような仕組みを作って行く必要がある	1
のではないかと思う。その中に福祉委員、民生委員と協力するサポートを作る	
高校生までの医療費無料化。子育てにやさしい支援体制の整備(必要に応じた保育士な	1
どの家庭派遣など)	<u>'</u>
福祉施設の拡充。グループホーム、介護付施設	1
地域に働ける事業の導入(若者が働ける環境作り)	1
介護タクシー利用時、多種類の車いすが利用できるタクシーがあるといい。車いすの種類	1
によっては利用できない。日曜日、祭日にも利用できたらと思う	<u>'</u>
買い物代行、または食材の配布、医師の往診、憩いの場、誰でも入れる集まって話がで	1
きる場所	•

その他回答	類似回答数
②の遠い地域もだが、近くの人でも必要な方はおられると思う	1
独居の人の支援体制	1
体が動かなくなり仕事ができない時に経済的にお金がない時はどうなるのか	1
飲食店(チェーン店)や、スーパーの誘致。歩ける範囲にあるように	1
企業誘致による雇用の確保と子育て支援	1
早くコミュニティバスを走らせる	1
福祉とは離れるが、若い人の働く場所がないと地元に若い人が残れない	1
常勤の専門医師の確保	1

40 歳未満では、「病院まで遠い地域への医師や保健師の派遣」「病院やスーパーマーケットまで遠い地域の道路の整備」の割合が、65 歳未満では、「家にいながら買い物や診察ができるインターネットやテレビ電話などの情報網の整備」の割合がそれぞれ他の年代と比べて高くなっています。

	全体	40歳未満	40~64歳	65歳以上
	N=1,439	N=144	N=466	N=782
病院、買い物や公民館等の公的施設に行くための 交通手段の確保	82.1	79.9	84.8	82.1
	25.0	45.0	20.1	20.0
病院まで遠い地域への医師や保健師の派遣	35.9	45.8	39.1	32.2
病院やスーパーマーケットまで遠い地域の道路の	17.9	28.5	17.8	16.5
整備	17.5	20.0	17.0	10.0
家にいながら買い物や診察ができるインターネット	34.6	50.7	43.6	26.3
やテレビ電話などの情報網の整備				
通院や買い物などの外出時の付き添い	27.4	25.7	32.2	25.2
その他	3.7	6.3	4.9	2.4
無回答	4.8	2.1	0.9	7.0

# 世帯構成×問 21

子どものいる家庭では「家にいながら買い物ができるインターネットやテレビ電話などの情報網の整備」、介護を必要とする方のいる家庭では「病院まで遠い地域への保健師の派遣」の割合が、それぞれ他の世帯構成と比べて高くなっています。

	全体 N=1,439		65歳以上の 方のいる家 庭 N=719	と9る万の		INE NEX	生活に困窮 している方の いる家庭 N=21	いずれもい ない N=400
病院、買い物や公民館等の公的施設に行くため の交通手段の確保	82.1	81.0	85.4	83.2	78.5	100.0	81.0	80.5
病院まで遠い地域への医師や保健師の派遣	35.9	38.4	36.9	42.0	37.8	25.0	28.6	34.5
病院やスーパーマーケットまで遠い地域の道路 の整備	17.9	19.8	17.4	16.0	21.5	37.5	19.0	18.3
家にいながら買い物や診察ができるインターネットやテレビ電話などの情報網の整備	34.6	43.0	32.8	31.9	31.9	_	33.3	35.5
通院や買い物などの外出時の付き添い	27.4	25.5	28.5	35.3	30.4	37.5	38.1	25.0
その他	3.7	6.8	3.6	5.9	2.2	_	4.8	2.3
無回答	4.8	3.0	3.5	5.9	5.2	_	14.3	6.0

# 地区別×問21

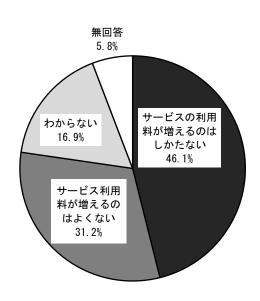
通·俵山では「病院まで遠い地域への医師や保健師の派遣」、仙崎では「通院や買い物などの外出時の付き添い」の割合がそれぞれ他の地域と比べて高くなっています。

	全体 N=1,439	通 N=39	仙崎 N=162	深川 N=465	俵山 N=47	三隅 N=192		油谷 N=225
病院、買い物や公民館等の公的施設に行く ための交通手段の確保	82.1	79.5	81.5	80.9	78.7	86.5	83.8	85.8
病院まで遠い地域への医師や保健師の派遣	35.9	53.8	27.8	35.3	48.9	30.7	39.7	37.8
病院やスーパーマーケットまで遠い地域の 道路の整備	17.9	28.2	17.3	16.6	17.0	16.7	13.2	24.9
家にいながら買い物や診察ができるインター ネットやテレビ電話などの情報網の整備	34.6	20.5	27.2	37.4	34.0	31.8	36.0	32.4
通院や買い物などの外出時の付き添い	27.4	25.6	32.7	27.5	23.4	28.1	26.5	23.6
その他	3.7	5.1	8.6	2.4	2.1	1.6	2.2	3.6
無回答	4.8	2.6	3.7	5.4	8.5	2.6	2.2	3.6

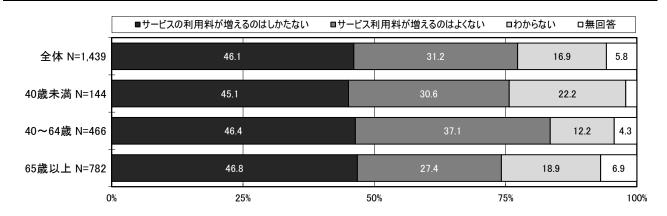
# 問 22 福祉サービスを充実させるためには、限られた財源と相互扶助の観点から、サービスの利用料の増加が予想されます。このことについてどのようにお考えですか。(SA)

「サービスの利用料が増えるのはしかたない」が 46.1%で最も高く、次いで「サービス利用料が増えるのはよくない」 が 31.2%となっています。

(SA) N=1, 439

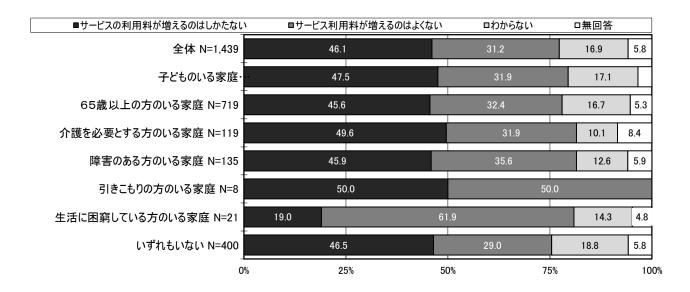


40~64歳では、他の年代と比べて「サービス利用料が増えるのはよくない」の割合が高くなっています。



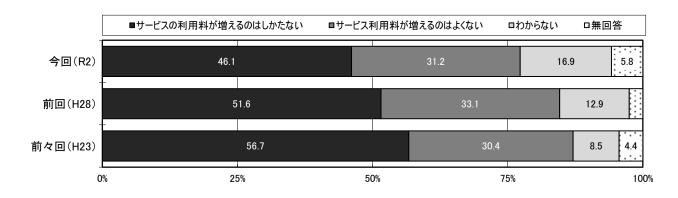
#### 世帯構成×問22

生活に困窮している方のいる家庭では、他の世帯構成と比べて「サービス利用料が増えるのはよくない」の割合が高くなっています。



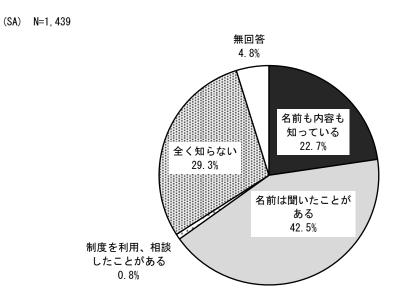
# <問 22 経年比較>

経年の変化をみると、次第に「サービスの利用料が増えるのはしかたない」の割合が低くなり、「わからない」の割合が高くなる傾向がみられます。



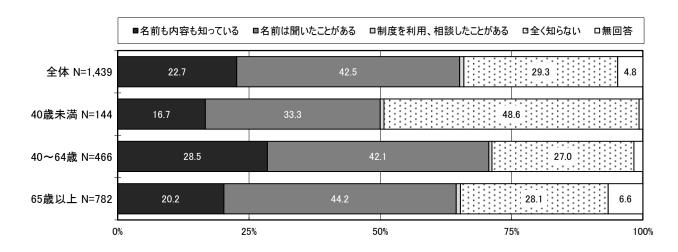
# 問 23 あなたは「成年後見制度」についてどのくらい知っていますか。(SA)

「名前は聞いたことがある」が 42.5%で最も高く、次いで「全く知らない」が 29.3%、「名前も内容も知っている」が 22.7%で続いています。



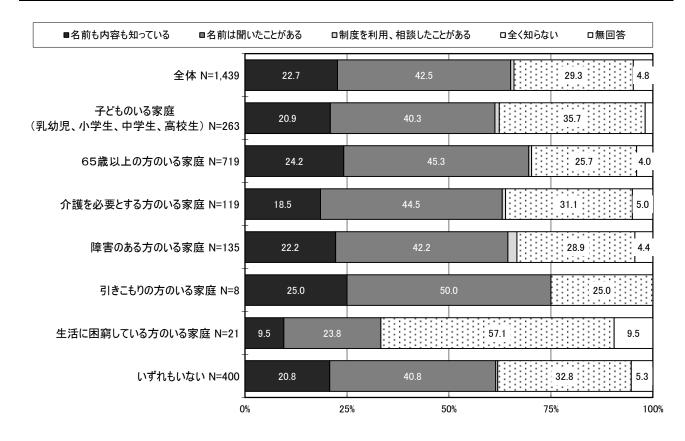
# 年代別×問23

40 歳未満では「全く知らない」、 $40\sim64$  歳では「名前も内容も知っている」の割合が、それぞれ他の年代と比べて高くなっています。



#### 世帯構成×問 23

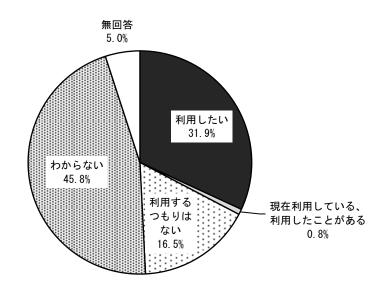
生活に困窮している方のいる家庭では、他の世帯構成と比べて「全く知らない」の割合が高くなっています。



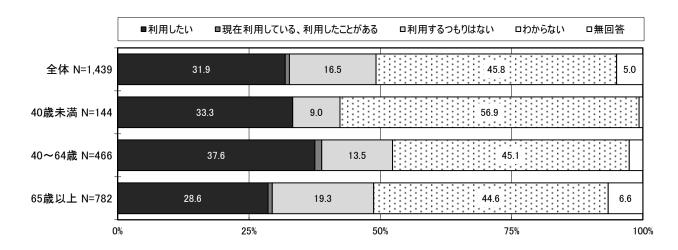
問 24 今後あなたやあなたの家族が認知症などにより判断する力が衰えたとき、成年後見制度を利用したいと思いますか。(SA)

「わからない」が 45.8%で最も高く、次いで「利用したい」が 31.9%、「利用するつもりはない」が 16.5%で続いています。



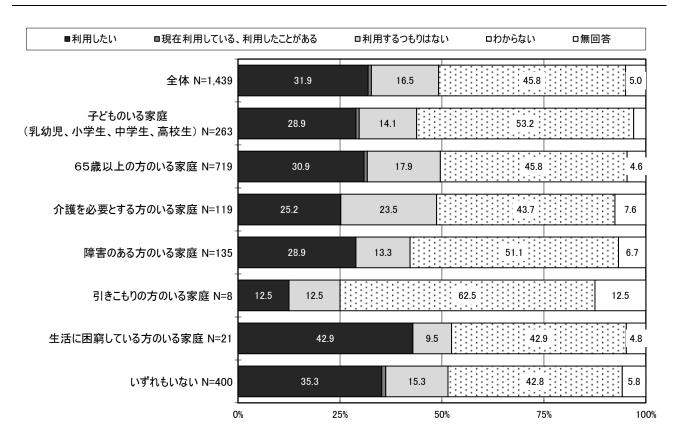


40 歳未満では「利用するつもりはない」、40~64 歳では「利用したい」の割合が、それぞれ他の年代と比べて高くなっています。



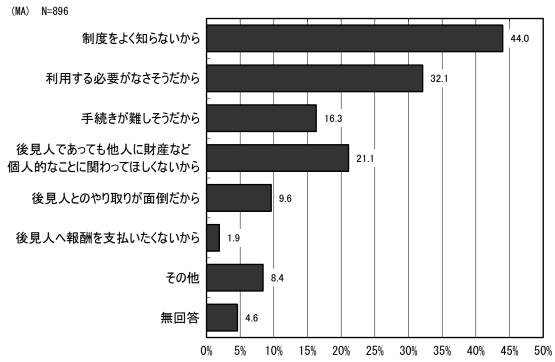
# 世帯構成×問24

生活に困窮している方のいる家庭では、他の世帯構成と比べて「利用したい」の割合が高くなっています。



# 問 24-1 選んだ理由は何ですか。(MA)

「制度をよく知らないから」が 44.0%で最も高くなっています。次いで「利用する必要がなさそうだから」が 32.1%、「後見人であっても他人に財産など個人的なことに関わってほしくないから」が 21.1%で続いています。



その他回答	類似回答数
子どもに任せるから・子どもに相談して決めるから	24
まだ考えたことがない・その状況にならないとわからない	11
家族にまかせたい・家族内で考える	11
後見人が本当に信用できるかわからないから	6
後見人の質のばらつきを感じるから	2
何かのトラブルに遭いそう	2
お金のトラブルが多いから	1
あるかどうかわからない	1
後見人を信用できるかどうか不安。その不安を払拭するために、後見人の生の声、仕事	
内容を紹介。難しいと思うが、具体的な例を挙げて活動報告など。とにかく知る機会を増や	1
す	
「意思を尊重してその人らしい」というのがよく理解できない。認知症や障害者の中には	1
意思がない、わかってあげられない人もいるのでは	ı
身寄りがいない場合は利用せざるを得ないとは思っている	1
家族が利用してトラブルになったから	1
現状では高い報酬を取られ、少ない財産がよりなくなる。高過ぎる。制度を利用して不	1
満があるがやめることができない	ı
年金だけで暮らしていけるか不明	1
後見人制度の良い点、悪い点がほとんど公表されていない。特に不祥事が公表されて	1
いないし、情報もない	ı
使いづらいから	1

その他回答	類似回答数
経済的余裕がない	1
後見人の方と関わったことがあり、印象が良くないから	1
日頃この問題に直面することがなく、口コミがないのでわからない	1
後見人がどういう立場なのかわからない。法的なことでも進められるのか等	1

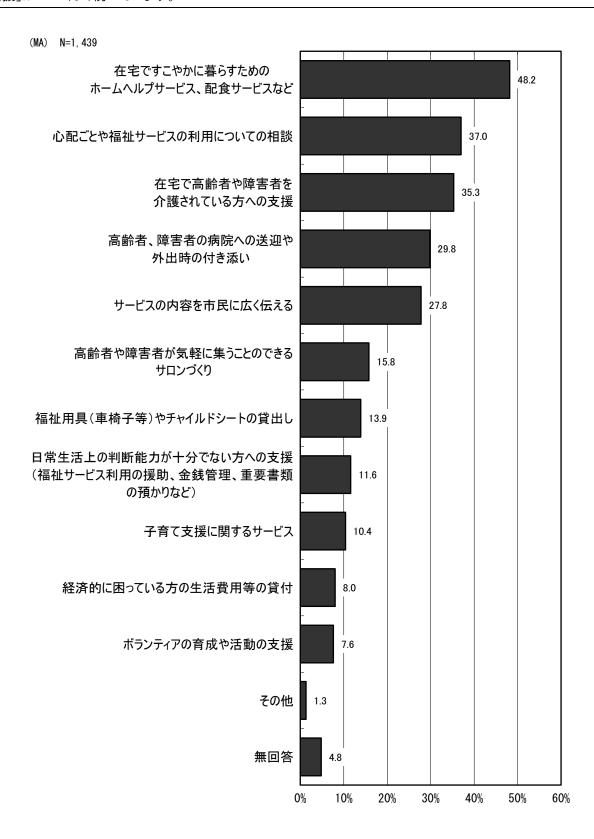
# 年代別×問 24-1

年代が上がるにつれて「利用する必要がなさそうだから」「手続きが難しそうだから」の割合が高くなり、「制度をよく知らないから」の割合が低くなる傾向がみられます。

	全体	全体		40歳未満		·64歳	65点	裁以上
	N=89	96	N=95		N=273		N=5	500
制度をよく知らないから		44.0	62.1			48.0		39.4
利用する必要がなさそうだから		32.1		12.6		25.3		39.6
手続きが難しそうだから		16.3		10.5		13.9		19.2
後見人であっても他人に財産など個人的なことに 関わってほしくないから		21.1		16.8		23.8		20.6
後見人とのやり取りが面倒だから		9.6		6.3		10.6		9.4
後見人へ報酬を支払いたくないから		1.9		-		3.3		1.2
その他		8.4		8.4		9.5		7.8
無回答		4.6		6.3		4.4		4.0

# 問 25 あなたは、「長門市社会福祉協議会」でどのような福祉サービスを進めていく必要があると思いますか。(MA)

「在宅ですこやかに暮らすためのホームヘルプサービス、配食サービスなど」が 48.2%で最も高くなっています。 次いで「心配ごとや福祉サービスの利用についての相談」が 37.0%、「在宅で高齢者や障害者を介護されている方への支援」が 35.3%で続いています。



その他回答	類似回答数
わからない	4
今現在の福祉サービスを全部わかっていない	3
福祉協議会の仕事の内容が理解できていない	2
暇な高齢者に社会に役立つ仕事と報酬を	1
小中学校での授業の一つとして、学校へ行って学ばせる。子どもに指導。子育て、高齢者、	1
障がい者への社会適応能力が伸びると思う	1
国民年金だけで困っている	1
在宅介護により仕事ができない人への支援	1
子育て支援に関する制度の充実	1
サービスなど施設、人力の集中による省力化	1
土日などに相談できるところ	1

40歳未満では「子育て支援に関するサービス」の割合が、40歳以上では「在宅ですこやかに暮らすためのホームヘルプサービス、配食サービスなど」の割合が、65歳未満では「在宅で高齢者や障害者を介護されている方への支援」「日常生活上の判断能力が十分でない方への支援(福祉サービス利用の援助、金銭管理、重要書類の預かりなど)」の割合が、それぞれ他の年代と比べて高くなっています。

年代が上がるにつれて「サービスの内容を市民に広く伝える」の割合が高くなり、「経済的に困っている方の生活費用等の貸付」の割合が低くなる傾向がみられます。

	全体	40歳未満	40~64歳	65歳以上
	N=1,439	N=144	N=466	N=782
心配ごとや福祉サービスの利用についての相談	37.0	21.5	36.1	40.5
福祉用具(車椅子等)やチャイルドシートの貸出し	13.9	15.3	11.4	15.2
高齢者や障害者が気軽に集うことのできるサロンづくり	15.8	15.3	14.6	16.8
在宅ですこやかに暮らすためのホームヘルプサービス、	48.2	39.6	49.6	48.7
配食サービスなど	20.0	00.4	00.7	20.5
高齢者、障害者の病院への送迎や外出時の付き添い	29.8			
在宅で高齢者や障害者を介護されている方への支援	35.3	44.4	44.4	28.8
ボランティアの育成や活動の支援	7.6	10.4	7.7	7.0
日常生活上の判断能力が十分でない方への支援(福祉サービス 利用の援助、金銭管理、重要書類の預かりなど)	11.6	16.7	16.7	7.7
子育て支援に関するサービス	10.4	38.9	10.9	5.1
サービスの内容を市民に広く伝える	27.8	20.8	27.7	29.8
経済的に困っている方の生活費用等の貸付	8.0	13.2	9.4	6.4
その他	1.3	2.1	1.5	0.9
無回答	4.8	2.1	1.5	6.9

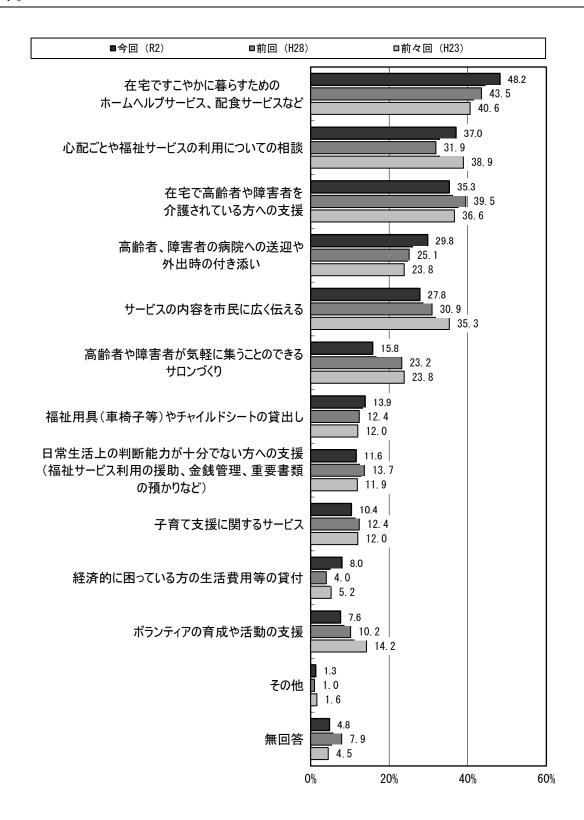
# 世帯構成×問 25

子どものいる家庭では「在宅で高齢者や障害者を介護されている方への支援」「子育て支援に関するサービス」、介護を必要とする方のいる家庭と障害のある方のいる家庭では「高齢者、障害者の病院への送迎や外出時の付き添い」、生活に困窮している方のいる家庭では「日常生活上の判断能力が十分でない方への支援(福祉サービスの利用の援助、金銭管理、重要書類の預かりなど)」「経済的に困っている方への生活費等の貸付」の割合が、それぞれ他の世帯構成と比べて高くなっています。

	N=1,439	児、小学生、	方のいる家 庭 N=719	介護を必要 とする方の いる家庭 N=119		I 孫 N=8	生活に困窮 している方の いる家庭 N=21	いずれもい ない N=400
心配ごとや福祉サービスの利用についての相談	37.0	31.6	39.6	39.5	40.0	37.5	38.1	37.5
福祉用具(車椅子等)やチャイルドシートの貸出し	13.9	11.0	16.0	14.3	12.6	25.0	_	12.3
高齢者や障害者が気軽に集うことのできるサロンづくり	15.8	16.0	15.7	14.3	14.1	25.0	23.8	14.8
在宅ですこやかに暮らすためのホームヘルプサービス、配 食サービスなど	48.2	44.9	52.0	53.8	43.7	37.5	38.1	47.0
高齢者、障害者の病院への送迎や外出時の付き添い	29.8	29.7	28.7	38.7	42.2	25.0	28.6	28.7
在宅で高齢者や障害者を介護されている方への支援	35.3	43.0	37.6	37.0	33.3	50.0	38.1	30.0
ボランティアの育成や活動の支援	7.6	9.5	8.1	5.9	8.1	12.5	9.5	6.8
日常生活上の判断能力が十分でない方への支援(福祉 サービス利用の援助、金銭管理、重要書類の預かりなど)	11.6	11.8	10.3	10.1	14.1	12.5	23.8	11.8
子育て支援に関するサービス	10.4	25.9	8.3	5.9	7.4	_	4.8	6.5
サービスの内容を市民に広く伝える	27.8	28.9	30.2	25.2	25.2	25.0	19.0	27.5
経済的に困っている方の生活費用等の貸付	8.0	9.9	6.4	7.6	9.6	12.5	23.8	9.5
その他	1.3	1.1	0.8	1.7	1.5	-	4.8	2.0
無回答	4.8	3.4	3.3	3.4	4.4	-	4.8	5.3

# <問 25 経年変化>

経年の変化をみると、次第に「在宅ですこやかに暮らすためのホームヘルプサービス、配食サービスなど」「高齢者、障害者の病院への送迎や外出時の付き添い」の割合が高くなり、「サービスの内容を広く市民に伝える」「高齢者や障害者が気軽に集うことのできるサロンづくり」「ボランティアの育成や活動の支援」の割合が低くなる傾向がみられます。

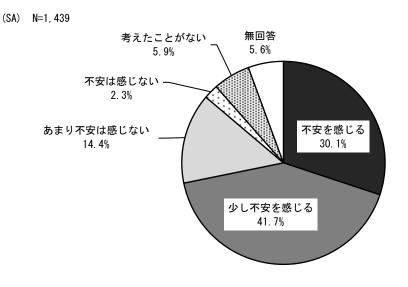


# ともに助け合い、支え合う地域づくりについて

# 問 26 あなたは、ご自分の老後の生活について、何か不安を感じていますか。(SA)

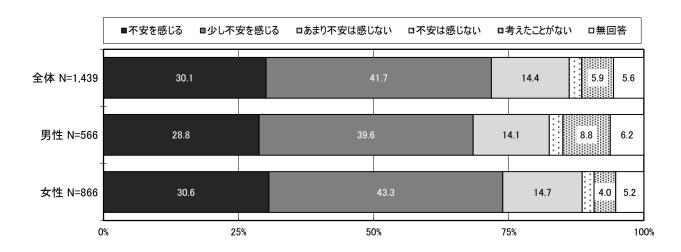
「少し不安を感じる」が 41.7%で最も高くなっています。 次いで「不安を感じる」が 30.1%、「あまり不安は感じない」 が 14.4%で続いています。

「不安を感じる」と「少し不安を感じる」を合わせた割合は71.8%となっています。

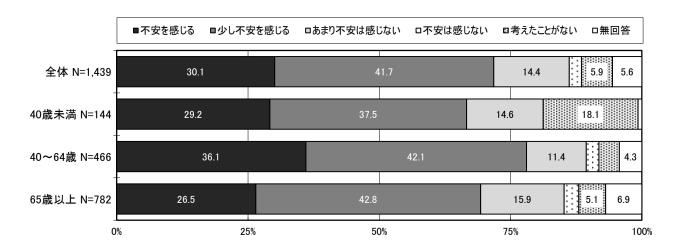


# 性別×問 26

女性は男性に比べて「不安を感じる」と「少し不安を感じる」を合わせた割合が高くなっています。

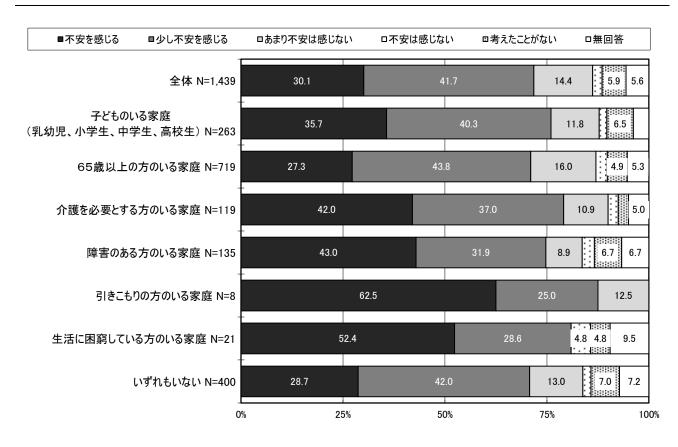


40 歳未満では「考えたことがない」の割合が、40~64 歳では「不安を感じる」の割合が、それぞれ他の年代と比べて高くなっています。



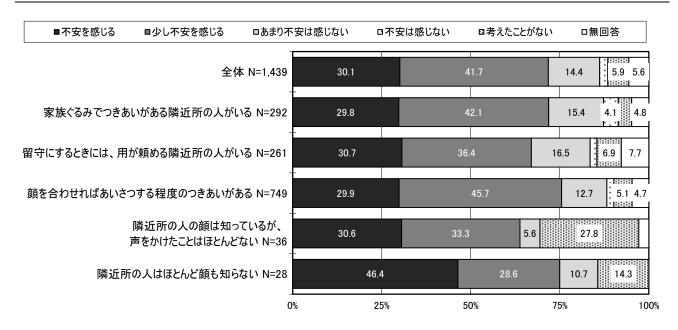
# 世帯構成×問 26

生活に困窮している方のいる家庭では、他の世帯構成と比べて「不安を感じる」の割合が高くなっています。



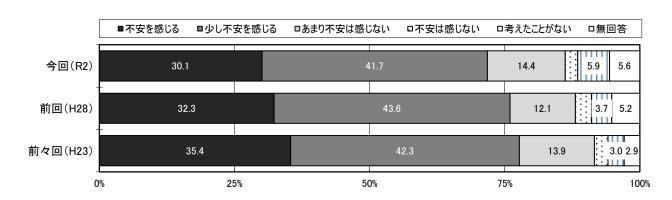
# 問3×問26

「隣近所の人はほとんど顔も知らない」という人は「不安を感じる」、「隣近所の人の顔は知っているが、声をかけたことはほとんどない」という人は「考えたことがない」の割合が、それぞれその他の人と比べて高くなっています。



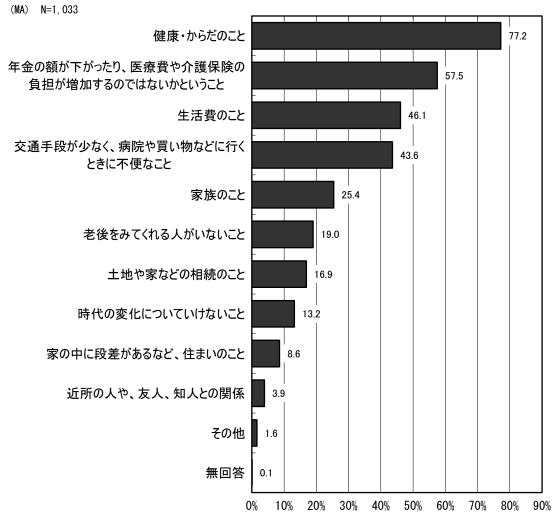
# <問 26 経年比較>

経年の変化をみると、「不安を感じる」と「少し不安を感じる」を合わせた割合は次第に低くなっています。



# 問 26 で「不安を感じる」または「少し不安を感じる」と回答した方におうかがいします。 問 26-1 どういった点に不安を感じていますか。(MA)

「健康・からだのこと」が 77.2%で最も高くなっています。次いで「年金の額が下がったり、医療費や介護保険の負担が増加するのではないかということ」が 57.5%、「生活費のこと」が 46.1%で続いています。



その他回答	類似回答数
老人ホームなどの施設にスムーズに入所できるか心配	3
車の運転ができなくなること	2
地域の高齢化	1
諸々の手続き、物や情報の処理、始末	1
上記内容全てに思いを寄せるのは当然である(長門市以外でも同様)	1
最低限の住民税や保険料、他、家の固定費が払えるか	1
ゴミステーションまで車で行く距離なので、老後が不安である。お寺の行事に出ることが大変	1
子どもたちが県外にいること	1
考えたくないし成り行きに任せない	1
孤独死	1
生きること自体不安である	1
自分で食事の用意ができなくなり家族が大変で不安	1
年金制度が既に崩壊している	1

その他回答	類似回答数
現在の状態ならいいが、これから 10 年後生きていれば上記の不安はある	1
政治の腐敗に怒り	1
自分で動けなくなった時の生活全般	1
全ての公的手続きが平日しかできないこと	1

#### 性別×問 26-1

女性は男性と比べて「交通手段が少なく、病院や買い物などに行くときに不便なこと」の割合が高くなっています。

	全位	<b></b>	男性	ŧ	女性	Ē
	N=1	,033	N=3	87	N=6	40
生活費のこと		46.1		46.0		45.9
健康・からだのこと		77.2		77.8		76.9
家の中に段差があるなど、住まいのこと		8.6		6.7		9.8
家族のこと		25.4		27.9		24.1
老後をみてくれる人がいないこと		19.0		19.1		18.8
近所の人や、友人、知人との関係		3.9		2.3		4.8
交通手段が少なく、病院や買い物などに行くとき		43.6		35.7		48.3
に不便なこと		10.0				10.0
時代の変化についていけないこと		13.2		11.9		14.1
年金の額が下がったり、医療費や介護保険の		57.5		57.6		57.5
負担が増加するのではないかということ		07.0		07.0		07.0
土地や家などの相続のこと		16.9		17.6		16.4
その他		1.6		1.6		1.6
無回答		0.1		0.3		_

# 年代別×問 26-1

年代が上がるにつれて「生活費のこと」「家族のこと」「年金の額が下がったり、医療費や介護保険の負担が増加するのではないかということ」の割合が低くなり、「健康・からだのこと」「家の中に段差があるなど、住まいのこと」「交通手段が少なく、病院や買い物などに行くときに不便なこと」「時代の変化についていけないこと」の割合が高くなる傾向がみられます。

	全体	40歳未満	40~64歳	65歳以上
	N=1,033	N=96	N=364	N=542
生活費のこと	46.1	77.1	61.5	30.8
健康・からだのこと	77.2	60.4	72.8	83.8
家の中に段差があるなど、住まいのこと	8.6	5.2	8.2	9.6
家族のこと	25.4	32.3	29.9	21.0
老後をみてくれる人がいないこと	19.0	14.6	22.3	17.3
近所の人や、友人、知人との関係	3.9	5.2	3.0	4.2
交通手段が少なく、病院や買い物などに行くときに 不便なこと	43.6	40.6	42.6	45.6
時代の変化についていけないこと	13.2	11.5	12.1	13.7
年金の額が下がったり、医療費や介護保険の負担 が増加するのではないかということ	<b>5</b> 7.5	70.8	66.8	49.4
土地や家などの相続のこと	16.9	17.7	20.9	13.5
その他	1.6	1.0	2.5	1.3
無回答	0.1	_	0.3	_

# 世帯構成×問 26-1

子どものいる家庭と生活に困窮している方のいる家庭では「生活費のこと」「年金の額が下がったり、医療費や介護保険の負担が増加するのではないかということ」、介護を必要とする方のいる家庭と障害のある方のいる家庭では「健康・からだのこと」の割合が、それぞれ他の世帯構成と比べて高くなっています。また、生活に困窮している方のいる家庭では「老後をみてくれる人がいないこと」「近所の人や、友人、知人との関係」の割合も他の世帯構成と比べて高くなっています。

	全体 N=1,033	児、小学生、	65歳以上の 方のいる家 庭 N=511	とする万の	障害のある 方のいる家 庭 N=101	51さこもりの 方のいる家 麻 N=7	生活に困窮 している方の いる家庭 N=17	いずれもい ない N=283
生活費のこと	46.1	70.0	43.2	42.6	42.6	71.4	64.7	42.4
健康・からだのこと	77.2	62.5	79.8	88.3	82.2	57.1	76.5	76.3
家の中に段差があるなど、住まいのこと	8.6	6.0	10.2	14.9	6.9	_	-	8.1
家族のこと	25.4	33.0	24.9	20.2	37.6	71.4	41.2	21.6
老後をみてくれる人がいないこと	19.0	3.5	22.1	25.5	22.8	14.3	41.2	20.8
近所の人や、友人、知人との関係	3.9	2.5	3.5	2.1	1.0	-	11.8	5.7
交通手段が少なく、病院や買い物などに行くときに 不便なこと	43.6	45.5	43.6	43.6	47.5	57.1	47.1	43.8
時代の変化についていけないこと	13.2	9.5	15.1	12.8	13.9	14.3	17.6	12.7
年金の額が下がったり、医療費や介護保険の 負担が増加するのではないかということ	57.5	73.5	58.1	59.6	50.5	71.4	70.6	55.5
土地や家などの相続のこと	16.9	13.5	18.8	17.0	14.9	14.3	17.6	16.3
その他	1.6	2.0	2.0	2.1	1.0	14.3	-	1.4
無回答	0.1	-	0.2	-	-	-	-	-

# 地区別×問 26-1

通・日置・油谷では「交通手段が少なく、病院や買い物などに行くときに不便なこと」の割合が、それぞれ他の地区と比べて高くなっています。

	全体	通 N=32	仙崎	深川	俵山	三隅	日置	油谷
	N=1,033	匝 11-32	N=110	N=345	N=32	N=143	N=100	N=147
生活費のこと	46.1	31.3	50.0	46.7	65.6	49.0	41.0	42.9
健康・からだのこと	77.2	71.9	74.5	79.1	78.1	76.2	81.0	74.8
家の中に段差があるなど、住まいのこと	8.6	6.3	7.3	8.1	15.6	5.6	8.0	12.2
家族のこと	25.4	6.3	30.0	28.1	21.9	25.2	23.0	19.7
老後をみてくれる人がいないこと	19.0	21.9	22.7	17.7	25.0	15.4	24.0	16.3
近所の人や、友人、知人との関係	3.9	6.3	4.5	3.5	6.3	2.1	3.0	5.4
交通手段が少なく、病院や買い物などに行くときに 不便なこと	43.6	<b>65</b> .6	35.5	29.0	46.9	48.3	<b>5</b> 5.0	63.3
時代の変化についていけないこと	13.2	6.3	14.5	12.2	6.3	13.3	17.0	17.0
年金の額が下がったり、医療費や介護保険の負担 が増加するのではないかということ	<b>5</b> 7.5	56.3	56.4	59.7	68.8	60.1	43.0	56.5
土地や家などの相続のこと	16.9	9.4	16.4	18.8	15.6	18.9	18.0	14.3
その他	1.6	3.1	2.7	1.4	3.1	0.7	1.0	2.0
無回答	0.1	_	-	-	-	_	_	0.7

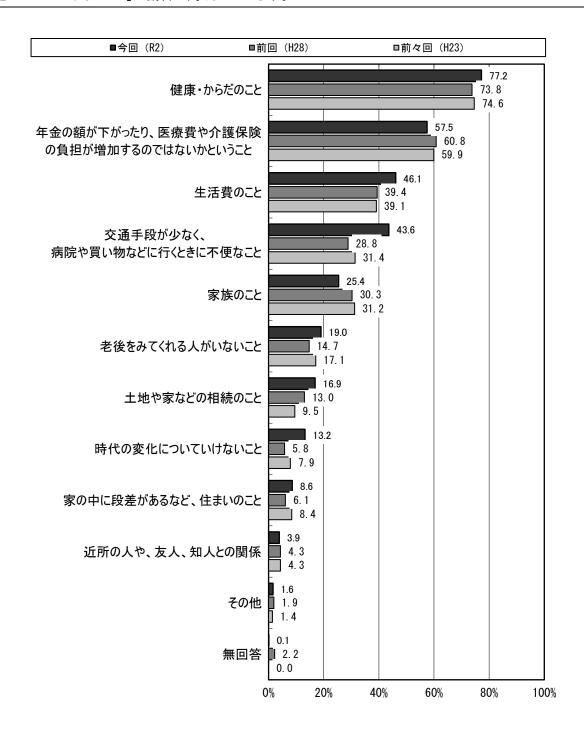
# 問3×問26-1

「隣近所の人の顔は知っているが、声をかけたことはほとんどない」「隣近所の人はほとんど顔も知らない」という人は、その他の人と比べて「生活費のこと」「老後をみてくれる人がいないこと」「年金の額が下がったり、医療費や介護保険の負担が増加するのではないかということ」の割合が高くなっています。

	全体 N=1,033	近所の人がいる N=210		顔を合わせれば あいさつする程 度のつきあいが ある N=566	隣近所の人の顔 は知っている が、声をかけた ことはほとんど ない N=23	隣近所の人はほ とんど顔も知ら ない N=21
生活費のこと	46.1	44.3	40.6	46.8	65.2	76.2
健康・からだのこと	77.2	81.0	79.4	76.1	56.5	76.2
家の中に段差があるなど、住まいのこと	8.6	8.6	7.4	8.5	4.3	9.5
家族のこと	25.4	23.3	24.6	26.0	34.8	23.8
老後をみてくれる人がいないこと	19.0	14.3	17.1	20.3	30.4	42.9
近所の人や、友人、知人との関係	3.9	3.3	4.6	3.5	8.7	9.5
交通手段が少なく、病院や買い物などに 行くときに不便なこと	43.6	47.1	48.0	43.5	21.7	23.8
時代の変化についていけないこと	13.2	12.9	12.6	12.5	30.4	14.3
年金の額が下がったり、医療費や介護保険の 負担が増加するのではないかということ	57.5	59.0	53.7	58.0	73.9	66.7
土地や家などの相続のこと	16.9	16.7	16.6	17.0	21.7	23.8
その他	1.6	1.4	1.7	1.4	4.3	4.8
無回答	0.1	-	0.6	-	-	_

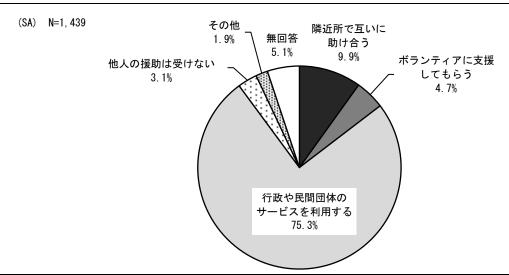
# <問 26-1 経年比較>

前回、前々回と比較して、「生活費のこと」「交通手段が少なく、病院や買い物などに行くときに不便なこと」「時代の変化についていけないこと」の割合が高くなっています。



# 問 27 あなたは誰かの援助が必要なときに、家族などにみてもらう以外に次のどれを重視しますか。(SA)

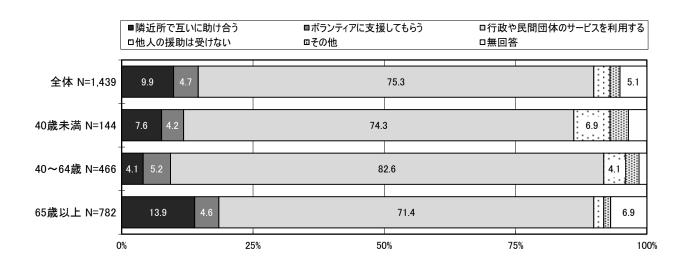
「行政や民間団体のサービスを利用する」が 75.3%で突出しています。「隣近所で互いに助け合う」が 9.9%、「ボランティアに支援してもらう」が 4.7%で続いています。



その他回答	類似回答数
友人、知人	3
その時次第	2
親戚	2
誰もいない	1
生活費があまりないのでできる範囲で行政に見てほしい	1
施設に入る	1
我慢する	1
自助、共助、公助と言うが、それ以外思いつかない	1

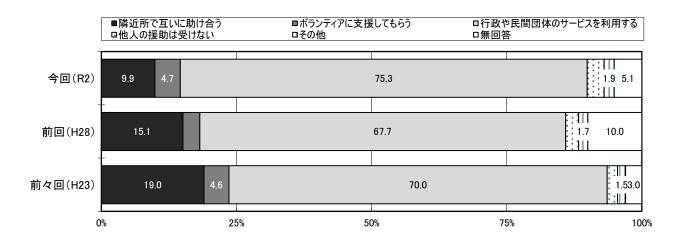
# 年代別×問27

65歳以上では「隣近所で互いに助け合う」の割合が他の年代と比べて高くなっています。



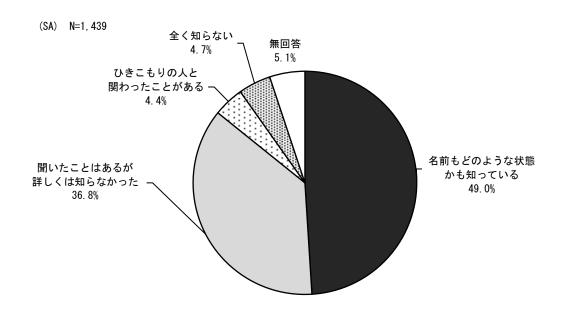
# <問 27 経年比較>

経年の変化をみると、「隣近所で互いに助け合う」の割合が、次第に低くなっています。

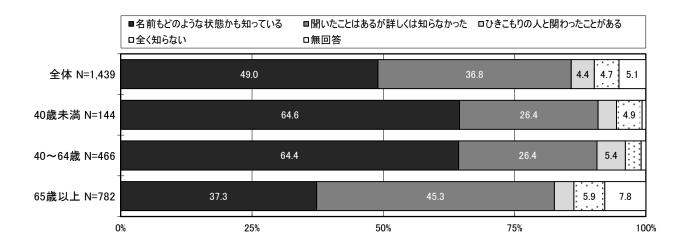


# 問 28 あなたは「ひきこもり」についてどのくらい知っていますか。(SA)

「名前もどのような状態かも知っている」が 49.0%で最も高く、次いで「聞いたことはあるが詳しくは知らなかった」が 36.8%、「全く知らない」が 4.7%で続いています。

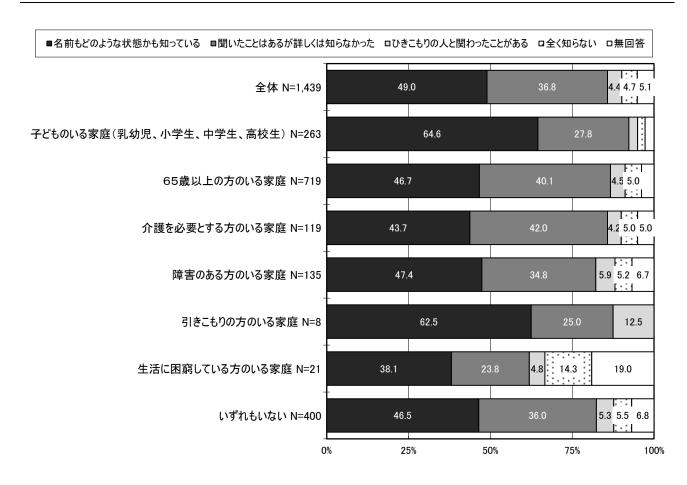


65 歳以上では、他の年代と比べて「聞いたことはあるが詳しくは知らなかった」の割合が高くなっています。



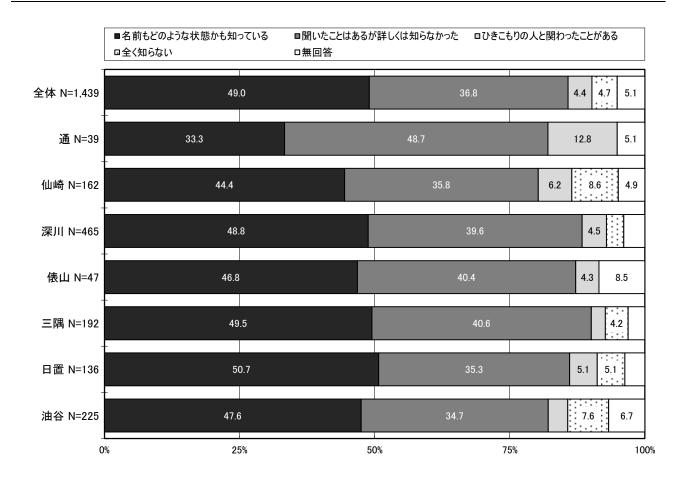
# 世帯構成×問 28

子どものいる家庭では「名前もどのような状態かもよく知っている」、生活に困窮している方のいる家庭では「全く知らない」の割合が、他の世帯構成と比べて高くなっています。



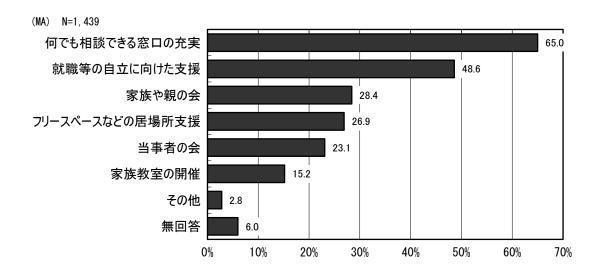
# 地区別×問28

通では他の地区と比べて「聞いたことはあるが詳しくは知らなかった」の割合が高くなっています。



問 29 ひきこもりの方やその家族に対する支援として、どのような支援が必要だと思われますか。 (MA)

「何でも相談できる窓口の充実」が 65.0%で最も高くなっています。次いで「就職等の自立に向けた支援」が 48.6%、「家族や親の会」が 28.4%で続いています。



その他回答	類似回答数
わからない	10
心療医によるカウンセリング	1
贅沢かもしれないが、自分の現状に劣等感を抱かせないような就職支援(働くのは楽しい	-1
と感じさせること)が必要。経験者と語るなど	1
カウンセリングやプロの方の紹介やそれにかかる金銭面の支援。知られたくない方もおら	1
れると思うのでそういう方が求める支援	<b>I</b>
当該家庭に介入する(家族を分ける)支援	1
きっかけを作ることだと思う。何かのきっかけづくりが必要だと考える	1
支援しても引きこもりから立ち直る人がいるかどうか	1
根気よく定期的に関わっていけるボランティアの養成	1
普通に生活する者には理解できない	1
SNS などのアプリなどを活用して、不安に感じていることなど情報の共有を理解、共感し	1
あえる居場所を作る(またはVRの活用)	I
作業所の充実	1
精神科へまず受診をする勇気(本人、家族)	1
わかりやすく自分に合った行政の助けがほしい	1
引きこもりの専門の方	1
環境の変化	1
他人との交流機会を増やす	1
行き届いた親身な支援をする	1
当事者とその家族からしっかり話を聞き、3、4、5、6に参加したいのか、そっとしておいて	4
ほしいのか意見を聞く。当事者は家からも出たくない人がいると思うので	1
引きこもりの原因などによって支援策が異なると思う	1
引きこもりの本人、家族が立ち上がらないとどうにもならないと思う。まずそこからで周囲	1
が動いても空回りだと思う	l
毎日本人に声をかけてくれる地域、行政以外のプロの方が必要である	1
程度に応じて何ができるか。親、兄弟と相談しながら対策を検討する	1
学校での連携体制	1
自分で直す	1
アウトリーチスタッフ	1
家族を含めたカウンセラーとの面談	1
ひきこもりになってからだけでなく、ならないように幼児・小学生からの支援をしっかり行う	1

40~64歳では、他の年代と比べて「家族教室の開催」「家族や親の会」の割合が高くなっています。 年代が上がるにつれて「何でも相談できる相談窓口の充実」の割合が高くなる傾向がみられます。

	全体	40歳未満	40~64歳	65歳以上
	N=1,439	N=144	N=466	N=782
何でも相談できる窓口の充実	65.0	55.6	61.8	69.2
フリースペースなどの居場所支援	26.9	38.9	36.5	19.4
家族教室の開催	15.2	11.8	20.2	12.7
就職等の自立に向けた支援	48.6	56.3	58.6	41.4
当事者の会	23.1	25.0	28.8	19.8
家族や親の会	28.4	27.8	35.8	24.4
その他	2.8	3.5	2.6	2.7
無回答	6.0	1.4	1.9	8.7

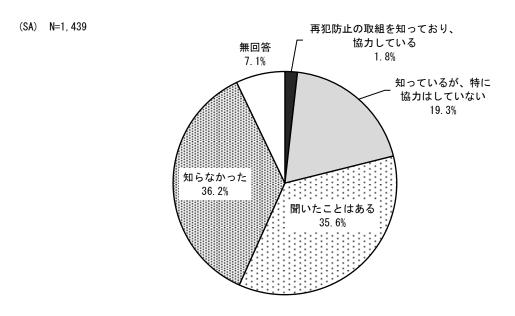
# 世帯構成×問 29

子どものいる家庭では「フリースペースなどの居場所支援」「就職等の自立に向けた支援」、生活に困窮している方のいる家庭では「何でも相談できる窓口の充実」の割合が、それぞれ他の世帯構成と比べて高くなっています。

	全体 N=1,439	児、小学生、	65歳以上の 方のいる家 庭 N=719	介護を必要 とする方の いる家庭 N=119		51さこもりの 方のいる家 麻 N=8	生活に困窮 している方の いる家庭 N=21	いずれもい ない N=400
何でも相談できる窓口の充実	65.0	62.0	65.9	73.1	63.0	75.0	81.0	66.3
フリースペースなどの居場所支援	26.9	34.6	26.7	26.9	25.2	50.0	23.8	25.0
家族教室の開催	15.2	19.0	16.7	15.1	17.0	37.5	14.3	12.8
就職等の自立に向けた支援	48.6	56.7	50.2	43.7	45.2	50.0	42.9	47.5
当事者の会	23.1	23.2	23.6	17.6	23.0	37.5	19.0	22.3
家族や親の会	28.4	31.9	28.8	28.6	26.7	25.0	9.5	29.3
その他	2.8	2.3	3.1	5.0	5.9	_	9.5	2.5
無回答	6.0	3.0	5.4	5.9	5.9	-	9.5	6.3

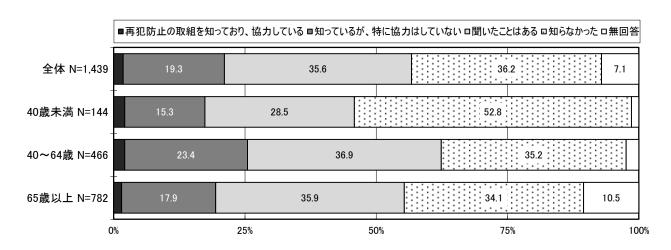
# 問30 あなたは再犯防止の取組が進められていることを知っていますか。(SA)

「知らなかった」が 36.2%で最も高く、次いで「聞いたことはある」が 35.6%、「知っているが、特に協力はしていない」が 19.3%で続いています。



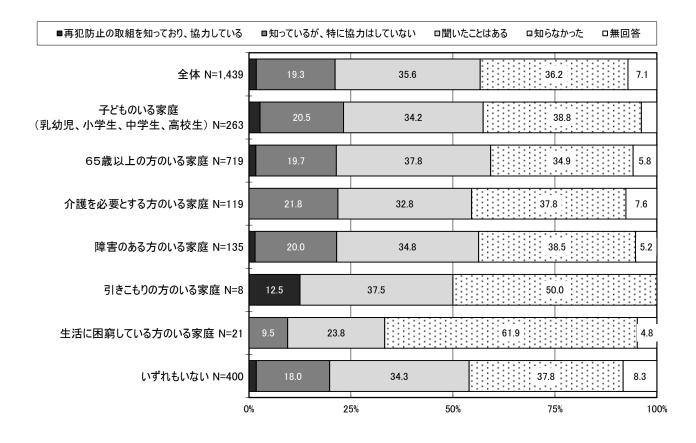
# 年代別×問30

40 歳未満では「知らなかった」の割合が、 $40\sim64$  歳では「知っているが、特に協力はしていない」の割合が、それぞれ他の年代と比べて高くなっています。



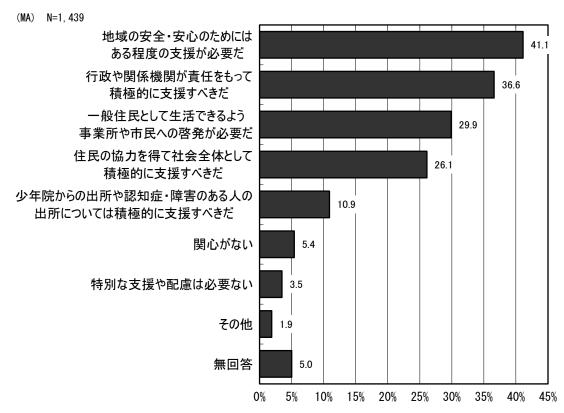
# 世帯構成×問30

生活に困窮している方のいる家庭では、他の世帯構成と比べて「知らなかった」の割合が高くなっています。



# 問 31 刑務所や少年院を出た人が円滑に社会復帰できるように支援することについて、あなたの考えに特に近いものを選んでください。 (MA)

「地域の安全・安心のためにはある程度の支援が必要だ」が 41.1%で最も高くなっています。次いで「行政や関係機関が責任をもって積極的に支援すべきだ」が 36.6%、「一般住民として生活できるよう事業所や市民への啓発が必要だ」が 29.9%で続いています。



その他回答	類似回答数
わからない	5
犯罪の内容による(凶悪犯に支援すべきではない)	3
犯罪者の支援も必要だが、被害者の支援をもっとすべき	1
私たちにできることは少ないと思う	1
本人の意識	1
出所後の環境が変わらないと同じループに陥る可能性がある。職場(理解がなされた上	1
で差別の少ない事業所)。大変だろうと思うが、粘り強い見守り、受け入れ家族の教育	<b>I</b>
支援は必要と思うが、噂や誹謗中傷する人は絶対にいると思う	1
まじめに働かせる教育。人としての基礎教育	1
心からその人に寄り添う人が多分少ない。特に市役所の人間には少ない	1
受け入れ企業に人(学習や研修含む)、経済支援をすべき	1
再犯しないよう、罪のない人が被害者にならないよう、専門機関の長期的な支援	1
仕事、収入の確保	1
その人の人権があるので周囲があまり立ち入らないで助けを求められた時に必要に応じ	1
て支援すべきだと思う	1
社会復帰してほしいが、自分の近くには来ないでほしい	1
復帰者が安心して相談できる窓口が必要	1

その他回答	類似回答数
専門知識を持っている人が関わるべき	1
犯罪の質や程度によっては地域住民に知らせておくべきだ	1

65歳以上では「住民の協力を得て社会全体として積極的に支援すべきだ」の割合が、40歳以上では「一般住民として生活できるよう事業所や市民への啓発が必要だ」の割合が、それぞれ他の年代と比べて高くなっています。

	全体	40歳未満	40~64歳	65歳以上
	N=1,439	N=144	N=466	N=782
住民の協力を得て社会全体として積極的に支援 すべきだ	26.1	22.9	21.5	29.9
行政や関係機関が責任をもって積極的に支援 すべきだ	36.6	34.0	38.2	36.4
少年院からの出所や認知症・障害のある人の 出所については積極的に支援すべきだ	10.9	9.7	9.9	11.5
一般住民として生活できるよう事業所や市民へ の啓発が必要だ	29.9	18.1	30.7	31.6
地域の安全・安心のためにはある程度の支援 が必要だ	41.1	40.3	45.1	39.5
特別な支援や配慮は必要ない	3.5	6.3	5.6	1.7
関心がない	5.4	10.4	5.4	4.7
その他	1.9	2.1	2.8	1.3
無回答	5.0	0.7	1.7	7.3

# 世帯構成×問31

生活に困窮している方のいる家庭では、他の世帯構成と比べて「少年院からの出所や認知症・障害のある人の出所については積極的に支援すべきだ」「一般住民として生活できるよう事業所や市民への啓発が必要だ」の割合が高くなっています。

	全体 N=1,439	児、小学生、	65歳以上の 方のいる家 庭 N=719	介護を必要 とする方の いる家庭 N=119	障害のある 方のいる家 庭 N=135	引きこもりの 方のいる家 庭 N=8	生活に困窮 している方の いる家庭 N=21	いずれもい ない N=400
住民の協力を得て社会全体として 積極的に支援すべきだ	26.1	25.1	27.1	26.9	31.9	25.0	33.3	25.3
行政や関係機関が責任をもって 積極的に支援すべきだ	36.6	31.9	38.4	38.7	31.9	62.5	33.3	37.0
少年院からの出所や認知症・障害 のある人の出所については積極的 に支援すべきだ	10.9	9.1	10.8	15.1	16.3	25.0	28.6	11.8
一般住民として生活できるよう事 業所や市民への啓発が必要だ	29.9	25.5	33.5	29.4	25.9	50.0	38.1	30.0
地域の安全・安心のためにはある 程度の支援が必要だ	41.1	44.1	45.5	42.9	34.8	37.5	28.6	35.3
特別な支援や配慮は必要ない	3.5	5.3	2.1	5.0	8.1	_	_	4.8
関心がない	5.4	6.8	4.3	5.9	8.9	-	9.5	4.8
その他	1.9		1.4			-	_	1.5
無回答	5.0	1.5	4.2	3.4	3.7	_	4.8	6.0

# 地区別×問31

通·俵山では「一般住民として生活できるよう事業所や市民への啓発が必要だ」の割合が他の地区と比べて高く、 また通では「地域の安全・安心のためにはある程度の支援が必要だ」の割合も他の地区と比べて高くなっています。

	全体 N=1,439	通 N=39	仙崎 N=162		俵山 N=47	三隅 N=192	日置 N=136	油谷 N=225
住民の協力を得て社会全体として積極的に 支援すべきだ	26.1	23.1	24.7	26.9	25.5	26.0	20.6	29.8
行政や関係機関が責任をもって積極的に支援すべきだ	36.6	35.9	34.0	39.6	31.9	39.6	33.8	35.6
少年院からの出所や認知症・障害のある人 の出所については積極的に支援すべきだ	10.9	10.3	11.1	12.7	14.9	7.8	11.8	8.9
一般住民として生活できるよう事業所や 市民への啓発が必要だ	29.9	38.5	33.3	27.7	38.3	31.8	27.9	29.3
地域の安全・安心のためにはある程度の 支援が必要だ	41.1	51.3	35.8	43.0	44.7	42.2	41.9	37.8
特別な支援や配慮は必要ない	3.5	2.6	2.5	3.7	4.3	5.2	2.9	3.6
関心がない	5.4	7.7	7.4	5.2	6.4	4.2	7.4	6.7
その他	1.9	2.6	2.5	1.5	_	1.0	2.9	1.3
無回答	5.0	ı	4.3	3.7	4.3	3.1	4.4	7.1

# 問3×問31

「隣近所の人はほとんど顔も知らない」という人は、その他の人と比べて「行政や関係機関が責任をもって積極的に支援すべきだ」の割合が高くなっています。

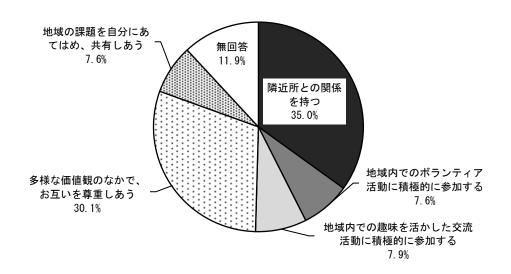
	全体 N=	1,439	きあいがある隣 近所の人がいる	には、用が頼め る隣近所の人が	度のつきあいが ある N=749	が、声をかけた	隣近所の人はほ とんど顔も知ら ない N=28
住民の協力を得て社会全体として積極的に支援すべきだ		26.1	34.2	31.0	23.0	5.6	17.9
行政や関係機関が責任をもって積極的に支援すべきだ		36.6	36.6	31.4	38.3	38.9	60.7
少年院からの出所や認知症・障害のある人の出所 については積極的に支援すべきだ		10.9	6.8	10.0	12.6	16.7	17.9
一般住民として生活できるよう事業所や市民への啓発が 必要だ		29.9	30.8	32.6	29.9	22.2	3.6
地域の安全・安心のためにはある程度の支援が必要だ		41.1	39.4	44.1	42.2	36.1	28.6
特別な支援や配慮は必要ない		3.5	3.4	2.7	3.9	-	7.1
関心がない		5.4	4.1	3.8	5.7	22.2	7.1
その他		1.9	1.4	2.3	2.1	-	-
無回答		5.0	3.1	4.6	4.8	2.8	7.1

問 32 ともに助け合い、支え合う地域づくりを推進するために、それぞれの立場の役割と して何が重要だとお考えですか。

# あなたご自身の役割(SA)

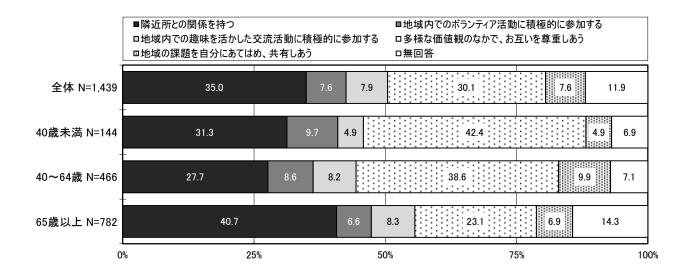
「隣近所との関係を持つ」が 35.0%で最も高くなっています。次いで「多様な価値観のなかで、お互いを尊重しあう」が 30.1%、「地域内での趣味を活かした交流活動に積極的に参加する」が 7.9%で続いています。

(SA) N=1.439



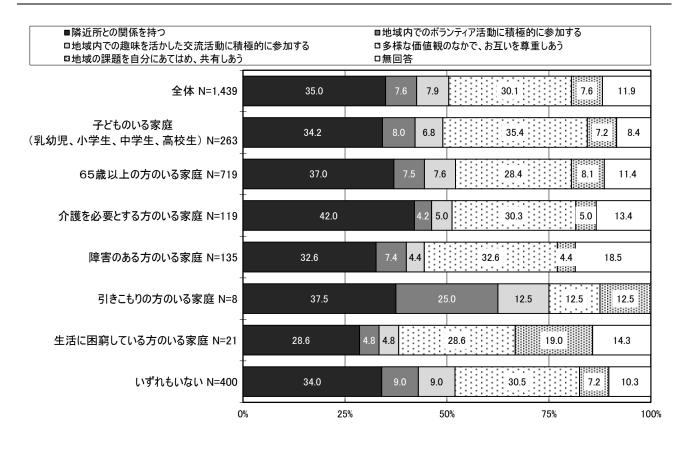
#### 年代別×問32①

65歳以上では「隣近所との関係を持つ」の割合が、他の年代と比べて高くなっています。



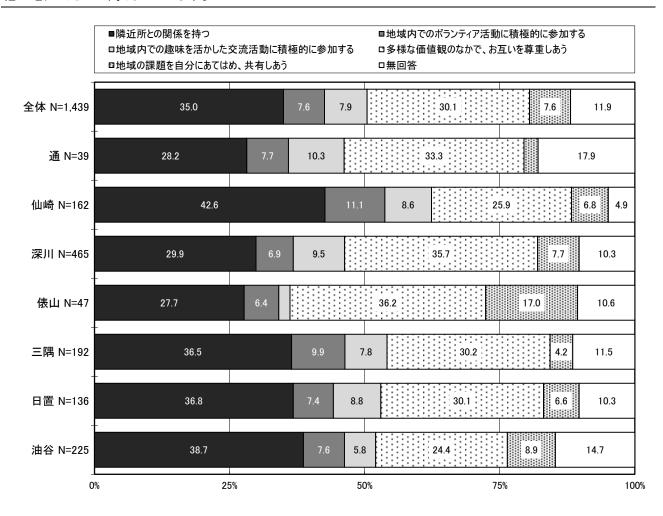
## 世帯構成×問 32①

生活に困窮している方のいる家庭では、他の世帯構成と比べて「地域の課題を自分にあてはめ、共有しあう」の割合が高くなっています。



#### 地区別×問32①

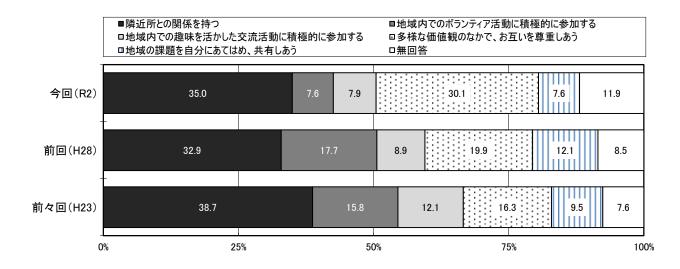
仙崎では「隣近所との関係を持つ」、俵山では「地域の課題を自分にあてはめ、共有しあう」の割合が、それぞれ他の地区と比べて高くなっています。



#### <問 32① 経年比較>

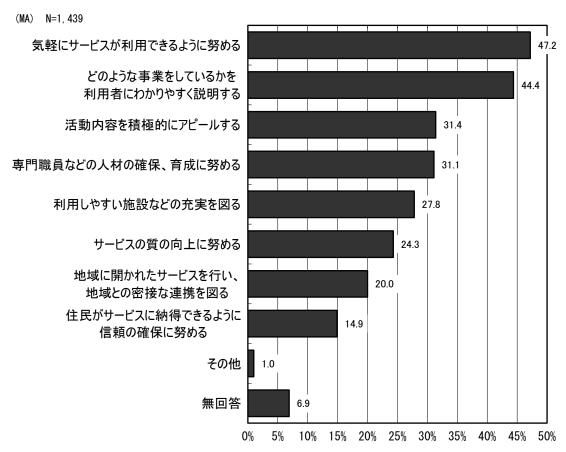
前回、前々回と比較して、「地域内でのボランティア活動に積極的に参加する」の割合は低くなり、「多様な価値観のなかで、お互いを尊重しあう」の割合は高くなっています。

また、「地域内での趣味を生かした交流活動に積極的に参加する」の割合は次第に低くなる傾向がみられます。



## ② 社会福祉協議会や福祉サービス事業所等の役割(MA)

「気軽にサービスが利用できるように努める」が 47.2%で最も高くなっています。次いで「どのような事業をしている かを利用者にわかりやすく説明する」が 44.4%、「活動内容を積極的にアピールする」が 31.4%で続いています。



その他回答	類似回答数
わからない	2
よくわからない。自助努力を	1
自分の体が無理なので、できないので娘がしている	1
いろいろと相談に応じてあげる	1
回覧板にサービスを提示、広く告知する	1
体が不自由というか歩くのが長く歩けないので	1
ありきたりで良いなと思えないので魅力のあるものを	1
知り得た情報をしゃべるようなことがあってはならない	1
批准した国際条約を守ること。特に子どもの条約	1
狭い地域なので、秘密を厳守すべき	1

## 年代別×問32②

40歳以上では、40歳未満と比べて「利用しやすい施設などの充実を図る」の割合が高くなっており、40~64歳では、他の年代と比べて「地域に開かれたサービスを行い、地域との密接な連携を図る」の割合も高くなっています。

	全体	40歳未満	40~64歳	65歳以上
	N=1,439	N=144	N=466	N=782
活動内容を積極的にアピールする	31.4	27.8	31.8	32.0
専門職員などの人材の確保、育成に努める	31.1	36.1	36.7	27.5
サービスの質の向上に努める	24.3	39.6	30.9	17.8
どのような事業をしているかを利用者にわかりやすく 説明する	44.4	46.5	44.0	44.6
地域に開かれたサービスを行い、地域との密接な 連携を図る	20.0	18.1	23.2	18.7
気軽にサービスが利用できるように努める	47.2	46.5	48.9	47.1
住民がサービスに納得できるように信頼の確保に 努める	14.9	17.4	11.4	16.5
利用しやすい施設などの充実を図る	27.8	15.3	27.3	30.7
その他	1.0	0.7	0.4	1.3
無回答	6.9	1.4	2.6	9.6

## 世帯構成×問32②

生活に困窮している方のいる家庭では、他の世帯構成と比べて「住民がサービスに納得できるように信頼の確保に努める」の割合が高くなっています。

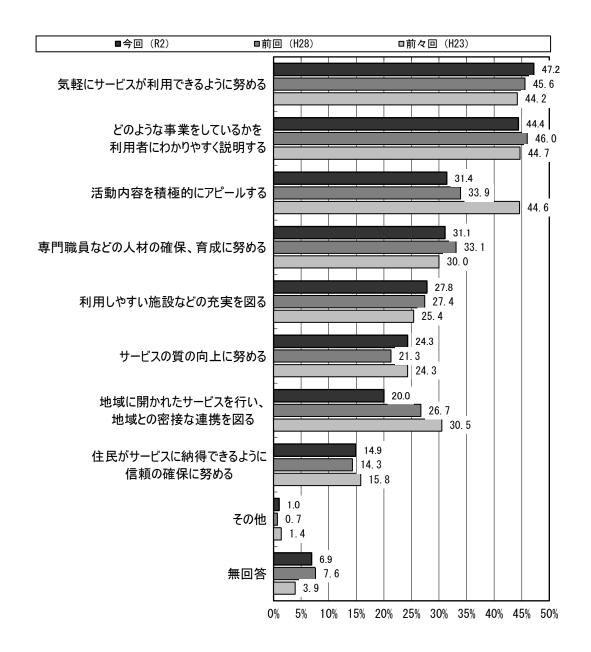
	全体 N=1,43	9	児、小学生、	65歳以上の 方のいる家 庭 N=719	とする万の	方のいる家	51さこもりの 方のいる家 麻 N=8	生活に困窮 している方の いる家庭 N=21	いずれもい ない N=400
活動内容を積極的にアピールする		31.4	30.4	33.9	33.6	28.9	50.0	28.6	31.8
専門職員などの人材の確保、育成に努める		31.1	35.0	31.0	32.8	31.9	37.5	23.8	32.3
サービスの質の向上に努める		24.3	32.3	22.0	29.4	25.2	37.5	14.3	21.3
どのような事業をしているかを利用者に わかりやすく説明する		44.4	46.4	48.3	48.7	41.5	12.5	42.9	42.0
地域に開かれたサービスを行い、地域との 密接な連携を図る		20.0	22.8	21.4	14.3	17.8	_	23.8	17.0
気軽にサービスが利用できるように努める		47.2	45.6	48.8	40.3	40.7	62.5	52.4	48.0
住民がサービスに納得できるように信頼の 確保に努める		14.9	14.1	14.0	10.9	14.8	12.5	19.0	16.0
利用しやすい施設などの充実を図る		27.8	24.7	28.2	26.9	28.1	25.0	19.0	29.0
その他		1.0	0.4	1.0	0.8	1.5	-	4.8	0.5
無回答		6.9	2.3	6.4	8.4	11.1	12.5	9.5	6.5

## 地区別×問32②

通では「気軽にサービスが利用できるように努める」「住民がサービスに納得できるように信頼の確保に努める」「利用しやすい施設などの充実を図る」の割合が他の地区と比べて高くなっています。

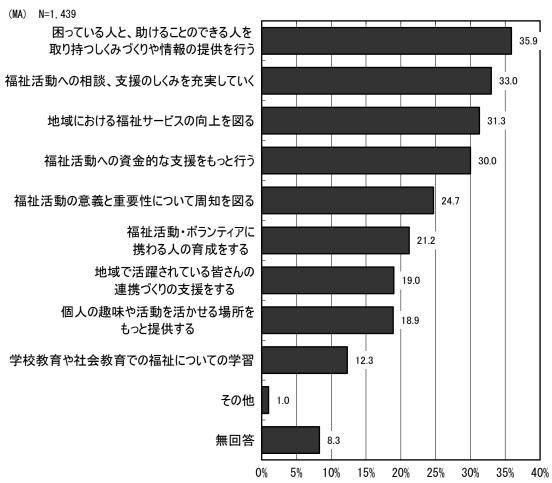
	全体 N=1.439	通 N=39	仙崎 N=162		俵山 N=47	三隅 N=192	日置 N=136	油谷 N=225
活動内容を積極的にアピールする	31.4	28.2	28.4	36.1	40.4	30.7	33.1	25.3
専門職員などの人材の確保、育成に努める	31.1	25.6	34.0	31.0	25.5	28.1	33.8	30.7
サービスの質の向上に努める	24.3	30.8	27.2	26.9	25.5	19.3	23.5	20.0
どのような事業をしているかを利用者に わかりやすく説明する	44.4	38.5	44.4	48.0	44.7	45.8	48.5	43.1
地域に開かれたサービスを行い、地域との 密接な連携を図る	20.0	15.4	17.9	19.6	25.5	22.9	19.9	19.6
気軽にサービスが利用できるように努める	47.2	64.1	43.8	45.6	55.3	51.6	47.8	47.6
住民がサービスに納得できるように信頼の 確保に努める	14.9	25.6	17.3	13.1	8.5	13.5	12.5	17.8
利用しやすい施設などの充実を図る	27.8	46.2	28.4	26.2	29.8	28.6	27.2	26.2
その他	1.0	2.6	1.9	0.2	_	-	2.2	1.3
無回答	6.9	_	4.9	5.6	6.4	4.7	5.9	9.8

## <問32② 経年比較>



## ③ 行政の役割(MA)

「困っている人と、助けることのできる人を取り持つしくみづくりや情報の提供を行う」が 35.9%で最も高くなっています。次いで「福祉活動への相談、支援のしくみを充実していく」が 33.0%、「地域における福祉サービスの向上を図る」が 31.3%で続いています。



その他回答	類似回答数
わからない	4
公務員こそ積極的にボランティア、地域行事に参加してほしい(公務ではなく)	1
ここに行けば何でも解決できるような窓口を一ヶ所作ってほしい。そこからいろいろなとこ	1
ろを紹介したりする。サービス情報を使用しやすい仕組み	<b>I</b>
人権の問の部分で在日外国人へ対しての問があっても良いのでは	1
地域経済を活性化推進するため、都市部からの流入を促し、若い人々の働く場所を作る	1
行政の役割はいろいろあるが、どれも仕事でするのではなく、本当にその人のためになる	1
ように心がける。セレモニーにならないことが重要	1
ただし公金は使わない努力	1
人権侵害をした謝罪をする	1

# 年代別×問32③

40 歳未満では「学校教育や社会教育での福祉についての学習」、40~64 歳では「福祉活動への相談、支援のしくみを充実していく」「地域における福祉サービスの向上を図る」の割合が、それぞれ他の年代と比べて高くなっています。

	全体	40歳未満	40~64歳	65歳以上
	N=1,439	N=144	N=466	N=782
福祉活動の意義と重要性について周知を図る	24.7	22.9	21.5	26.7
福祉活動への資金的な支援をもっと行う	30.0	34.0	38.0	<b>2</b> 5.1
個人の趣味や活動を活かせる場所をもっと提供する	18.9	22.2	14.8	20.8
地域で活躍されている皆さんの連携づくりの支援をする	19.0	14.6	19.7	19.9
福祉活動・ボランティアに携わる人の育成をする	21.2	21.5	22.1	21.4
福祉活動への相談、支援のしくみを充実していく	33.0	29.2	38.8	30.4
困っている人と、助けることのできる人を取り持つしくみづくりや情報の提供を行う	35.9	38.2	37.8	34.9
学校教育や社会教育での福祉についての学習	12.3	<b>2</b> 5.7	12.7	9.3
地域における福祉サービスの向上を図る	31.3	23.6	36.7	29.4
その他	1.0	0.7	1.3	1.0
無回答	8.3	2.1	2.6	12.0

## 世帯構成×問32③

子どものいる家庭では「学校教育や社会教育での福祉についての学習」、生活に困窮している方のいる家庭では「福祉活動への資金的な支援をもっと行う」の割合が、それぞれ他の世帯構成と比べて高くなっています。

	全体 N=1,439		全体 N=1.430 児、小学生、		65歳以上の 方のいる家 庭 N=719	介護を必要 とする方の いる家庭 N=119	方のいる家	引きこもりの 方のいる家 庭 N=8	生活に困窮 している方の いる家庭 N=21	いずれもい ない N=400
福祉活動の意義と重要性について周知を図る		24.7	24.3	26.1	26.9	22.2	25.0	19.0	23.8	
福祉活動への資金的な支援をもっと行う		30.0	33.8	31.3	28.6	31.1	37.5	42.9	28.5	
個人の趣味や活動を活かせる場所をもっと提供 する		18.9	19.0	19.2	15.1	18.5	12.5	23.8	19.8	
地域で活躍されている皆さんの連携づくりの支援 をする		19.0	20.9	20.9	19.3	18.5	25.0	4.8	18.0	
福祉活動・ボランティアに携わる人の育成をする		21.2	17.5	23.6	22.7	23.0	37.5	23.8	18.5	
福祉活動への相談、支援のしくみを充実していく		33.0	30.4	33.1	32.8	27.4	12.5	28.6	34.5	
困っている人と、助けることのできる人を取り持つ しくみづくりや情報の提供を行う	;	35.9	38.4	36.7	37.8	36.3	37.5	38.1	34.8	
学校教育や社会教育での福祉についての学習		12.3	22.4	11.4	12.6	14.1	-	9.5	10.3	
地域における福祉サービスの向上を図る	;	31.3	27.8	31.8	26.9	25.9	25.0	23.8	33.5	
その他		1.0	1.1	0.6	0.8	1.5	_	9.5	1.0	
無回答		8.3	4.6	7.8	11.8	13.3	25.0	14.3	8.3	

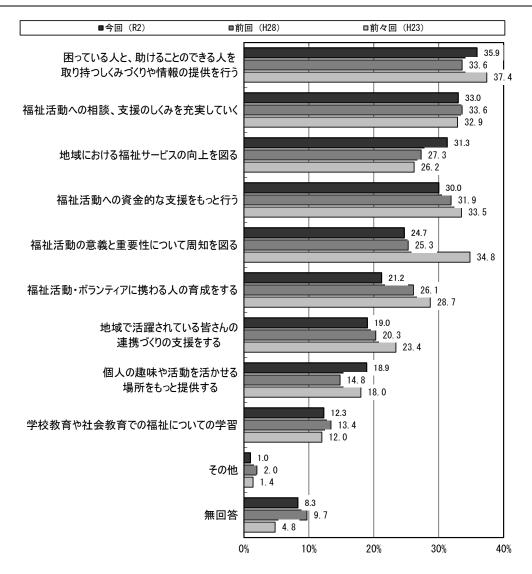
#### 地区別×問32③

俵山では「福祉活動の意義と重要性について周知を図る」「地域で活躍されている皆さんの連携づくりの支援をする」、日置では「福祉活動への資金的な支援をもっと行う」、通では「地域における福祉サービスの向上を図る」の割合が、それぞれ他の地区と比べて高くなっています。

	全体		通 N=39	仙崎		深川	俵山	三隅	日置	油谷
	N=1,439	9	<u>ш</u> и-ээ	N=16	2	N=465	N=47	N=192	N=136	N=225
福祉活動の意義と重要性について周知を図る	24	1.7	15.4		22.2	28.0	38.3	24.5	19.9	24.0
福祉活動への資金的な支援をもっと行う	30	0.0	30.8		32.7	28.8	31.9	24.5	39.0	28.4
個人の趣味や活動を活かせる場所を	10	3.9	12.8		16.0	21.1	14.9	20.3	17.6	14.7
もっと提供する	10	5.9	12.0		10.0	21.1	14.3	20.3	17.0	14.7
地域で活躍されている皆さんの	10	0.0	20.5		19.1	18.3	25.5	19.3	18.4	18.2
連携づくりの支援をする	13	,.0	20.0		13.1	10.0	20.0	13.0	10.4	10.2
福祉活動・ボランティアに携わる人の育成をする	21	1.2	17.9		26.5	20.2	21.3	22.9	22.8	19.6
福祉活動への相談、支援のしくみを充実していく	33	3.0	33.3		37.7	34.0	34.0	30.7	30.1	30.2
困っている人と、助けることのできる人を取り持つ	25	5.9	28.2		33.3	38.3	31.9	37.5	39.7	33.3
しくみづくりや情報の提供を行う	30	ງ.ອ	20.2		33.3	30.3	31.8	37.5	39.7	33.3
学校教育や社会教育での福祉についての学習	12	2.3	10.3		12.3	12.9	10.6	11.5	17.6	10.2
地域における福祉サービスの向上を図る	31	1.3	56.4		34.0	28.6	44.7	31.3	29.4	30.7
その他	1	1.0	2.6		1.2	1.5	ı	-	1.5	1.3
無回答	8	3.3	10.3		6.8	5.8	6.4	7.8	7.4	11.1

## <問 32③ 経年比較>

経年の変化をみると、「地域における福祉サービスの向上を図る」の割合が次第に高くなっています。



# 新型コロナウイルス感染症について

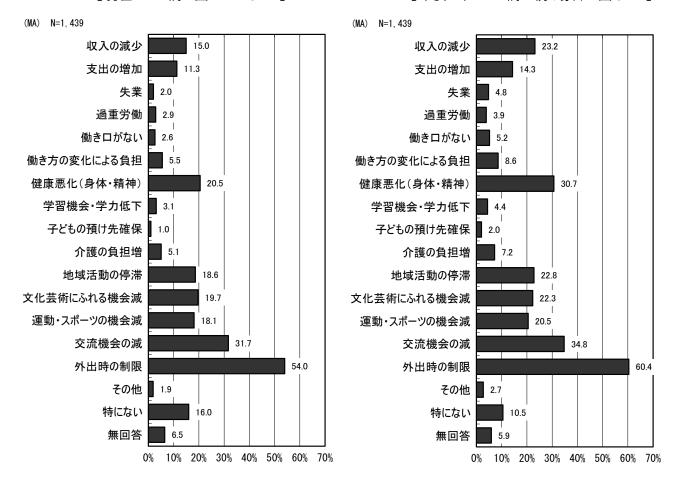
# 問 33 コロナ禍の中で、現在あなたが困っていることと、今後1年コロナ禍が続くと仮定したときに困ることは何ですか。(MA)

コロナ禍で現在困っていることについて「外出時の制限」が 54.0%で突出しています。次いで「交流機会の減」が 31.7%、「健康悪化(身体・精神)」が 20.5%で続いています。

コロナ禍が今後1年続いた場合に困ることとして「外出時の制限」が 60.4%で突出しています。「交流機会の減」が 34.8%、「健康悪化(身体・精神)」が 30.7%で続いています。

現在困っていることとコロナ禍が続いた場合に困ることを比較すると、すべての項目で割合が高くなっています。差が大きいものは「収入の減少」で8.2ptの増加、「健康悪化(身体・精神)」で10.2ptの増加となっています。

#### 【現在□□ナ禍で困っていること】



# 【現在コロナ禍で困っていること】

その他回答	類似回答数
帰省できない	3
面会制限	2
温泉などに行かれない	1
社会的な不安	1
県外へ行かれない	1
海外渡航の禁止	1
家族、子どもに会えない(県外に出ている者)	1
他者とのコロナに対する認識の違い	1
マスクの強要	1
病院に行きにくい、店が汚い	1
主人の病後(がん手術後)	1
気軽に食事をとれる場所がない	1
仕事上感染リスクが高い	1
102歳の母の老人ホームへ行かれない	1
コロナと政府の対応への不安	1

その他回答	類似回答数
感染すること	3
帰省できない	2
子どもや孫に会えない	2
もし入院してもお見舞いに行かれない	1
社会的な不安	1
万一自分が感染したら十分な治療が受けられるか	1
県外へ行かれない	1
通常の活動は放棄となる	1
子どもたちが結婚式を挙げられないこと	1
高齢の両親のこと	1
リモート学習になった場合ネット環境が悪い	1
施設入所者の精神状態が心配	1
他者とのコロナに対する認識の違い	1
今年金で生活しているけど、これから先年金が減ったら困る	1
マスクの強要	1
別居家族や親族と交流できない	1
病院に行きにくい	1
気軽に食事をとれる場所がない	1
入院中や、県外在住の親類との接触ができないこと	1
学習環境の悪化。コミュニケーションの低下。特に高齢者	1
仕事上感染リスクが高い	1

#### 年代別×問33

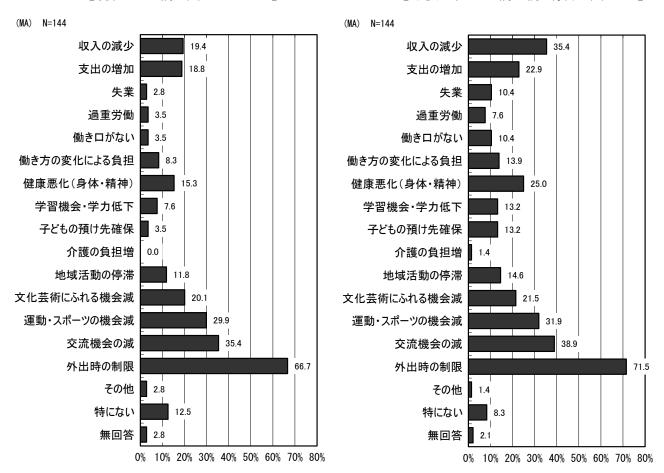
#### 【40 歳未満】

40 歳未満では、□ロナ禍で現在困っていることについて「外出時の制限」が 66.7%で突出しています。次いで「交流機会の減」が 35.4%、「運動・スポーツの機会減」が 29.9%で続いています。

コロナ禍が今後1年続いた場合に困ることとして「外出時の制限」が 71.5%で突出しています。「交流機会の減」が 38.9%、「収入の減少」が 35.4%で続いています。

現在困っていることとコロナ禍が続いた場合に困ることを比較すると、すべての項目で割合が高くなっています。 差が大きいものは「収入の減少」で 16.0pt の増加、「健康悪化(身体・精神)」「子どもの預け先確保」でともに 9.7pt の増加となっています。

#### 【現在コロナ禍で困っていること】



## 【40~64歳】

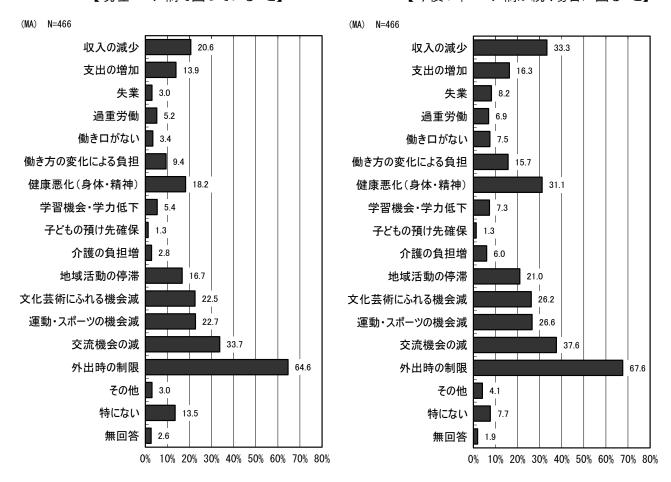
40 歳未満では、□ロナ禍で現在困っていることについて「外出時の制限」が 64.6%で突出しています。次いで「交流機会の減」が 33.7%、「運動・スポーツの機会減」が 22.7%で続いています。

コロナ禍が今後1年続いた場合に困ることとして「外出時の制限」が 67.6%で突出しています。「交流機会の減」が 37.6%、「収入の減少」が 33.3%で続いています。

現在困っていることとコロナ禍が続いた場合に困ることを比較すると、すべての項目で割合が高くなっています。差が大きいものは「収入の減少」で12.7pt の増加、「健康悪化(身体・精神)」で12.9pt の増加となっています。

40 歳未満と比較して、概ね同様の傾向となっています。

#### 【現在コロナ禍で困っていること】



## 【65 歳以上】

65 歳以上では、コロナ禍で現在困っていることについて「外出時の制限」が 45.3%で最も高く、次いで「交流機会 の減」が30.2%、「健康悪化(身体・精神)」が22.8%で続いています。

コロナ禍が今後1年続いた場合に困ることとして「外出時の制限」が 54.3%で最も高く、次いで「交流機会の減」が 32.6%、「健康悪化(身体・精神)」が32.0%で続いています。

現在困っていることとコロナ禍が続いた場合に困ることを比較すると、すべての項目で割合が高くなっていますが、 65 歳未満と比較すると差は小さい傾向がみられます。中でも差が大きいものは「外出時の制限」で 9.0pt の増加と なっています。



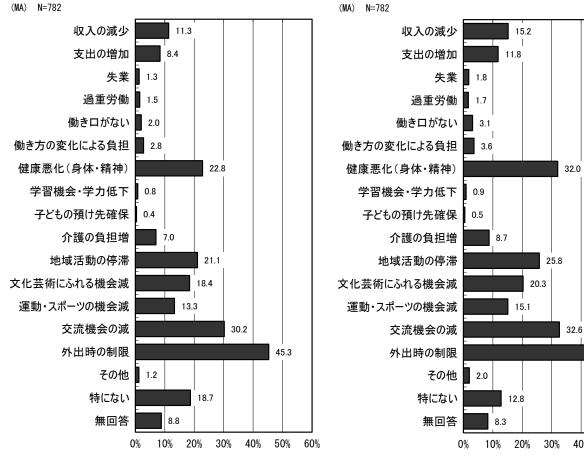
【現在コロナ禍で困っていること】

## 【今後1年コロナ禍が続く場合に困ること】

54.3

60%

40%



## 世帯構成×問33

特にない

無回答

8.0

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80%

3.0

#### 【子どものいる家庭(乳幼児、小学生、中学生、高校生)】

子どものいる家庭では、コロナ禍で現在困っていることについて「外出時の制限」が 69.2%で突出しています。次いで「交流機会の減」が 38.4%、「運動・スポーツの機会減」が 34.6%で続いています。

コロナ禍が今後1年続いた場合に困ることとして「外出時の制限」が 72.6%で突出しています。「交流機会の減」が 41.8%、「運動・スポーツの機会減」が 36.9%で続いています。

現在困っていることとコロナ禍が続いた場合に困ることを比較すると、すべての項目で割合が高くなっています。 差が大きいものは「収入の減少」で 16.7pt の増加、「健康悪化(身体・精神)」で 12.6pt の増加となっています。

#### 【現在□□ナ禍で困っていること】 【今後1年コロナ禍が続く場合に困ること】 (MA) N=263 (MA) N=263 収入の減少 17.9 収入の減少 34.6 支出の増加 20.5 支出の増加 24.0 失業 1.1 失業 5.7 過重労働 過重労働 8.0 働き口がない ■ 3.0 働き口がない 働き方の変化による負担 働き方の変化による負担 健康悪化(身体・精神) 16.3 健康悪化(身体・精神) 28.9 学習機会·学力低下 13.3 学習機会 · 学力低下 18.6 子どもの預け先確保 子どもの預け先確保 9.1 介護の負担増 ■ 3.4 介護の負担増 地域活動の停滞 18.3 地域活動の停滞 23.2 文化芸術にふれる機会減 文化芸術にふれる機会減 24.7 26.6 運動・スポーツの機会減 運動・スポーツの機会減 34.6 36.9 交流機会の減 38.4 交流機会の減 41.8 外出時の制限 69.2 外出時の制限 72.6 その他 その他 2.7 4.6

特にない

無回答

46

2.3

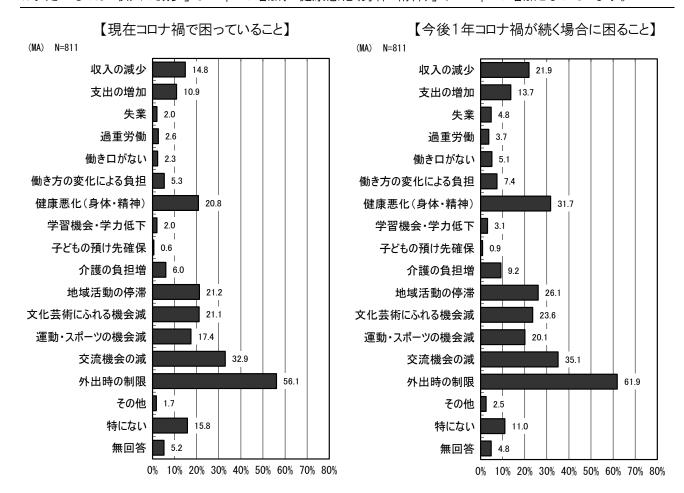
0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80%

## 【高齢者、障害者、要介護者のいる家庭】

高齢者、障害者、要介護者のいる家庭では、コロナ禍で現在困っていることについて「外出時の制限」が 56.1%で 突出しています。次いで「交流機会の減」が 32.9%、「地域活動の停滞」が 21.2%で続いています。

コロナ禍が今後1年続いた場合に困ることとして「外出時の制限」が 61.9%で突出しています。「交流機会の減」が 35.1%、「健康悪化(身体・精神)」が 31.7%で続いています。

現在困っていることとコロナ禍が続いた場合に困ることを比較すると、すべての項目で割合が高くなっています。差が大きいものは「収入の減少」で 7.1pt の増加、「健康悪化(身体・精神)」で 10.9pt の増加となっています。

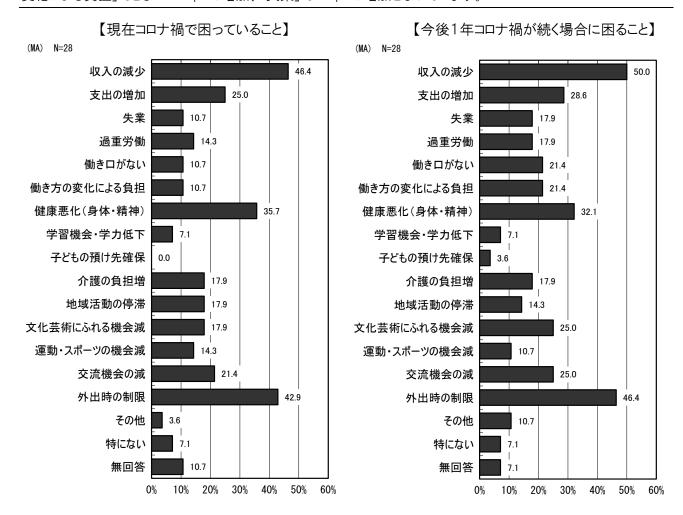


## 【引きこもりの方、生活困窮者のいる家庭】

引きこもりの方、生活困窮者のいる家庭では、コロナ禍で現在困っていることについて「収入の減少」が 46.4%で最も高く、次いで「外出時の制限」が 42.9%、「健康悪化(身体・精神)」が 35.7%で続いています。

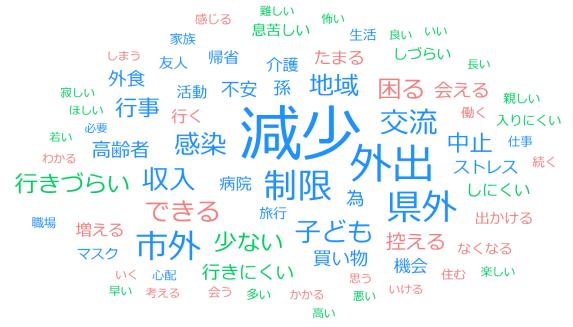
コロナ禍が今後1年続いた場合に困ることとして「収入の減少」が 50.0%で最も高く、次いで「外出時の制限」が 46.4%、「健康悪化(身体・精神)」が 32.1%で続いています。

現在困っていることとコロナ禍が続いた場合に困ることを比較すると、差が大きいものは「働き口がない」「働き方の変化による負担」でともに 10.7pt の増加、「失業」で 7.2pt の増加となっています。



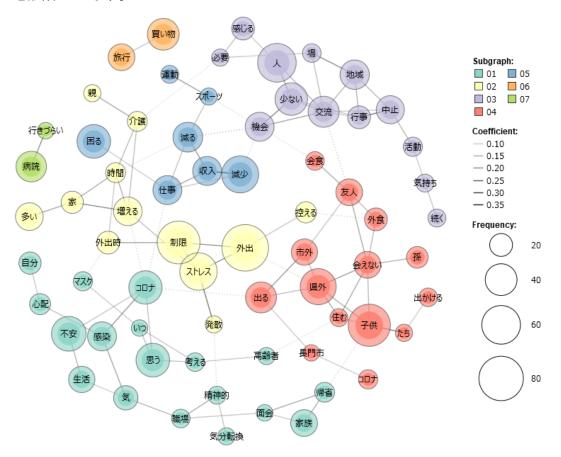
# 問 33-1 現在コロナ禍で困っていることについて、具体的にお答えください。(FA) < テキストマイニングによるワードクラウド結果 >

AI が判断して特徴的で頻出回数の多い単語が大きく表示されています。青色が名詞、赤色が動詞、緑色が形容詞を表しています。



## <テキストマイニングによる共起分析結果>

頻出頻度が多いほど大きな円で表示され、色ごとに結び付き(言葉や文章としてのつながり)の強いグループを形成しています。



共起分析結果より回答内容の傾向をみると、「外出」「制限」「ストレス」の単語が目立っています。そこから「増える」「家」「時間」「介護」へのつながりがみられ、外出制限や在宅時間の増加によって介護に関する課題を抱えている人がいることがわかります。

また「子供」からは「会えない」「県外」、その先には「友人」などの単語にもつながりがみられ、県をまたがる移動の制限から、遠方の家族や友人などと会えない状況が負担となっていることがわかります。

次いで頻出頻度の多い「人」からのつながりをみると「少ない」「機会」「交流」「地域」、その先には「行事」「中止」「活動」へ続いており、地域の行事や活動の中止による地域交流の機会の減少が課題となっていることがわかります。

#### 【介護に関する回答(一部抜粋)】

#### 回答内容

介護ばかりでリフレッシュの場がなくなった

昨年末に病院を退院し、軽度認知症の義母の介護。デイサービスを週2回利用しているが、共働きでもあり、とても大変

父の介護で有料施設に入所で負担増

主人の介護が必要で他県から子供が来ることができないこと。介護にお金がかかること

主人が介護を必要としているが、コロナのため近所の人にお願いすることをためらっている。周りの人はいつでも手伝うとは言ってくれるので、本当はありがたいと思っている

勤務時間の減少でパートの収入が減った。家にいる時間が長くなったので光熱費が増えた。感染症対策のための衛生用品の購入費がかさんでいる。県外へ行く用事があるが、介護施設の利用が思うようにできない(2週間自宅で自粛をしないといけない)。 仕事も休まざるを得ない。収入が減る。介護の負担増

#### 【子どもや友人との交流に関する回答(一部抜粋)】

#### 回答内容

コロナで子供との交流ができない

友達との外食や会話が少なくなった

家族に会えない(県外の親や子供)

他地域へ進学している大学生の子供に会いに行かれない

県外に住んでいる子供たちが田植え、稲刈りと帰省して手伝ってくれていた作業が高齢者二人でしなくてはならない

家族ががんで入退院を繰り返しているため、県外、市街の移動制限があり、子供が自由に帰省できない。また面会ができないので患者の状態(様子)がわかりづらい

子供(娘2人)を他県に嫁がせたので、相談する人がいない。美祢市に実妹がいるが、勤めているので急用の時や体調の悪い時もすぐに来てもらえない

子供家族が罪悪感を持ちながら帰省すること。コロナでの外出制限、交流制限はこのままで良いのだろうか

4月大阪に孫が誕生したが、いまだに会えていない

#### 【地域交流に関する回答(一部抜粋)】

#### 回答内容

地域のサロンが延期になり、寂しい限りである。子供が県外にいるため、子供や孫に会えないのが悲しい

自治会において祭りの際の会合などができない。子供や孫に会えない。精神的に疲れて来た

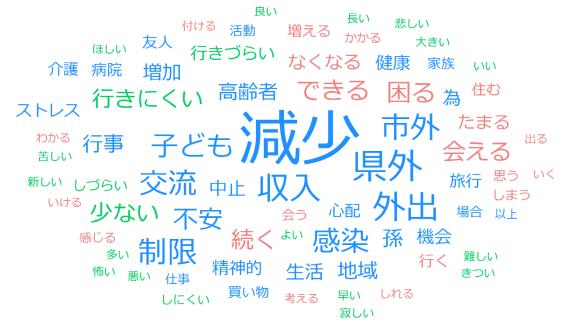
今まで活動して来たサークルが中止や休みが多くなり、家庭にいる日が多くなった。近所や仲間同士の会話がかなり減って来たこと 3密を避けるために集会など集まることが少なくなっている

県外在住の子供や友人となかなか会うことが困難になっている。旅行も思うように行かれない

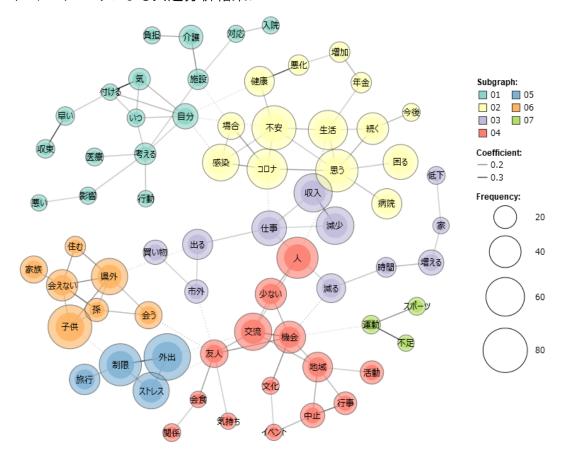
お祭りや駅コン、コンサートなどが中止になり、楽しみが減った

お祭りや敬老会などの中止

問 33-2 コロナ禍が今後 1 年続いた場合に困ることについて、具体的にお答えください。 (FA) <テキストマイニングによるワードクラウド結果>



<テキストマイニングによる共起分析結果>



問 33-1 の共起分析結果と比較して、「収入」「減少」「仕事」が大きくなっており、コロナ禍が今後も続いた場合は 経済的な不安を抱える人が多くなると考えられます。

また、「不安」「健康」のつながりもみられ、特に「健康」は「悪化」と強い共起関係にあります。「不安」は「生活」「続く」「今後」ともつながっており、今の生活が続いた場合は健康不安も大きくなることが予測されます。

#### 【経済的な不安に関する回答(一部抜粋)】

#### 回答内容

経営の行き詰まりによる破綻

経済の悪化による収入減、支出の増加は避けられないと思う

スポーツ大会など中止が続けば、飲料、弁当などの売上が少なくなる

コロナが収束しなければ会社の事業が危ぶまれる。収入の減少もしくは失業につながる。そうなった場合、転職しなければならないが、働き先がない

今後一年続くと生活が苦しくなる。年金も少しづつ減っている。介護保険料も上がっている

収入減が続くと生活が成り立たない

病気などで医療費が増えるのではないか

市中感染が増えて外にも出られなくなるのではないか

まだまだ働くことのできる体なので、失業して年金生活では今の生活ができない

身内の入院(介護)費用その他を全て支払っている。面会制限にて本人の同意がなく口座が不明

仕事に影響が出て失業するかもしれない。この地域は仕事がない

年金や保険料などの支払い額は収入が減っても変わらないので困る

収入の減少に加えてマスクなどの感染対策に必要なも物による支出の増加で、金銭面の不安がある

家で過ごすことが増え、子供へのおやつ代など食費がコロナ禍の前より増えているので、このままだと食費や光熱費などにおいて 支出の増加が懸念される

飲食店の危機にばかり支援があり、他の事業が蔑ろにされている。生活を確保しなければ未来がない。収束後の増税があっても良いので、現状を乗り切れるように給付金や簡易的貸付の支援がほしい

収入が不安定で予測不可能。給付金ももらえない。自分自身が感染したら仕事もできず、健康悪化

飲食店のため、影響はひどい。外食が悪いような表現をされるため、売り上げが低下

今はまだ前年度と同様、きちんとした収入があるが、このコロナが今後1年続くと収入の保障がきちんとあるのか心配だ

コロナが増えて商品など売れなくなったら勤務時間が少なくなったりして収入が減るかも

#### 【健康悪化に関する回答(一部抜粋)】

#### 回答内容

精神的な発散ができない中で、心身への影響が心配である

自分自身がコロナに感染することを考えてしまうことがある。ネガティブな考えが定着し、精神的なダメージの影響を心配している 現在母(同居)の介護、実弟(下関市在住)の介護。弟に既住病があり、介護サービスを提供している。入退院をしながら一人で生活しているため、私の生活様式が変わり健康面に不安が多大にある

長門市はいまのところ多くの感染者はいないが、体調が悪くても病院に通院することがかなり不安になるのではないかと思う

今のところかかりつけの病院に行けているが、今後長引くと病院へ通院できるかどうか不安であるし、健康状態にも不安を感じる

身体的に老化していく中で、感染しないようにすることが心、体の負担になる

健康の悪化(精神)。うつ病になりやすい。交流の機会が減り、友人との会合、会食が減る。文化交流の習いごとが浅くなる

友達と食事に行かれない。家に閉じこもっているので、体、精神的に参っていく

基礎疾患のある者はどうしても外に出歩きにくくなる

収束しているとは思えないので、ストレスがたまり人とのつながりが不足してしまうので、孤独死や自殺が増えると思う。話もできない

4月頃にはワクチン接種という話もあるが、病気のある自分はどうなのか心配

持病があるため、急に悪くなった時すぐに病院へ入れるか

これ以上続くと子供の精神的障がいのための外出時の強い不安感が1年も続くのかと思うと精神的に維持していけるか自信がない

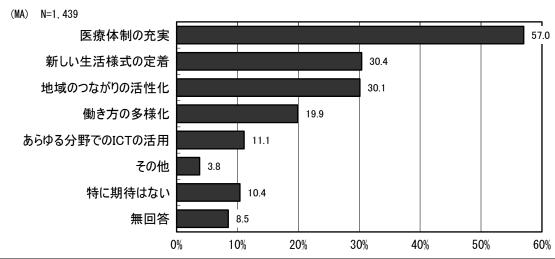
## <テキストマイニングによる単語の出現頻度の比較>

問 33-1 の回答と問 33-2 の回答を AI が比較し、それぞれの頻出単語を示しています。

問33-1にだけ出現	問33-1によく出る	両方によく出る	問33-2によく出る	問33-2にだけ出現
厳しい 激しい 遊ぶ 遣う 聞く	多い マスク 息苦しい 控える 若い 言う 集まる ためらう 避ける	少ない できる 減少 外出 制限 行く 子ども 交流 ストレス 県外 収入 思う 生活 仕事 感染 機会 病院 地域 困る 買い物 旅行 ほしい 難しい 友人 良い 中止 会える 家族 悪い 市外	不安 心配 早い 健康 続く 場合 大きい 精神的 いく 増加 禍 以上 病気 出る よい 新しい 付ける しれる おかしい 会いづらい 強い 失う 変わる	苦しい きつい 死ぬ ひきこもる すい 出歩きにくい 取りにくい 寒い 忙しい 恐ろしい 明るい 正しい 浅い 物足りない 用心深い 薄い 見えづらい 近い 重い

# 問34 新型コロナウイルスの感染拡大収束後に期待することはどのようなことですか。(MA)

「医療体制の充実」が 57.0%で突出しています。「新しい生活様式の定着」が 30.4%、「地域のつながりの活性化」が 30.1%で続いています。



その他回答	類似回答数
以前の生活様式に戻れること	12
社会経済の回復・活性化	8
マスクなしで買い物や外出ができるようになってほしい	2
どこへでも(県外でも)出かけられる生活	2
芸術、文化活動の充実	1
今まで続いて来た(ありきたりな)伝統行事など、普通の日々が過ごせるようになりたい	1
ワクチン、予防接種	1
自営業が元に戻り収入も増えること	1
とりあえず収束してほしい	1
皆が穏やかになること。自分もゆっくりできること	1
旅行に行く	1
コロナを怖がらないで済む生活	1
もっと本気で取り組んでほしい	1

その他回答	類似回答数				
コロナで行かれない県への納骨で早く収まって落ち着きたい	1				
倒産、生活困窮の話が少なくなること	1				
コロナを知ること	1				
問 34、5あらゆる分野でのICTの活用。高齢者はICTの説明が必要だと思う	1				
コロナに対する各自の意識の向上を推進、指導し(行政が)健康な日常生活が送れるよう					
に希望。衛生面など二度と大変な思いをしないように	1				
新たな取り組み。いつも同じような感じがするため	1				
各種イベントの復活	1				
都市計画による商圏の再編	1				
日常生活ができる毎日	1				
収束が考えられない	1				
外食	1				
若者の定住と人口増	1				
若い方へ就職支援	1				

## 年代別×問34

40 歳未満では「働き方の多様化」、40~64 歳では「新しい生活様式の定着」、65 歳以上では「地域のつながりの活性化」の割合が、それぞれ他の年代と比べて高くなっています。

	全体	40歳未満	40~64歳	65歳以上	
	N=1,439	N=144	N=466	N=782	
地域のつながりの活性化	30.1	20.8	21.5	37.1	
新しい生活様式の定着	30.4	30.6	39.3	25.7	
働き方の多様化	19.9	36.8	28.8	11.4	
医療体制の充実	57.0	43.1	57.1	59.1	
あらゆる分野でのICTの活用	11.1	17.4	15.7	7.4	
その他	3.8	4.9	4.5	2.9	
特に期待はない	10.4	12.5	10.1	10.4	
無回答	8.5	0.7	4.7	11.9	

## 世帯構成×問34

子どものいる家庭と生活に困窮している方のいる家庭では「働き方の多様化」の割合がそれぞれ他の世帯構成と 比べて高くなっており、また、子どものいる家庭では「あらゆる分野でのICTの活用」、生活に困窮している方のいる家 庭では「特に期待はない」の割合も他の世帯構成と比べて高くなっています。

	全体 N=1,439	9	子どものい 家庭(乳幼 児、小学生 中学生、高 校生) N=2		55歳以上の 方のいる家 府 N=719	とする方の	障害のある 方のいる家 庭 N=135	方のいる家 所 N=8	生活に困窮 している方の いる家庭 N=21	いずれもい ない N=400
地域のつながりの活性化		30.1	22	2.8	33.2	29.4	25.2	25.0	28.6	29.0
新しい生活様式の定着		30.4	33	8.8	31.6	31.1	29.6	50.0	28.6	29.3
働き方の多様化		19.9	30	0.0	17.4	13.4	17.0	50.0	28.6	20.5
医療体制の充実		57.0	60	).1	60.8	63.0	57.0	25.0	47.6	53.8
あらゆる分野でのICTの活用		11.1	19	0.6	10.4	12.6	12.6	_	9.5	9.0
その他		3.8	4	1.6	3.1	2.5	2.2	12.5	4.8	4.0
特に期待はない		10.4		9.9	10.3	11.8	13.3	12.5	19.0	11.0
無回答		8.5		2.7	7.1	10.9	11.9	12.5	9.5	10.5

# 問3×問34

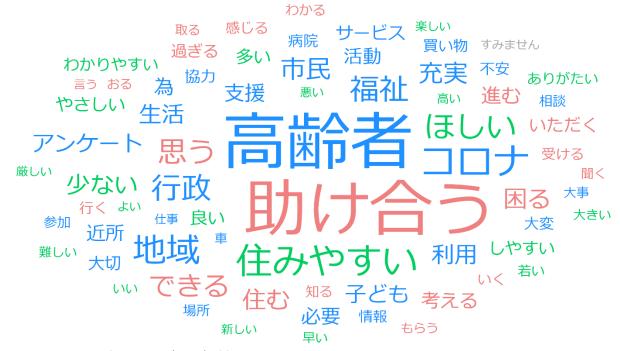
「家族ぐるみでつきあいがある隣近所の人がいる」という人は「地域のつながりの活性化」、「隣近所の人の顔は知っているが、声をかけたことはほとんどない」「隣近所の人はほとんど顔も知らない」という人は「働き方の多様化」「特に期待はない」の割合が、それぞれその他の人と比べて高くなっています。

	全体 N=1,439	きあいがある隣 近所の人がいる	る隣近所の人が	あいさつする程 度のつきあいが ある N=749	が、声をかけた	隣近所の人はほ とんど顔も知ら ない N=28	
地域のつながりの活性化	30.1	44.9	33.7	24.0	25.0	10.7	
新しい生活様式の定着	30.4	33.9	30.3	31.2	16.7	17.9	
働き方の多様化	19.9	19.9	16.1	21.1	27.8	32.1	
医療体制の充実	57.0	66.1	53.6	55.3	61.1	28.6	
あらゆる分野でのICTの活用	11.1	13.7	10.7	10.3	13.9	10.7	
その他	3.8	1.0	5.0	4.7	_	3.6	
特に期待はない	10.4	6.2	9.6	12.0	19.4	17.9	
無回答	8.5	6.2	10.0	8.0	_	3.6	

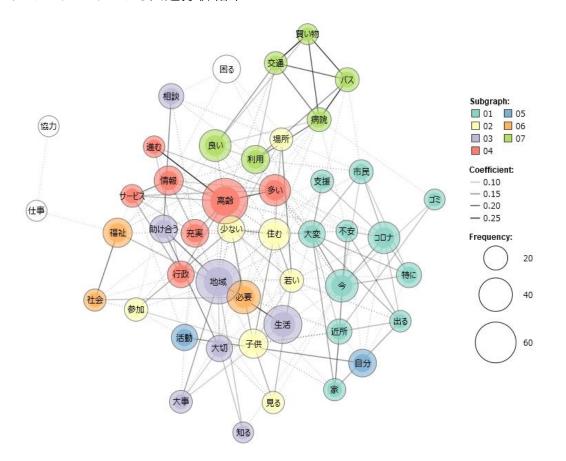
# ご意見・ご提案

問 35 なんでも結構です。ともに助け合う地域づくりについて、ご提言がございましたら、 ご自由にお書きください。(FA)

<テキストマイニングによるワードクラウド結果>



<テキストマイニングによる共起分析結果>



共起分析結果より回答内容の傾向をみると、「高齢」が目立っており、「進む」「多い」の単語と強い共起関係がみられます。また「高齢」からは「充実」「サービス」「情報」「行政」などの単語とつながりがみられ、高齢化が進む中で、行政に対してサービスに関する情報提供の充実が求められていると考えられます。

また「地域」からは「生活」「助け合う」などの単語につながりがみられ、地域生活における助け合いの重要性を認識している人は多いようです。「助け合う」と共起関係にある「相談」については、「充実」「利用」「場所」などとも共起関係がみられることから、相談支援の充実を図る必要があると考えられます。

「交通」については「バス」「買い物」「病院」と強い共起関係にあるほか、「利用」「良い」ともつながりがみられます。また、ここでの「良い」については、回答内容を確認したところ、現状への満足よりも今後の希望として「良くなってほしい」というような意味合いで使われている場合が多くなっています。買い物や通院など日常生活を送るうえで、利用しやすい交通手段が望まれていると考えられます。

#### 【サービスの情報に関する回答(一部抜粋)】

#### 回答内容

高齢者向けのサービス、割引などあれば知りたい。広報やテレビだけではなく、高齢者に直接連絡してもらえたらありがたい 別居の高齢の母が市内にいる。デイサービスやサロンなどに行きたがらない。母は出不精なので在宅を好む。外に出かけるのが 好きな人ばかりではないので、在宅で健やかに暮らす為のホームヘルプサービスをもっと知りたいと思った

行政サービスを多くの人にわかりやすく伝えてほしい

いろいろなサービスや活動を知りたくてもまずどこへどのようにアプローチしたらいいかわからない人が多いのでは。ネットなどの活用も大切だが(ICTも)、やはり広告や広報、情報誌などアナログなものでの発信も必要。わかりにくい内容ではなく、わかりやすいものを提示してほしい(詳し過ぎるも困る。必要最低限の内容で)

福祉サービスにどんなものがあるのか、サービスが必要になった場合、どこに相談してどのような手続きをすればいいのかなどの一覧表があるとわかりやすいのではないかと思う。サービスを必要としている人の事情は個々にさまざまだと思うので、例えばフローチャートなどでこのケースはこの相談窓口に行き、この手続きをするなどが文章を読まなくてもわかるようになっていれば、情報や知識に乏しい人にも理解しやすいのではないだろうか。相談窓口に相談することは結構ハードルが高いと感じるので、事前にある程度、簡単に情報を得られると安心して相談ができると思う

#### 【地域の助け合いに関する回答(一部抜粋)】

#### 回答内容

昔は助け合っていたが、現在考えなどは変化している。地域性があり、助け合いが困難な場合がある。どこまで介入したら良いのかわからない。肩書などあれば違ってくるのかも

人との交流が少なくなり、他人は関係ないと思われる時代、一人で生きている訳ではないので、お互いに思いやりの気持ちはいつ の時代も変わってほしくない。助け合って人々が生活できる、それが当たり前の時代になってほしい。町も老齢化して人口も少なく なる地域としてはなおさらのことである。身体的、精神的に健康であることが大切だと思う

皆さん頭ではとても良いことだとわかってはいるが、参加や利用は少ないと思う。大切なことは声をかけあうことだと思う。それぞれがいろいろな立場や場面でお互いに声をかけあって共に助け合う地域づくりになるといいと思う。 福祉関係や長門市社会福祉協議会の方にもこれからも頑張ってほしい

助け合う機会を行政側が推進していくこと

気楽に気軽に助け合いと言いに(相談しに)行けるところがあればいい。どこに聞けばいいかわからない。あるのかもしれないが、 相談場所を紹介してくれるところがあると迷わずそこに行ったり、代わりに行って聞いてあげられたりできる

コロナで大変な時で、人との接触ができない状況下でも、市民一人ひとりが助け合ってこの状況を乗り越えなければいけない。その為には行政の支援も重要と考えられる

高齢化が特に進んでいる地域での助け合いも重要だと思う

遠くの親戚より近くの他人というように近所付き合いがとても大切だと思う。その中でもいろいろと人間関係があり、難しいこともあるが、同じ自治会の中で助け合い、生活していくことが大切だと思う

同じ地域に30年以上住んでいるが、生活様式、地域行事などさま変わりしてきている。課題の「ともに助け合う地域づくり」の実現に向け、個々の気持ちが同方向に向くことを願っている

近所の人たちと仲良く話し合う。いやなことがあったら仲良しの人に話して色々と助け合っている。若い時は思わなかったけれど、 年を取ると友達がほしくなる。今仲の良い人がいるので私は幸せである。永久に仲良く過ごしていきたいと思う

助け合うことも大切だが、必要以上にぐいぐい来る方もいる為、どうにかしてほしい

ともに助け合うと言われても具体的には方法がわからない。こんな場合はこの電話番号へと伝達をしてほしい。同じ地区の人には 相談しにくい

#### 回答内容

ともに助け合う地域づくりはこれからもっと高齢者社会になるので重要だが、私自身関わらなくてはいけない、参加しなくてはいけない と思いながら積極的な参加に戸惑ってしまう。人と人とのつながりが深められるようにみんなで考える地域づくりができたらいいと思う 2階より上階が高齢者施設、1階はデイサービスなどと食堂の併設で子供から大人、高齢者、障がい者が集うことのできるスペースがあれば交流も深まり、助け合う心も芽生えると思う

高齢化の進む地域ではお互いに地域で助け合うというよりは行政で仕組み作りが重要だと思う

高齢化が進み、老人が老人を助け合う地域になりつつある。若者の助けが必要だが、その若者も減りつつある。地域に市の職員の方もいらっしゃるのだろうか。休みの日などは協力してほしい

少子化になり、近所はほとんどが一人暮らしの高齢者のみ。近所の連携も大切だが、年齢的に助け合うのも無理な状況が目の前にある日々。互いの生存を確認する術は不安である。民生委員も軒数が多いので、あまり立ち寄れない現状である

#### 【交通に関する回答(一部抜粋)】

#### 回答内容

高齢の為免許証を返したいのだが、タクシーを利用するには高過ぎるし、列車を利用するには駅まで遠過ぎるのでいまだに返せなくて自家用車を利用して病院や買い物に出かけている。返した者へのサービスとしてタクシー代の半額を行政で考えていただくとありがたい

高齢者に免許返納を勧めているが、その際の具体的な特典など情報がわかりづらい。過疎地域の現状を把握し、公共交通を充実させていただくことを望む

高齢者の免許証返納のことだが、交通チケット(くるりんバス)、タクシー券など、何かあれば返納しやすいきっかけになるのではないだろうか。買い物、通院などの足になるものがないので考えることがある

65歳以上の年金生活者で年収 150万円以下の一人世帯の人の公共施設、デマンド交通の使用料金を一律 300円のカードを作って(市内のみ)発行してほしい

長門市が「住みやすい、良い市になるよう」考えてくださっていると思う。高齢者も子供もますます住みやすい市になるように願う 交通の件だが、美祢線から乗り換えで下関方面に通学で利用している。待ち時間が長門駅で 20 分ある。スムーズに利用できるようになるといいと願う。せめて部活帰りの時間帯のみでもお願いしたい。一番困っている

今車の運転はできて、あちこち外出できるが、何年後かには免許を返納しなければならない。車がなければ外出もできず、家に閉じこもりになるのではと心配する。年配でも気軽に外出でき、食事もできるような交通手段があれば良い。近所にスーパーもなく、車で 10 分も行かなければないなど不便である

無料、または 100 円程度の料金で利用できる福祉バスを通してほしい。公共交通のバスは運賃が高く、本数が少ない 各スーパー、病院、ドラッグストア、道の駅などに止まり、30 分間隔で利用できればありがたい

私は市の中心部に住んでいるので、病院やスーパー、仕事場などが近く、車の運転もできるので交通の便も良く、助かっている。 だが実家が津黄なので、坂道が多く、高齢で足の悪い両親が心配である。周りにスーパーなどもなく、重い荷物も持つのが大変である。そのようなところに住んでいる人が助かる地域づくりをしてもらえたらうれしい

鉄道などの交通が不便なので、他の都市との便が悪く、改善してほしい

大阪や福岡、瀬戸内側に出るだけでも車がないとどこへも行かれない

長門市内はいいのだが、買い物が雪でできないので困っていると聞き、移動スーパーがほしい

免許を返納したあと、交通の便が心配である。マイクロバスの運行をお願いしたい。病院の通院に困る。バス代は高いと思う

交通網の充実、障がい者の外出援助(リフト車の充実)

高齢者にとって病院への通院の機会は増す一方であるが、自家用車が運転できなくなったらと思うと不安は増すばかり。いつでも 気軽に安価で利用できる交通手段の整備、充実を切望する